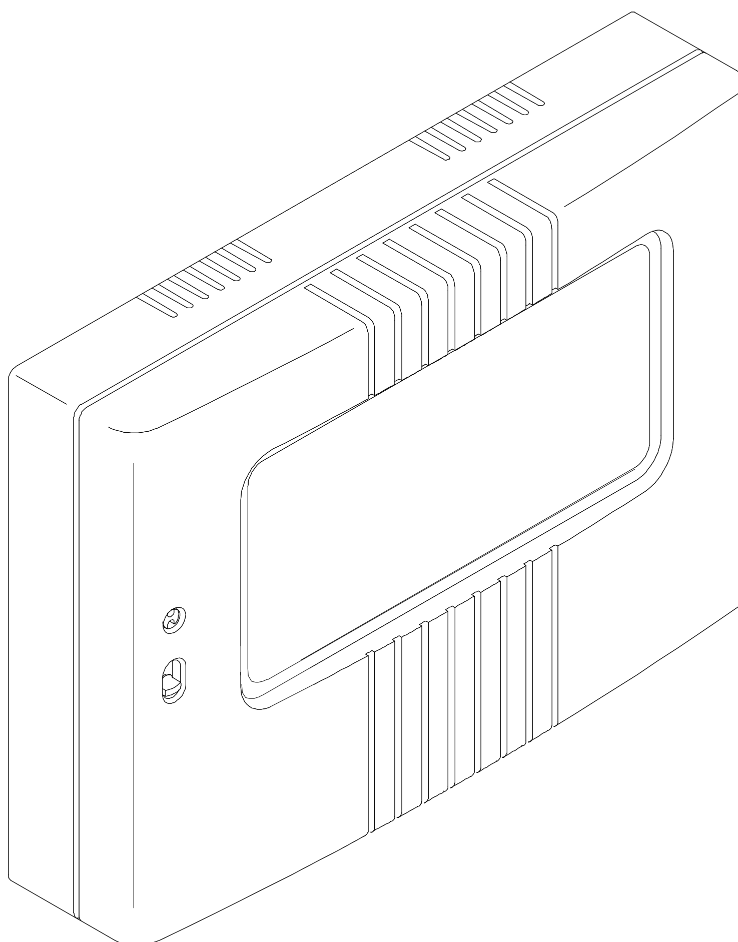
TAKEX

ＳＣ－８５Ｘ２
セキュリティ自動通報装置

取扱説明書





竹中エンジニアリング株式会社

Ｎｏ．７４５２４０６－５Ｅ

はじめに

ＳＣ－８５Ｘ２をお買い上げいただきありがとうございます。

この製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をお読みになり十分にご理解ください。

なお、本書に記載されている“ＳＣ－８５Ｘ”は“ＳＣ－８５Ｘ２”に読み替えてください。

お読みになったあとは、いつも手元において ご使用ください。

本書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
・ＮＴＴは、日本電信電話株式会社の商標です。

ご使用に際してのお願い

以下に示す条件や環境で使用する場合は、定格・性能に対して余裕を持った使い方やフェールセーフなどの安全対策にご配慮いただくとともに、当社営業担当者までご相談ください。

（1） この取扱説明書に記載のない条件や環境での使用。

（2） 原子力制御・鉄道・車両・航空・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器などへの使用。

（3） 人命や財産に大きな影響が予測され、特に安全性が要求される用途での使用。

本書の内容について

（1） 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複製することは禁止されています。

（2） 本書の内容に関しては、改良のため予告なしに、仕様などを変更することがありますのでご了承ください。

（3） 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきのことがございましたら、お手数ですが巻末記載の当社営業所へご連絡ください。その際、表紙記載の取扱説明書№もお知らせください。

安全上のご注意

● 安全に使用していただくための表示と意味について

この取扱説明書では、ＳＣ－８５Ｘを安全に使用していただくために、注意事項を次のような表示と記号で示しています。

ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守ってください。

表示と記号は次のとおりです。

	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示します。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

● 図記号の説明

	△記号は、注意（警告を含む）を示します。 具体的な内容は△の中と文章で示します。 左図の場合は「破裂注意」を示します。
	△記号は、注意（警告を含む）を示します。 具体的な内容は△の中と文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
	⊘記号は、禁止を示します。 具体的な内容は⊘の中と文章で示します。 左図の場合は「分解禁止」を示します。
	⊘記号は、禁止を示します。 具体的な内容は⊘の中と文章で示します。 左図の場合は「一般的な禁止」を示します。
	△記号は、注意（警告を含む）を示します。 具体的な内容は△の中と文章で示します。 左図の場合は「一般的な注意」を示します。
	●記号は、強制(必ず守っていただく行為)を示します。 具体的な内容は●の中と文章で示します。 左図の場合は「特定しない一般的な使用者の行為」を示します。

● 警告表示

⚠警告	
分解、加圧変形、100°C以上の加熱、焼却はしないでください。 リチウム電池を内蔵しており、発火、破裂の恐れがあります。	

※リチウム電池は本体に内蔵されています。第 8 章で説明している停電用内部電池とは異なりますので廃棄時にはご注意ください。

⚠注意	
●感電注意 通電中は端子に触れないでください。 感電の恐れがあります。 また、通電中はドライバーでの接触もしないでください。 ドライバーを介して感電の恐れがあります。	
分解したり、修理・改造はしないでください。 感電・火災や故障の原因になります。	
製品の中に金属片や導線の切りくずを入れないでください。 感電・火災や故障の原因になります。	
引火性、爆発性ガスのあるところでは、ご使用にならないでください。	
出力リレーの寿命は、開閉容量・開閉条件により大きく異なるので必ず実使用条件を考慮し、定格負荷・電気的寿命回数内でご使用ください。 寿命を超えた状態で使用すると接点溶着や焼損の恐れがあります。	
負荷は定格以下でご使用ください。 破損・焼損の原因になります。	
電源電圧は仕様の範囲内でご使用ください。 破損・焼損の原因になります。	
本機の各種設定値は、監視対象に合わせて正しく設定してください。設定内容と監視対象の内容が異なる場合には、意図しない動作により装置の破損や事故の原因になります。	
本機の故障時にも安全なように、別系統で監視機器を取り付けるなどの安全対策を行ってください。	
端子台のネジは確実に締め付けてください。 ネジが緩むと、故障・誤動作の原因になります。	

お願い

● 以下に示す項目は、安全を確保するために必ず守ってください。

(1) 使用しない端子には何も接続しないでください。

(2) 端子番号および極性を確認し、正しく配線してください。
誤配線すると、内部の部品破壊・焼損の原因になります。

(3) リアルタイム制御用途には、遠隔出力機能、警報出力機能を使用しないでください。

(4) 下記の環境では使用しないでください。

- 塵埃、鉄粉、爆発性ガス、引火性ガス、腐食性ガス(特に硫化ガス、アンモニアガスなど)のあるところ
- 湿度が高く結露・氷結の恐れのあるところ
- 屋外または直射日光があたるところ
- 振動、衝撃の影響が大きいところ
- 静電気やノイズの影響を受けるところ
- 冠水、被油のあるところ
- 加熱機器から輻射熱を直接受けるところ
- 温度変化の激しいところ

(5) 清掃について： シンナー類は使用しないでください。
市販のアルコールを使用してください。

(6) 電源はＳＣ－８５Ｘの電源仕様に合わせて、AC100V あるいは、
停電用外部電池を使用してください。

(7) 仕様範囲内の温度および湿度で使用してください。
ＳＣ－８５Ｘを盤内に設置する場合は、盤の周囲温度ではなく
ＳＣ－８５Ｘの周囲で 55℃を超えないようにしてください。

(8) 仕様範囲内の温度および湿度で保存してください。

(9) 使用時、保存時いずれの場合もＳＣ－８５Ｘに変形、変質をきたす荷重を加えないようにしてください。またあやまって落下させないでください。

(10) 過度な外力が加わったり、足場となる場所に設置しないでください。

(11) ＳＣ－８５Ｘ取り付け時には両面テープ、接着剤などは使用せず、必ず付属のネジにて確実に締め付けてください。

正しい使い方

● この製品の使用に当たっては、つぎのことにご注意ください。

(1) この製品は電話回線を利用した通報装置です。回線のトラブル、電波障害等により万一通報できなくても、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。

(2) 本体の電源ランプが点灯していないときは通報できません。電源コードが抜けていたり、長時間停電した場合は、停電保証用電池が放電して、電源ランプが消灯し通報できませんので、ご注意ください。

(3) 監視中ランプ点灯時のみ通報します。監視時間帯を設定した場合で、監視中ランプが消灯している間は、異常が発生しても一切通報しませんのでご注意ください。

(4) この製品がそのまま接続できる電話回線はアナログ2線式の電話回線だけです。ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホンなどの場合は、NTTの電話回線と電気的条件が異なるため、この製品をこれらの回線に接続すると、故障の原因になることがあります。接続する前に、電話装置メーカや保守業者にご相談ください。
また、アナログ2線式電話回線でも発信者番号通知、キャッチホンサービス、転送サービス等のサービスを利用されていた場合、正常な通報ができない場合がありますのでご注意ください。
デジタル回線には、ターミナルアダプタ(TA)を使用することにより接続できる場合があります。

(5) PBX内線でご使用頂く場合、回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じでなければなりません。呼出信号や電圧、周期、ダイヤルトーン(発信音)、リングバックトーン(呼出音)、ビジートーン(話中音)などについては、NTTの仕様に準拠している必要があります。これらの仕様がNTT回線と異なる場合、また、PBX内線に接続することでリングバックトーン等の応答遅れにより、SC－85X2がこれらの信号を認識できないことがあります。基本的にこの製品では、極性反転がない回線にも接続できるように設計されていますが、PBX内線でご使用頂く場合でも上記応答信号遅れ等も考慮し、極性反転の有る回線でご使用頂くことをお奨め致します。極性反転の有無等詳しくは、PBXの製造メーカや保守業者に問合せてください。なお、極性反転が無い回線でご使用頂く場合は、接続されるPBXで各種通報試験等を実施の上、ご使用ください。

(6) ノイズを発生している周辺の機器(特にモータ、トランス、ソレノイド、マグネットコイルなどのインダクタンス成分を持つもの)には、サージアブソーバやノイズフィルタを取り付けてください。

(7) 誘導ノイズを防止するために、本体の端子台の配線は、高電圧・大電流の動力線とは分離して配線してください。また、動力線との平行配線や同一配線を避けてください。
配管やダクトを別にする、シールド線を使用するなどの方法も効果があります。

(8) 電源にノイズフィルタを使用する場合は、電圧と電流を確認した上でSC－85X2にできるだけ近い位置に取り付けてください。

(9) 日本国内専用です。国外での使用はできません。
This product is marketed only in Japan,the use outside of Japan is not guaranteed.

(10) この製品は、電話回線を経由して専用センタから設定(ダウンロード)、設定の読み出し(アップロード)、及び監視開始／解除制御が可能です。特に以下の点に注意してください。

- 専用センタから設定変更された場合は、必ずテストを実施し、変更を確認してください。
- 専用センタから設定変更する際、センタ着信時ダウンロードに設定されていると、センタが通報着信時に設定を行います。設定変更がリアルタイムではありませんので、ご注意ください。
- 専用センタから監視開始／解除制御が可能ですので、設置されている現場の監視制御との競合に注意してください。
- 専用センタから端末着信時にダウンロード及びアップロードする場合、現状確認を「スル」、呼出回数を「10回以内」に設定し、SC－85X2が着信できる様にしてください。また、併設される電話、FAXの着信回数等にはご注意ください。
- 通報先種別に“データ”が存在する場合は、現場№5桁としてください。専用センタから通報先に“データ”が存在する設定でダウンロードされると、自動的に5桁に変わります。
- 専用センタから時刻を設定される場合、センタ側パソコンの時刻に合わせることとなり、SC－85X2の時刻が自動的に変わることもありますので、ご注意ください。
- 専用センタで管理されている暗証番号を本体のキー操作、もしくは、DTMF操作により変更してしまった場合、センタからの設定変更ができません。暗証番号の管理には十分ご注意ください。
- 以下の設定項目は、センタ着信時のダウンロードでは設定変更できませんのでご注意ください。(回線種別、暗証番号関係、セキュリティ関係、送出レベル、遠隔監視解除)
- 本体はダウンロードにより設定変更された後、リセットします。従って、異常が入力されている状態、及びセキュリティモード下で監視開始状態の場合、ダウンロードにより設定変更されると、再度、異常通報、監視開始通報を行うことがあります。

梱包箱の中身

梱包箱に入っているものは次のとおりです。すべて揃っているかご確認ください。
もし、不足していたり、破損していたら、すぐにお買い求めの販売店にご連絡ください。

名称	個数	備考
本体	1	
取扱説明書（本書）	1	
キー	2	
メンテナンスボタン用目隠しシール	5	

※モジュラーケーブルは付属されておりません。

目次

第1章　概要

ＳＣ－８５Ｘについて、特長となる機能の概要や各部の名称などを紹介します。

1-1 ＳＣ－８５Ｘ２のおもな機能（特長）

ＳＣ－８５Ｘ２は電話回線を利用したローカル監視型通報装置です。
現場の異常をＳＣ－８５Ｘ２への接点入力として、遠隔地へ音声、データ通報する装置です。
ＳＣ－８５Ｘ２には、おもに次のような特長があります。

■一般加入電話回線に接続できます。

現在ご使用の電話機に接続できますので、電話回線の新設が不要です。

■１台で８点までの異常入力を通報できます。

設備機器の点数に応じて最大８点まで監視できます。
また、各入力ごとに通報先の選択ができます。

■通報先は５ヶ所まで登録できます。

簡単なキー操作で通報先が最大５ヶ所まで登録できます。
また、通報先ごとに電話（音声通報）、パソコン（データ通報）の選択ができます。

■異常通報を記憶します。

過去２９回までの異常入力情報を記憶していますので、異常原因の調査に役立ちます。

■誤発報防止機能を持っています。

入力の判定時間は各入力ごとに可能で、チャタリングやノイズによる誤発報を防止できます。

■音声で通報できます。

音声機能をもっていますので、電話機にも通報できます。
また、お客様にて任意にメッセージを録音、確認することができますのでわかりやすい異常通報が可能です。

■異常入力状態を外部から確認できます。

現状確認機能を持っていますので、電話またはパソコンから電話をかけることにより現在の異常状態を音声またはデータで確認することができます。

■停電通報機能を持っています。

停電検出回路と停電補償用電池を内蔵していますので、停電発生後もしばらくの間通報ができます。

■監視時間帯を設定できます。

監視時間帯を設定できますので、深夜や勤務時間中などの通報を抑制できます。

■遠隔出力（制御）ができます。

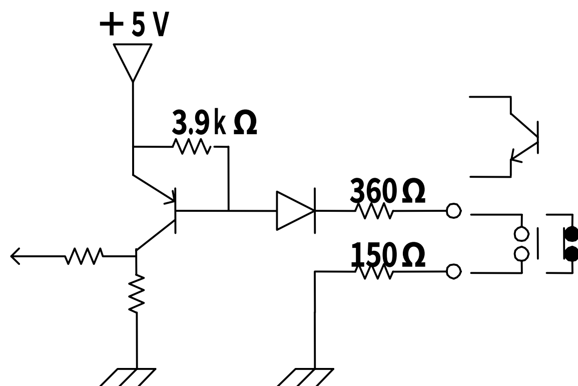
遠隔から電話（ＤＴＭＦコマンド）により、リレー出力のオン、オフ制御ができます。
出力保持、出力解除、本体または、遠隔により指定した時間、遠隔出力を制御することができます。

■電話回線を経由して専用センタから設定（ダウンロード）、設定の読み出し（アップロード）、及び監視開始／解除の制御が可能です。

・専用センタを使用することで、ＦＳＫ通信にてセンタ発呼時とセンタ着信時の設定（ダウンロード）が可能です。
・専用センタを使用することで、設定の読み出し（アップロード）が可能です。
・専用センタを使用することで、ＦＳＫ通信により監視開始／解除制御が可能です。
・暗証番号を使用することでセキュリティ性が向上します。

1-2 入出力回路

■ 入力回路



●トランジスタ入力

ON時残留電圧	1V以下
OFF時漏れ電流	0．1mA以下
負荷電流	7mA以上

●接点入力

インピーダンス	10Ω以下

■ 出力回路

遠隔出力端子、警報出力端子ともに、

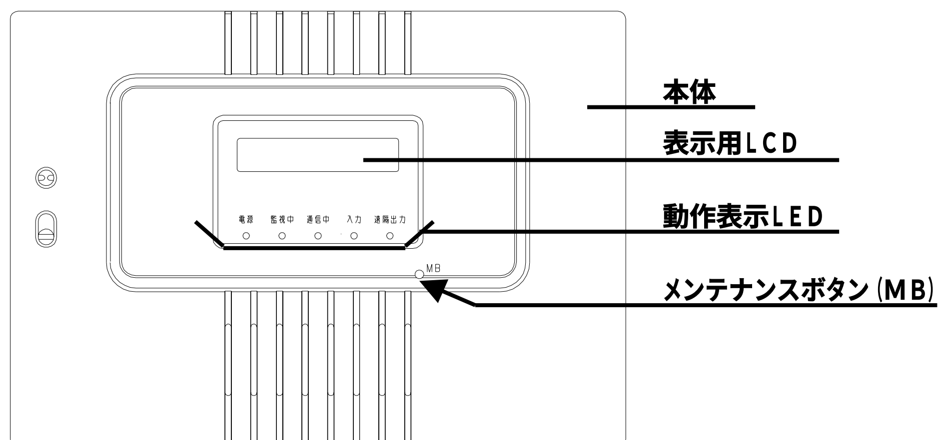
無電圧接点出力

AC250V　2A

DC30V　2A

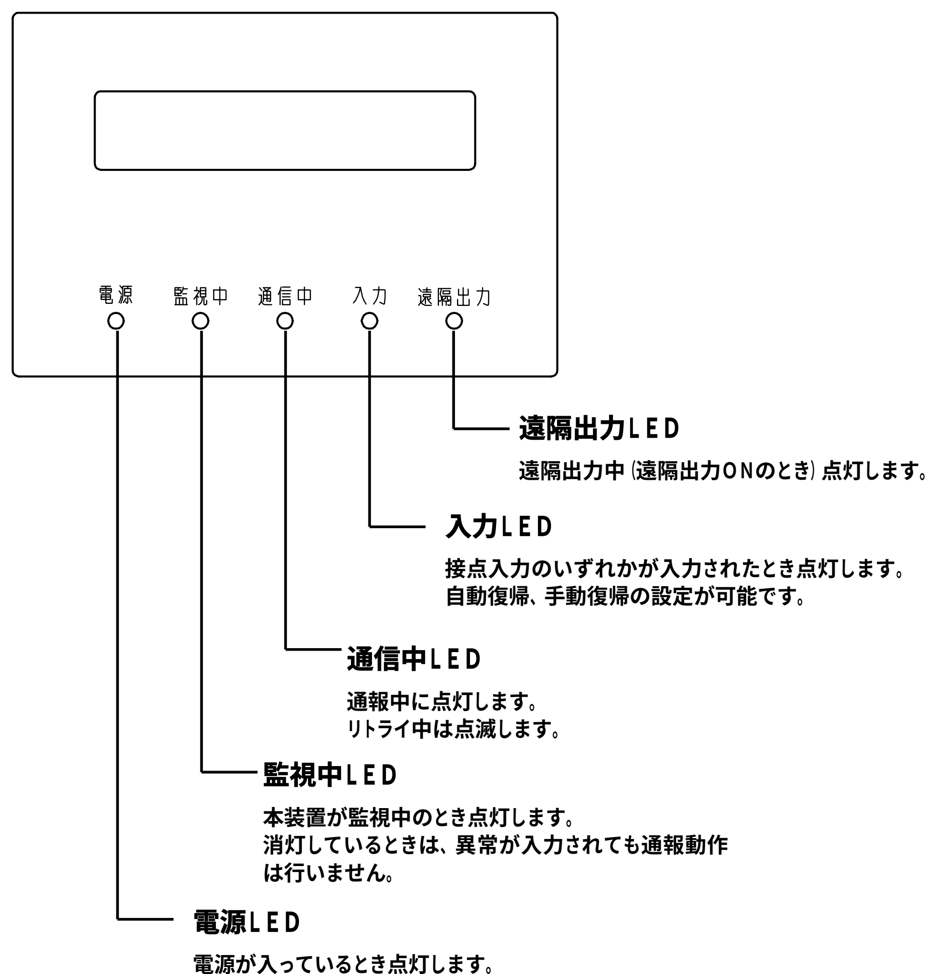
1-3 各部の名称と働き

●全体

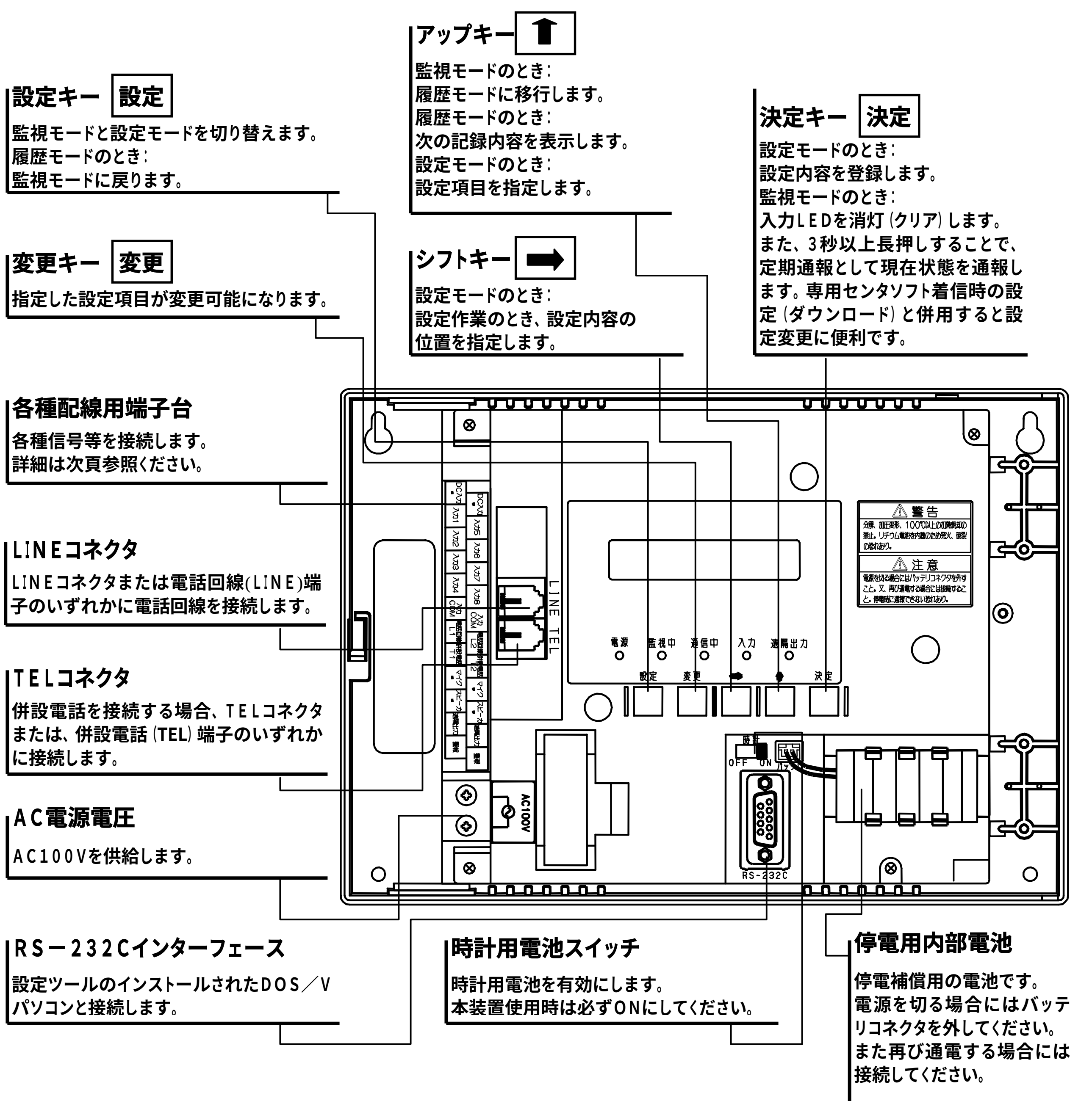


※ 定期通報として現在状態を通報したい場合には、目隠しシールを剥がして中の決定キーを3秒以上長押ししてください。
専用センタソフト着信時の設定（ダウンロード）と併用すると設定変更に便利です。
通報させた後、また、通常使用時は異物混入防止の為、目隠しシールを貼り付けてご使用ください。

●動作表示部



●カバー内部



設定キー 設定
監視モードと設定モードを切り替えます。
履歴モードのとき：
監視モードに戻ります。
変更キー 変更
指定した設定項目が変更可能になります。
各種配線用端子台
各種信号等を接続します。
詳細は次頁参照ください。
LINEコネクタ
LINEコネクタまたは電話回線(LINE)端子のいずれかに電話回線を接続します。
TELコネクタ
併設電話を接続する場合、TELコネクタまたは、併設電話(TEL)端子のいずれかに接続します。
AC電源電圧
AC100Vを供給します。
RS－232Cインターフェース
設定ツールのインストールされたDOS／Vパソコンと接続します。
アップキー
監視モードのとき：
履歴モードに移行します。
履歴モードのとき：
次の記録内容を表示します。
設定モードのとき：
設定項目を指定します。
シフトキー
設定モードのとき：
設定作業のとき、設定内容の位置を指定します。
決定キー 決定
設定モードのとき：
設定内容を登録します。
監視モードのとき：
入力LEDを消灯（クリア）します。
また、3秒以上長押しすることで、定期通報として現在状態を通報します。専用センタソフト着信時の設定（ダウンロード）と併用すると設定変更に便利です。
時計用電池スイッチ
時計用電池を有効にします。
本装置使用時は必ずONにしてください。
停電用内部電池
停電補償用の電池です。
電源を切る場合にはバッテリコネクタを外してください。
また再び通電する場合には接続してください。
LINE TEL
電源 監視中 通信中 入力 通隔出力
設定 変更 決定
AC100V
OFF ON
RS-232C
警告
注意

●各種配線用端子台（詳細）

端子拡大図

DC入力 +(13)	入力5 (14)	入力6 (15)	入力7 (16)	入力8 (17)	入力 COM (18)	電話回線 L2 (19)	併設電話 T2 (20)	マイク +(21)	スピーカ +(22)	遠隔出力 (23)	警報 (24)
DC入力 −(1)	入力1 (2)	入力2 (3)	入力3 (4)	入力4 (5)	入力 COM (6)	電話回線 L1 (7)	併設電話 T1 (8)	マイク −(9)	スピーカ −(10)	遠隔出力 (11)	警報 (12)

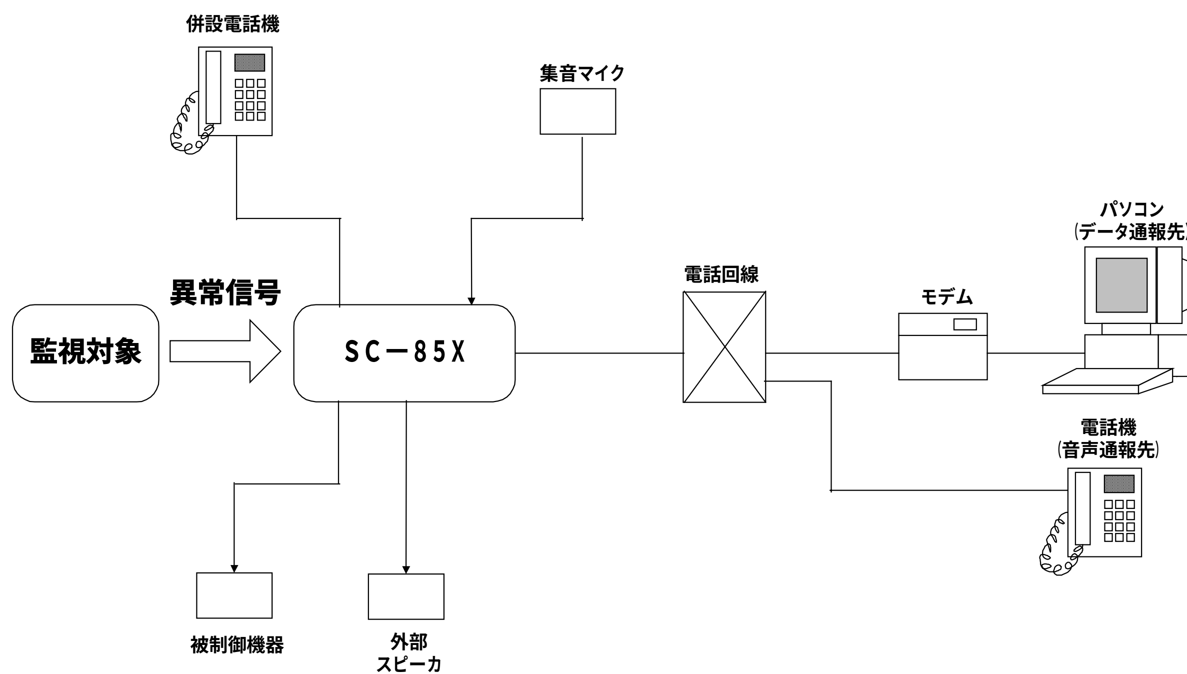
※注
実際のラベルには端子番号は入っておりません。

端子名称	端子No.	働き
停電用外部電池端子	(1)、(13)	停電用外部電池よりDC電源を供給します。
接点入力端子	(2)～(5) (14)～(17)	無電圧接点出力またはトランジスタのオープンコレクタ出力を接続します。
接点入力COM端子	(6)、(18)	この端子と各接点入力端子間に入力を接続します。
電話回線（LINE）端子	(7)、(19)	LINEコネクタまたは電話回線(LINE)端子のいずれに電話回線を接続します。
併設電話（TEL）端子	(8)、(20)	TELコネクタまたは併設電話(TEL)端子のいずれに電話回線を接続します。
マイク端子（+） マイク端子（−）	(21) (9)	集音マイクを接続します。
スピーカ端子（+） スピーカ端子（−）	(22) (10)	外部スピーカーを接続します。
遠隔出力端子	(11)、(23)	遠隔出力ON時には遠隔出力端子が閉となります。また、遠隔出力制御コマンドによりON/OFF切換が可能です。
警報出力端子	(12)、(24)	警報出力ON時には警報出力端子が閉となります。また、接点入力のいずれかが入力されたときにONします。OFF条件は設定により、自動と手動が選択できます。

第2章　システム構成

ＳＣ－８５Ｘのシステム構成について紹介します。

2-1 ＳＣ－８５Ｘタイプ



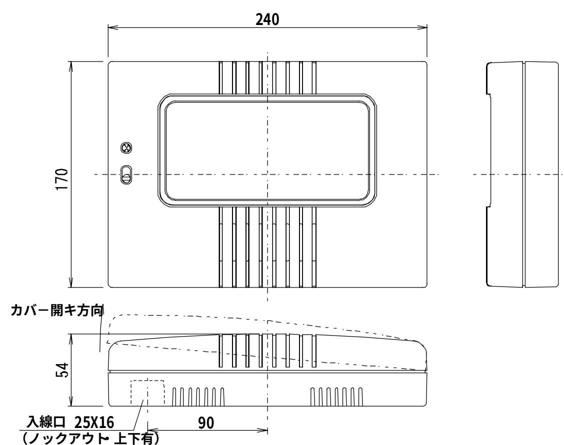
ＳＣ－８５Ｘのシステムでは、
異常信号発生時、電話への音声通報、パソコンへのデータ通報を行うことができます。
また、電話およびパソコンによる現状確認を行うことができます。

第3章　準備

取付け、配線など電源を入れる前の作業について説明します。

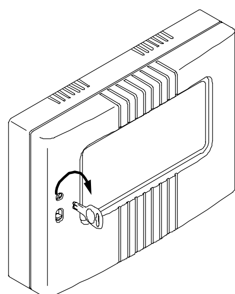
3-1 取り付け

■ 外形寸法

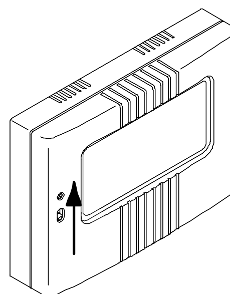


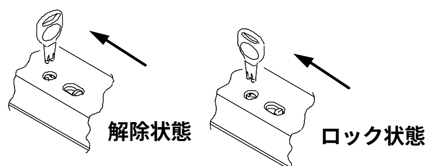
■ カバーをあける

①ロックピンを付属のキーで回して、
ロックを解除する

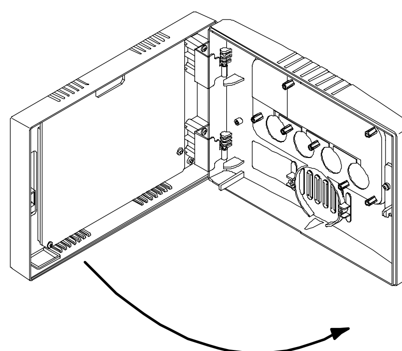


②ロックレバーを上にあげる





③ケースをひらく

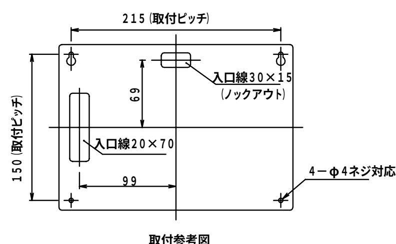


■ 本体を取り付ける

ネジで本体を確実に取りつけます。

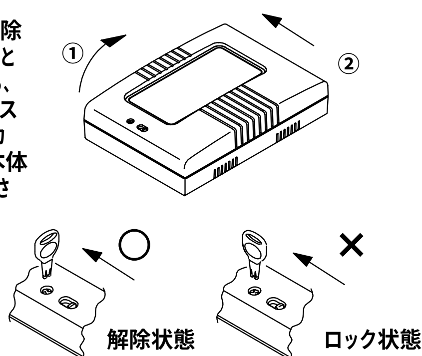
盤内に取り付けるときは、図のように取り付け穴を加工してください。（別途M4ネジが必要）

①盤内に取り付けるときは、図の様に
取り付け穴加工してください。

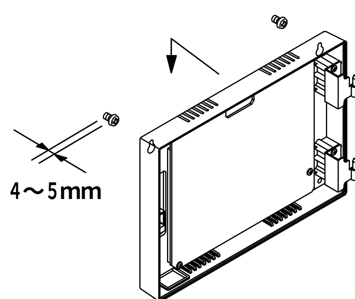


取付参考図

②ロックピンが解除になっていることを確認してから、ロックレバーをスライドさせて、カバーを開け、本体と分離してください。

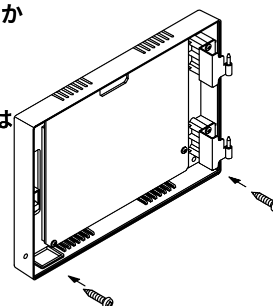


③タッピングネジ2本を上部2ヶ所に首下4～5mmまでねじ込み、本体上部のダルマ穴に引っ掛けてください。
※水平方向の取付ピッチは215mmです。

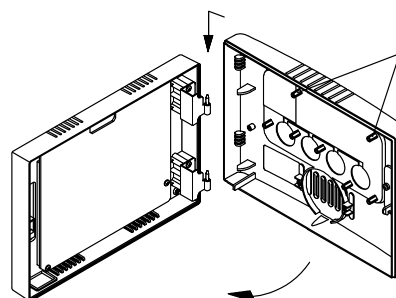


④本体下部の穴にもネジを取り付けてすべてのネジをしっかり締め付けてください。

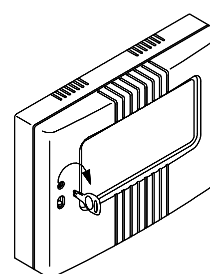
※垂直方向の取付ピッチは150mmです。



⑤本体のヒンジにカバーをスライドさせて入れてカバーを閉めてください。



⑥ロックピンをキーで回して、カバーをロックしてください。



正しくお使いください

●振動や衝撃のない丈夫な安定した壁に取り付けてください。

●両面テープは使用しないでください。両面テープを用いて取り付けると、経年変化により本体が落下する可能性があります。

■ 停電用内部電池について

ＳＣ－８５Ｘの電池には停電補償用の内部電池と時計用電池の2種類があります。
停電補償用の内部電池は第８章 保守 停電用内部電池の交換に記載している電池です。時計用電池はリチウム電池で製品内部に搭載しております。

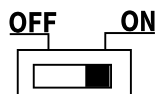
停電用内部電池は、ＡＣ電源を接続してから約６０時間で充電を完了（周囲温度２３℃の場合）します。充電完了状態で停電したとき、停電通報も含め、少なくとも2回通報できる容量（周囲温度２３℃の場合）があります。
さらに、長時間の停電に対処したいときは、大容量の停電用外部電源を別途用意して、これを端子台に接続してください。なお、停電用外部電池を使用するときは、「第9章 付録」の「停電用外部電池について」をご覧ください。
※停電用外部電池には、ＳＣ－８５Ｘより充電を行いませんのでご注意ください。

停電用内部電池はご購入後3年が経過しましたら、交換してください。詳細は「第8章 保守」をご覧ください。

時計用内部電池の電圧が低下するとバッテリー異常通報を行います。電池の交換が必要となりますので、すみやかに最寄りの当社営業所にご連絡ください。

時計用電池スイッチは、工場出荷時、ＯＦＦにしてあります。使用前に、必ずＯＮにしてください。

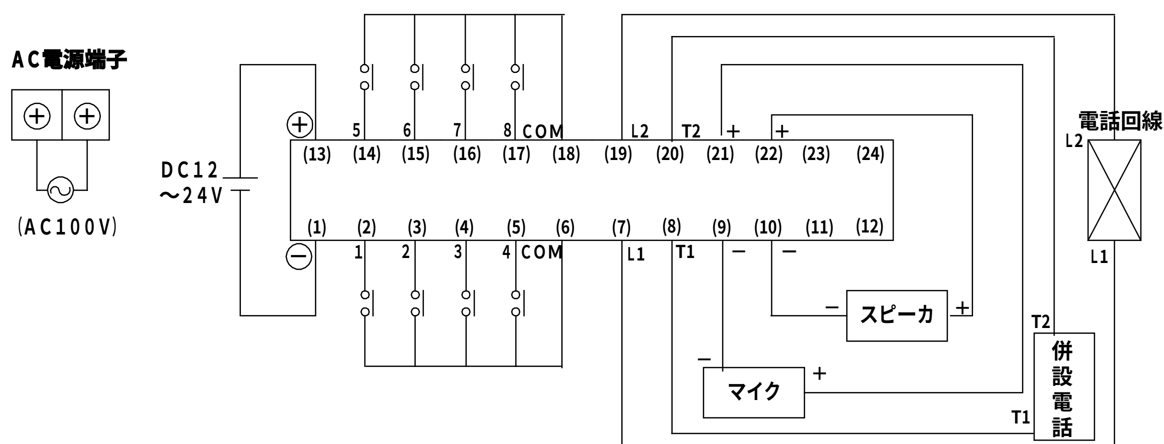
時計用電池スイッチ



正しくお使いください

●時計用電池のスイッチがＯＦＦの状態や電圧が低下した状態で長時間停電すると、内蔵の時計ICがリセット状態になり、定期通報が正常にできなくなります。
●ＳＣ－８５Ｘを長期間保管される場合は、時計用電池スイッチをＯＦＦにしてください。
保管後、再度ご使用の際は、年月日・時刻を正しく設定してください。

3-2 端子配線



●AC電源端子

AC100Vを接続します。

●停電用外部電池端子・・・(1)，(13)

DC12～24Vの電源入力端子です。極性を間違わないように接続してください。

●接点入力端子・・・(2)～(5)，(14)～(17)

無電圧接点またはトランジスタのオープンコレクタ出力を接続します。入力条件は次のとおりです。

オン時残留電圧：1V以下。

オフ時漏れ電流：0．1mA 以下。

負荷電流：7mA 以上の開閉が可能であること。

接点入力	通常モード	セキュリティモード
1	1番侵入	1番侵入
2	2番侵入	2番侵入
3	火災	火災
4	ガス漏れ	ガス漏れ
5	非常事態	非常事態
6	6番異常	6番異常
7	7番異常	7番異常
8	8番異常	監視開始／監視解除

●接点入力COM端子・・・(6)，(18)

この端子と各接点入力端子間に入力を接続します。

●電話回線(LINE)端子・・・(7)，(19)

回線接続端子となります。

LINEコネクタのいずれかに接続してください。

●併設電話(TEL)端子・・・(8)，(20)

併設電話を接続する端子です。

接続する場合はTELコネクタのいずれかに接続してください。

●マイク端子・・・(9)，(21)

アンプ内蔵の集音マイクを接続します。「第9章　付録」の「集音マイク」をご覧ください。

●スピーカ端子・・・(10)，(22)

アンプ内蔵の外部スピーカ接続用端子です。「第9章　付録」の「外部スピーカ」をご覧ください。

●遠隔出力端子･･･(11),(23)

電話回線による外部からの制御コマンドで出力する遠隔出力の端子です。

無電圧接点出力

ＡＣ２５０Ｖ ２Ａ

ＤＣ３０Ｖ　２Ａ

●警報出力端子･･･(12),(24)

警報発生時に出力する警報出力の端子です。

無電圧接点出力

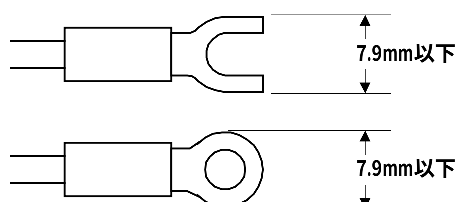
ＡＣ２５０Ｖ ２Ａ

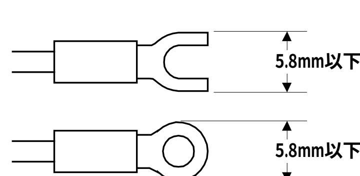
ＤＣ３０Ｖ　２Ａ

注：圧着端子について

次の条件にあったものをご使用ください。

ＡＣ電源　：Ｍ４　　　　その他　：Ｍ３





正しくお使いください

●ＡＣ電源端子には端子カバーをしてありますが、通電中はＡＣ電源端子に触れない様にご注意ください。また、クリップなどの金属類が混入しない様にご注意ください。

端子カバーを開ける、配線する場合など、必ずＡＣ電源をＯＦＦにし、本体の電源がＯＦＦの状態で実施してください。

●配線を間違わないようにしてください。間違った配線をすると、故障したり、正常に通報できなくなる恐れがあります。

●接点入力信号の配線は、動力線やノイズ発生源とは離して、配線してください。

●設定ツールは常時接続しないでください。

設定及び設定の読み出しの必要なとき接続してください。

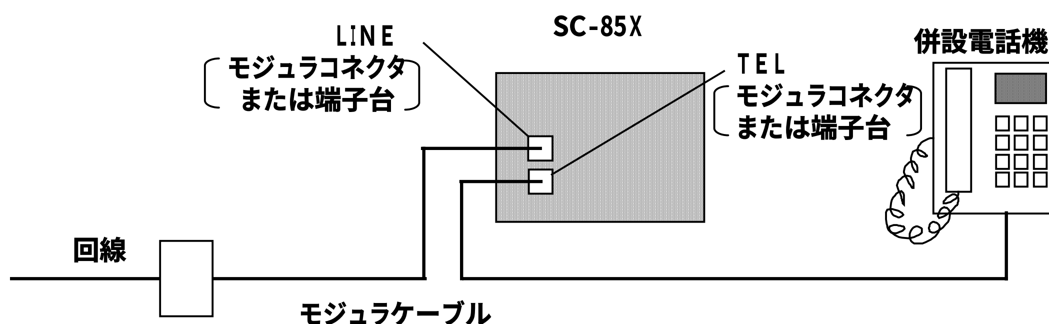
過大なノイズサージにより接続されたパソコンも含めて誤動作、

故障の原因となります。

3-3 回線接続

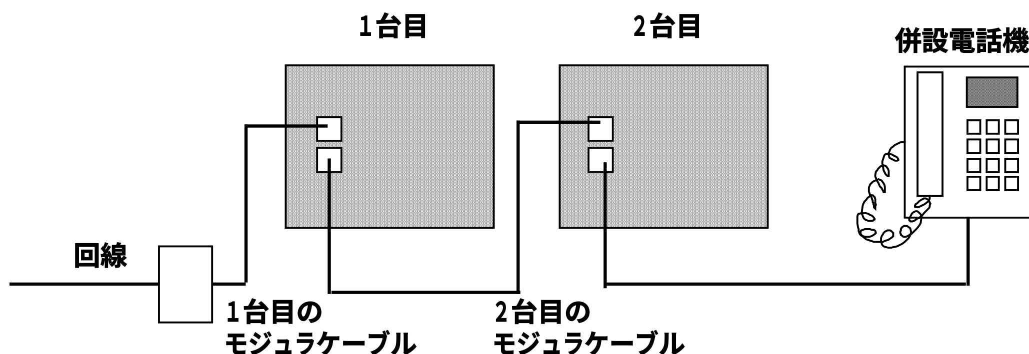
■ 基本接続（下記はモジュラケーブルによる接続例です）

TELコネクタ、又は端子（T1、T2）へ併設電話等の機器を接続する場合、使用する機器によっては極性を正しく接続しないと動作しないことがあります。SC－85Xでは端子台、モジュラコネクタともにL1はT2へ、L2はT1へ本体内部で接続されていますので、ストレート接続の場合はご注意ください。



■ 増設について

1回線につきSC－85X本体を3台まで増設できます。
なお、SC－85Xを複数台接続して外部からの現状確認を行うと、希望するSC－85Xを着信させることができない場合がありますのでご注意ください。



正しくお使いください

●電話回線がモジュラコネクタ方式になっていない場合、またはSC－85Xの端子台に接続する場合は、配線作業者にアナログ3種以上の資格が必要です。必ず電話工事業者が行うようにしてください。

●L1，L2の極性については電話工事業者にお問い合わせください。

●モジュラコネクタ（LINE）と端子台の電話回線（L1，L2）には片方しか接続しないでください。また、これらの端子に併設電話機は絶対に接続しないでください。接続されますと、通報できない恐れがあります。

●モジュラコネクタ（TEL）と端子台の併設電話端子（T1、T2）には片方しか接続しないでください。

3-4 設定ツール（ＲＳ－２３２C）の接続

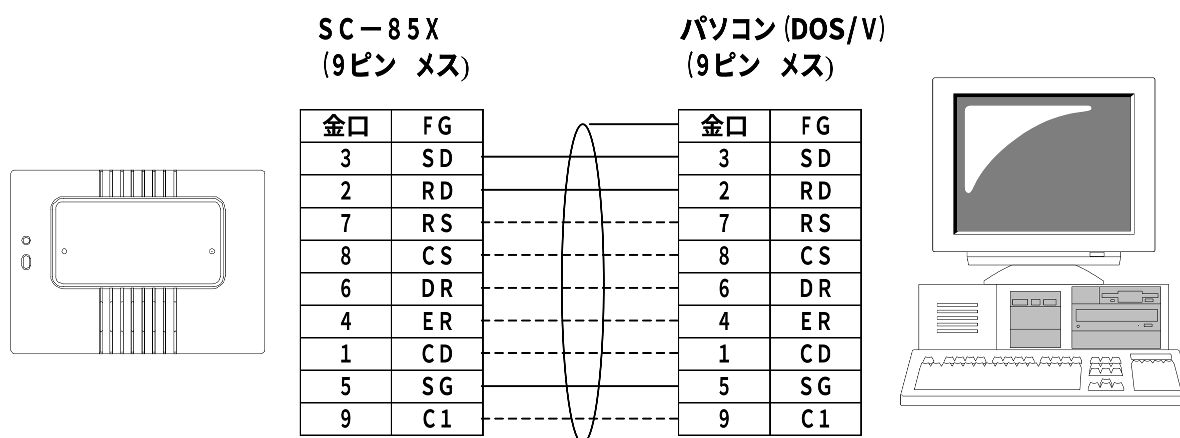
設定ツールは設定作業を容易にするためのツールです。

パソコンを使用して、設定パラメータの書込／読込のほか、ファイルへの保存／読込が可能です。

設定ツールをパソコンにインストールし、パソコンとＳＣ－８５Ｘに正しく接続してからご使用ください。

■ＲＳ－２３２Ｃケーブルの準備

ＲＳ－２３２Ｃケーブルで接続します。接続図に従って自作するか、接続図に従ったケーブルをご購入ください。



※　ＳＣ－８５Ｘ側はＳＤ信号、ＲＤ信号、ＳＧ以外配線されておりません。
　　従って、上記図で点線部の配線は必須ではありません。

※　市販ケーブルをご購入の際の仕様はＲＳ-２３２Ｃストレートケーブル（D-ＳＵＢ９ピン　メス対メス型）
　　をお買い求めください。

■設定ツールの使用方法

設定ツールの取扱説明書、ヘルプをご覧ください。

正しくお使いください

●設定ツールをご使用の際は、特に強い周波数を発生する危機（高周波ミシンなど）やサージを発生する機器からできるだけ離して使用してください。

●設定ツールをご使用の際は、特にノイズを発生している周辺の機器（特にモータ、トランス、ソレノイド、マグネットコイルなどのインダクタ成分を持つものについては、サージアブソーバやノイズフィルタを取り付けてください。

●ＲＳ－２３２Ｃケーブルを接続したままＳＣ－８５Ｘを運用しないでください。ノイズ、サージ等の影響を受けやすくなり、誤動作、故障の原因になります。

●設定ツールはあくまで設定作業を容易にするためのツールです。本ソフトで設定後は、正しく設定されていることを必ず本体液晶表示でご確認ください。設定データ確認後、ＳＣ－８５Ｘの電源をＯＦＦし、ＲＳ－２３２Ｃケーブルを抜いた後電源を投入してください。その後バッテリコネクタを接続してください。

●ＲＳ－２３２Ｃケーブル接続にあたっては、一旦ＳＣ－８５Ｘの電源をＯＦＦし、コネクタをしっかり挿し込んだ後ＳＣ－８５Ｘの電源を入れてください。尚、電源をＯＦＦする為にはバッテリコネクタを外す必要があります。

●ＲＳ－２３２Ｃケーブルを外すときは、ハウジング部カバーをつかんで電線にストレスがかからない様にしてください。断線の原因になります。

●設定ツールで本体と通信中にＳＣ－８５Ｘの電源をＯＦＦする、またはケーブルを抜くようなことはしないでください。正しく設定できない恐れがあります。

●本体と通信中にＳＣ－８５Ｘのキー操作は行わないでください。正しく設定できない恐れがあります。

●設定ツールの［時計設定］で設定される日時及び時刻は、本設定ツールが起動しているパソコンのデータです。実行前にご使用のパソコンの日時、時刻を確認してください。

●設定ツールで［設定初期化］を実行すると、設定対象のＳＣ－８５Ｘの現在時刻もリセットされます。したがって、［設定初期化］実行後は［時計設定］を実行してください。

●特殊設定モード中のＦＳＫ送出レベルの設定には、アナログ３種以上の資格が必要です。設定変更を行う際には、電話工事業者に依頼してください。

第4章　各種モード説明

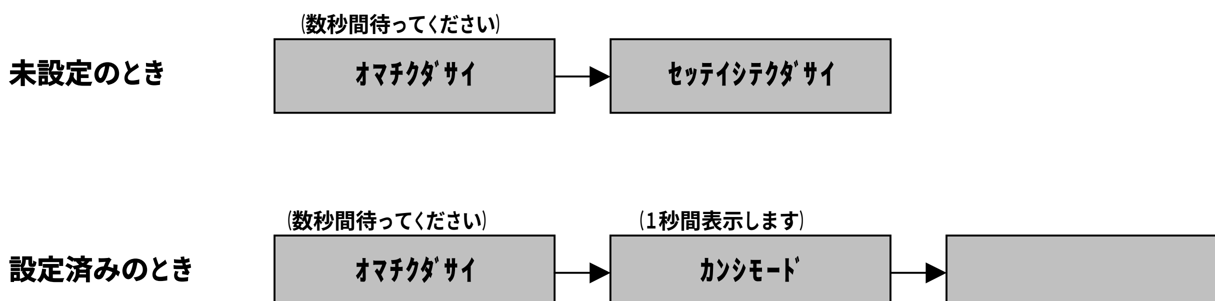
各種モードについて説明します。

4-1 監視モード

監視モードとは、接点入力の監視や通報を行うためのモードです。このモードのとき、外部から電話することによって音声で接点入力を確認することもできます。

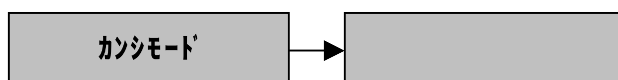
●電源投入時

電源を入れると、設定内容を内蔵のメモリICから読み込みます。このとき、設定状態により表示内容は次のようになります。



●他のモードから移行したとき

設定モードや履歴モードから監視モードに移行したとき、ＬＣＤに１秒間「カンシモード」と表示されます。その後、表示は自動的にクリアされます。



なお、設定モードから移行したとき、通話先電話番号がないと、次のように表示されます。
このときは、必ず設定モードに入って、通話先の電話番号を設定してください。

TEL ｾｯﾃｲｶﾞｱﾘﾏｾﾝ

監視モード、または履歴モードでのみ通報します。

4-2 基本設定モード

基本設定モードとは、各種の設定を行うためのモードです。

監視モードのとき、設定キーを2秒以上押すと、設定モードに入ります。監視モードに戻るときは、もう一度設定キーを押します。

設定モードは基本設定モードレベル1と基本設定モードレベル2から構成されます。

監視モードから直接移行できるのは基本設定モードレベル1だけです。基本設定モードレベル1のときに、決定キーを押しながら設定キーを押すと、基本設定モードレベル2に入ります。
基本設定モードレベル1に戻るときは設定キーを押します。

全ての状態において10分間操作を行わないと自動的に監視モードに戻ります。

上記操作については、「4-5　各種モード間の移行」も参照してください。
また、設定方法の詳細については、「第5章　設定」をご覧ください。

4-3 特殊設定モード

特殊設定モードとは、特殊な設定を行うためのモードです。

監視モードのとき、決定キーを押しながらシフトキー、設定キーを押し3秒経過すると、特殊設定モードに入ります。監視モードに戻るときには、設定キーを押します。
特殊設定モードの詳細については、「5-4 特殊設定モードの設定」をご覧ください。

なお、特殊設定モードで１０分間キー操作をしないときは、自動的に監視モードに戻ります。

4-4 履歴モード

履歴モードは、異常通報の履歴を確認するためのモードです。
このモードでは、現在の接点入力の状態や現在の時刻を確認することもできます。

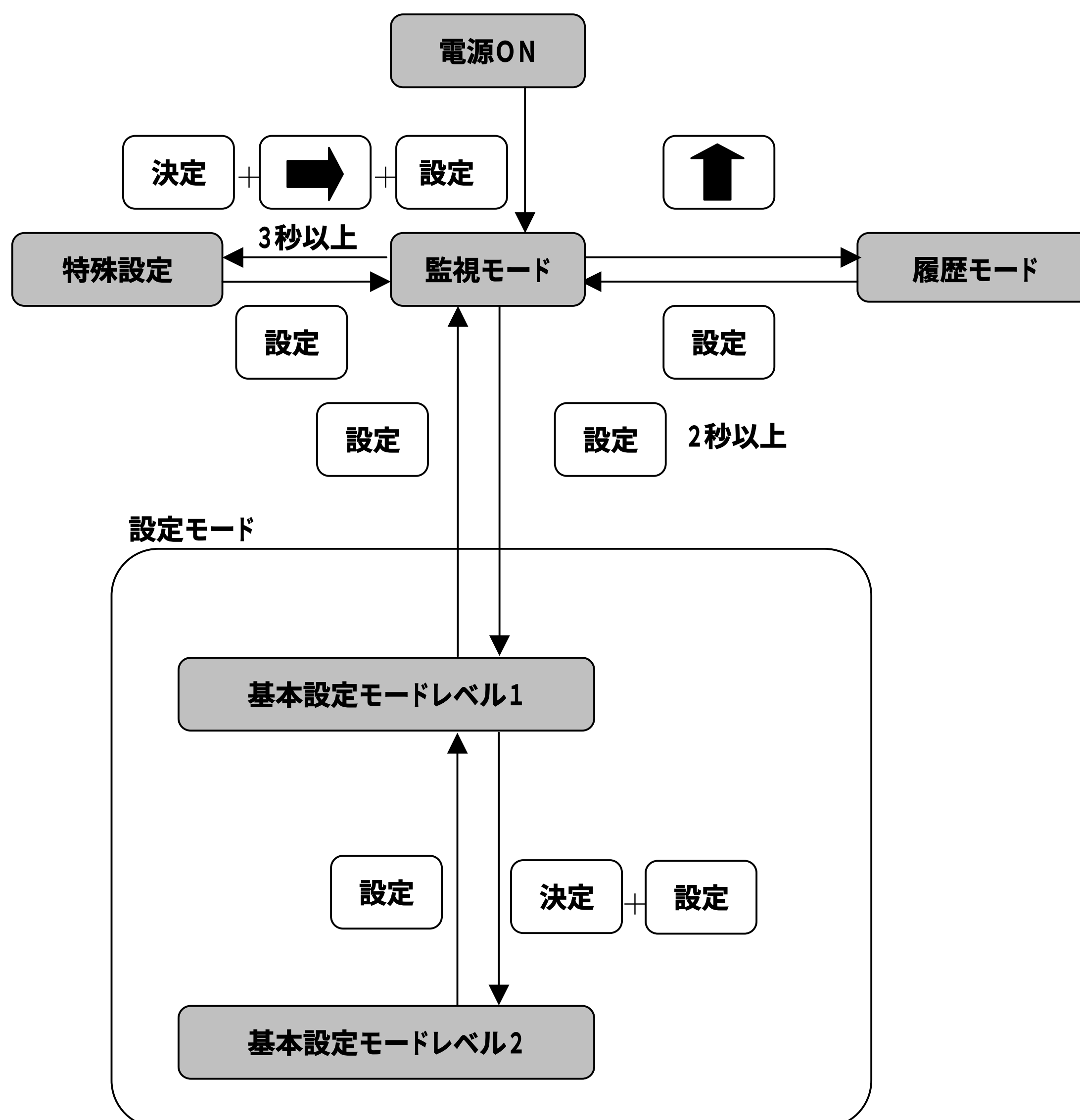
監視モードのとき、アップキーを押すと、履歴モードに入ります。監視モードに戻るときは、設定キーを押します。

なお、履歴モードで１０分間キー操作をしないときは、自動的に監視モードに戻ります。

履歴モードの詳細については、「6-4 異常通報の確認」をご覧ください。

4-5 各種モード間の移行

各モード間の移行とキーの使い方は、次のようになります。



※　各種設定と定期通報が設定されている状態で、監視モードの時、
　　メンテナンスボタン（カバー内部：決定キー）を3秒以上長押しすることで、
　　定期通報として現在状態を通報します。

●LCDにエラーメッセージが表示されているとき、または、設定モードのときは、
　監視中LEDは消灯し、通報や着信は行いません。

第5章　設定

設定について説明します。

5-1 基本設定

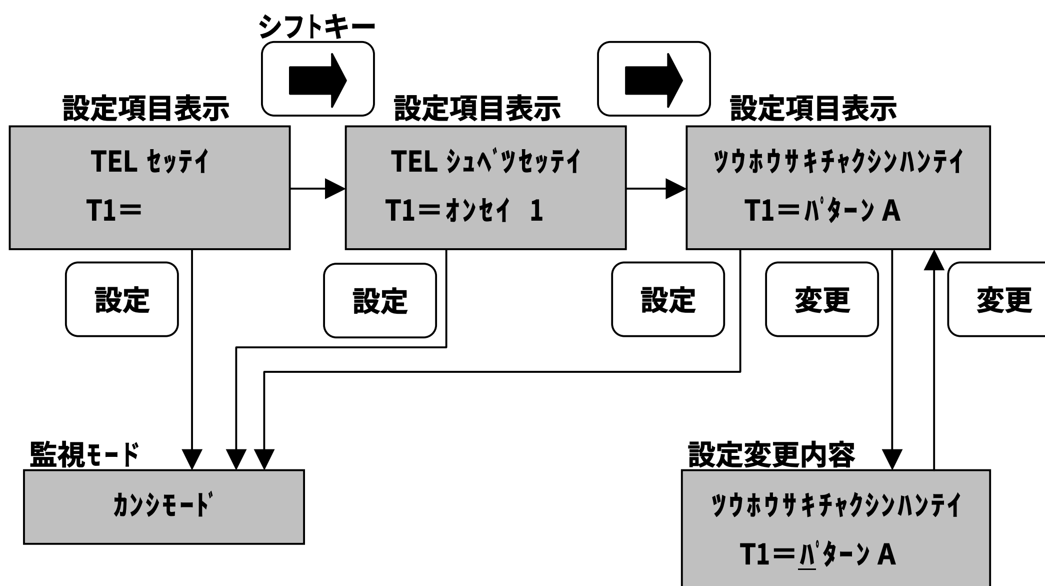
■設定モードに入る

設定モードのタイトル「セッテイモード」が表示されるまで、設定キーを押し続けます。(約2秒間)
タイトルが表示されると自動的に(約1秒後)、最初の設定項目「TELセッテイ」が表示されます。



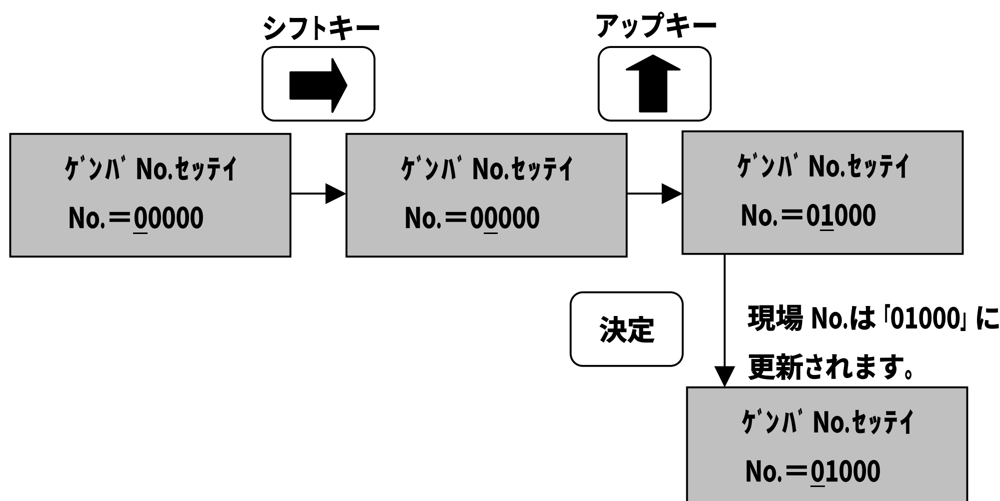
■設定項目を指定する

設定項目が表示されているとき、シフトキーを押すと、順次、項目が変わって行きます。目的の項目になったときに変更キーを押すと、その項目の設定内容の下にカーソルが表示され、変更が可能になります。カーソルが表示されているときに、再び、変更キーを押すと、設定項目の表示に戻ります。設定項目が表示されている間に設定キーを押すと、監視モードに戻ります。



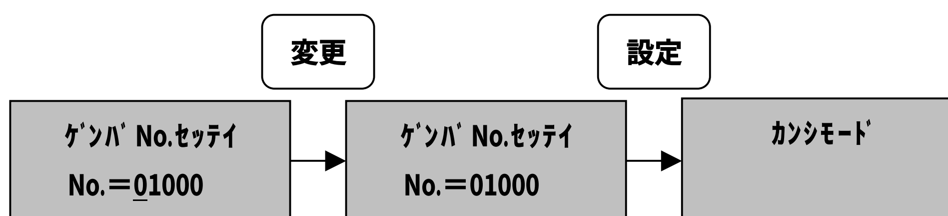
■設定内容を変更する

シフトキーとアップキーで設定内容を編集します。カーソルを移動させるためにはシフトキーを、カーソル位置の値を変えるためにはアップキーを押します。
設定内容の編集が終わったら、決定キーを押します。決定キーを押さないと、設定内容は変更されませんのでご注意ください。



■設定作業を終了する

変更作業が終わったら、変更キーを押します。ここで、シフトキーを押すと、他の設定項目に移行します。他に変更する項目がなければ、設定キーを押して、監視モードに戻ります。



正しくお使いください

●ＴＥＬｾｯﾃｲが設定されていなければｶﾝｼﾓｰﾄﾞには戻りません。
　また、ｶﾝｼﾓｰﾄﾞになってもＴＥＬＮｏ．回線種別の設定等が正しくなければ正常に通報することができません。

5-2 基本設定モードレベル1の設定

「監視モード」又は、未設定状態の「セッテイシテクダサイ」及び、通報先電話番号の設定のない「TELセッテイガアリマセン」の状態から設定キーを2秒以上押すか、「設定モードレベル2」の状態から設定キーを押すことで、基本設定モードレベル1へ移行します。

設定項目	設定内容	ページ
通報先電話番号 TEL ｾｯﾃｲ	通報先の電話番号を設定します。 通報先：5カ所まで 番号桁数：20桁まで（ポーズも含む） 初期値：なし	5-5
通報先種別 TEL ｼｭﾍﾞﾂｾｯﾃｲ	通報先を選択します。 通報先種別：ｵﾝｾｲ1（メッセージ繰り返し回数＝3回） ｵﾝｾｲ2（メッセージ繰り返し回数＝10回） ﾃﾞｰﾀ	5-7
通報先着信判定 ﾂｳﾎｳｻｷﾁｬｸｼﾝﾊﾝﾃｲ	通報先の着信判定方法を通報先1～5についてそれぞれ選択します。 通報先着信判定：ﾊﾟﾀｰﾝ A／ﾊﾟﾀｰﾝ B	5-8
現場 No. ｹﾞﾝﾊﾞ No.ｾｯﾃｲ	現場No．を設定します。 現場No．：00000～99999	5-9
年月日・時刻 ﾄｹｲｾｯﾃｲ	時計を設定します。時計用電池スイッチを必ずONにしてください。 00/01/01 00:00～99/12/31 23:59 ※うるう年および大の月、小の月は、自動判定します。 ※この設定には、初期値はありません。	5-10
回線種別 ｶｲｾﾝｾｯﾃｲ	接続する回線の種別を選びます。 回線：ダイヤル／プッシュ	5-11

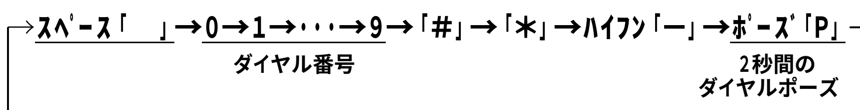
注：設定内容欄の　　　　　は初期値を示します。

■通報先電話番号の設定のしかた

基本設定モードレベル１に移行した後、シフトキーで設定項目を「ＴＥＬ セッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、未設定のときには、１桁目にカーソルだけが表示されます。

シフトキーとアップキーを使って、通報先の電話番号を編集していきます。ここで、アップキーを押したときのカーソル位置の桁の表示順序は次のようになります。



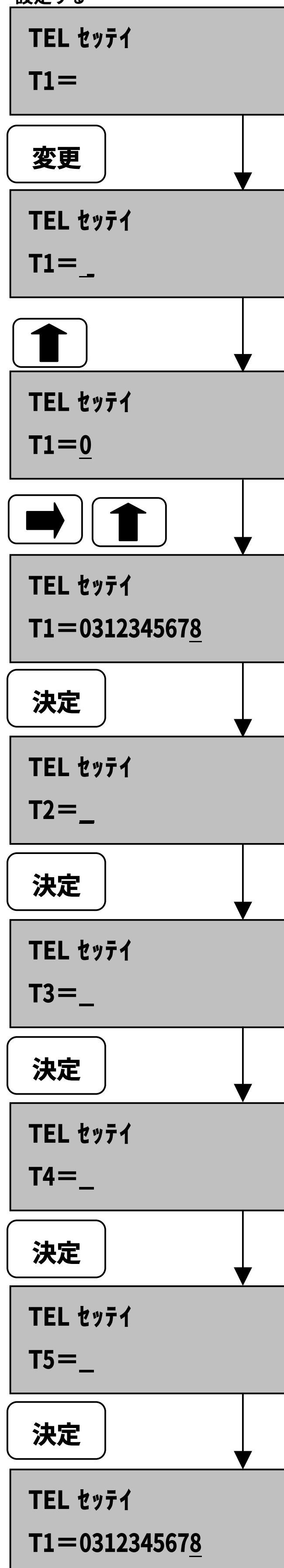
なお、設定キーを押しながらアップキーを押すと、表示順序を逆に進めることができます。

決定キーを押すと、編集された１番目の通報先が登録され、表示は２番目の通報先設定にかわります。１番目のときと同じ手順で設定します。

設定内容の変更がないとき、または、対象となる通報先がないときは、決定キーを押して、３番目の通報先に進みます。

５番目の通報先が表示されているとき、決定キーを押すと、再び、１番目の通報先設定に戻ります。

（次のページに続く）



どの通報先の設定中でも、変更キーを押すと、通報先電話番号の設定項目表示に戻ることができます。

変更

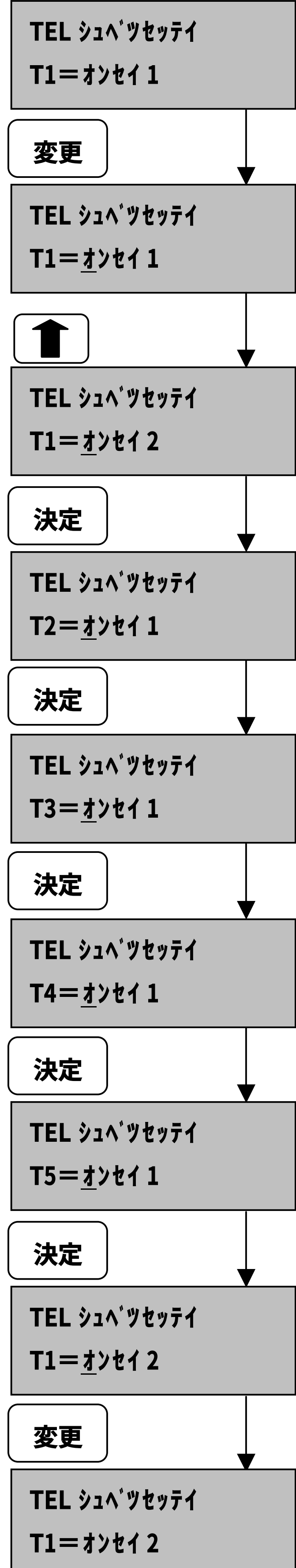


TEL ｾｯﾃｲ
T1＝0312345678

正しくお使いください

- **●先頭の桁をスペースで登録すると以降の桁はすべてスペースとなり削除されます。**
- **●通報先の電話番号として、１１０番、１１９番を設定することはできません。**
- **●通報先の電話番号として同一の番号を設定することはできません。**

■通報先種別の設定のしかた



基本設定モードレベル１に移行した後、シフトキーで設定項目を「ＴＥＬ シュベツセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、１番目の通報先種別の１桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで通報先種別の内容を指定します。表示順序は次のとおりです。

→「オンセイ1」 → 「オンセイ2」 → 「データ」

決定キーを押すと、指定された１番目の通報先の種別が登録され、次の通報先の種別が表示されます。
２番目から５番目の通報先の種別も１番目の通報先の種別と同じ手順で設定します。

５番目の通報先種別の設定が終了すると、再び、１番目の通報先種別設定に戻ります。

どの通報先の通報先種別の設定中でも、変更キーを押すと、通報先種別の設定項目表示に戻ることができます。

正しくお使いください

表示される通報先の種別は下表のとおりです。
通報先に応じて正しく設定してください。

表示	通報先	説明
オンセイ1	電話機	音声メッセージを３回繰り返します。
オンセイ2	電話機	音声メッセージを１０回繰り返します。
データ	パソコン	モデム信号で通報します。

●「オンセイ２」は通報先が留守番電話の場合など、
　確実にメッセージを残したいときに便利です。

■通報先着信判定の設定のしかた

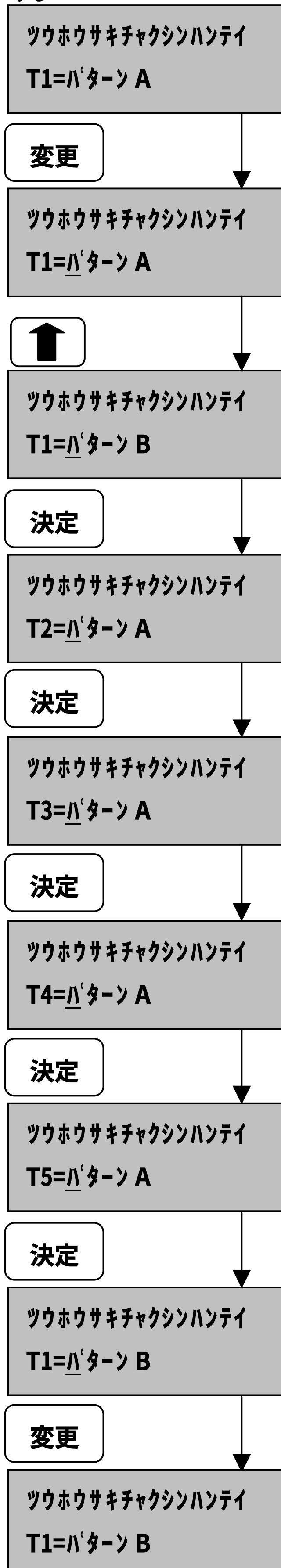
基本設定モードレベル1に移行した後、シフトキーで設定項目を「ツウホウサキチャクシンハンテイ」にしてください。

変更キーを押すと、通報先1の通報先着信判定の設定1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで通報先着信判定の設定（パターンAまたはパターンB）を選択します。

決定キーを押すと、指定された通報先1の通報先着信判定の設定が登録され、通報先2の通報先着信判定の設定が表示されます。
通報先2から通報先5の通報先着信判定の設定も通報先1と同じ手順で設定します。通報先5の通報先着信判定の設定が終了すると、再び、通報先1の通報先着信判定の設定に戻ります。

どの通報先の通報先着信判定の設定中でも、変更キーを押すと、通報先着信判定の設定項目表示に戻ることができます



正しくお使いください

通報先が着信したことを判定する方法を通報先ごとに2通りのうちから選択できます。通報先の特徴に合わせてお選びください。

通報先の種類	パターン	説明
フリーダイヤル	A	パターンA：音声＋極性反転で着信判定 パターンB：極性反転のみで着信判定
一般的な電話契約	AまたはB	
携帯電話機※	B	

※携帯電話機にパターンAを設定した場合、携帯電話の電源がＯＦＦまたは電波の届かない場所にあるとき、その旨を伝える電話会社からのメッセージにより着信と判断し通報が成功したものとして完了する恐れがあります。
SC-85ＸをＰＢＸ内線で使用する場合、回線の電気的特性などの条件がＮＴＴの電話回線（アナログ 2 線式）と同一であることが条件です。ＰＢＸ内線など回線が極性反転しない環境下で携帯電話・ＰＨＳなどに通報するときは、パターンAに設定してください。ただし、この場合には携帯電話・ＰＨＳが電源ＯＦＦ、または電波が届かない場所にあるとき、その音声メッセージによって通報完了となる恐れがありますのでご注意ください。
ＰＢＸ内線でご使用になる場合でも、極性反転有りの回線でご使用頂くことをお奨めいたします。ＰＢＸの製造メーカーや保守メーカーにお問い合わせください。

■現場Ｎｏ．の設定のしかた

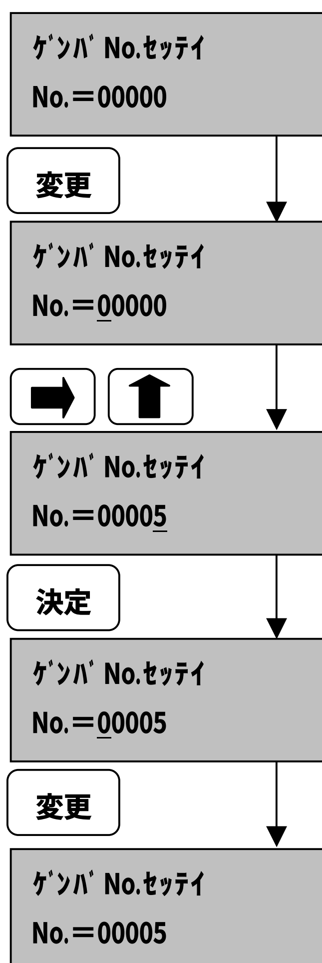
基本設定モードレベル１に移行した後、シフトキーで設定項目を「ゲンバＮｏ.セッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、登録されている現場Ｎｏ.の１桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキー（あるいは設定キーを押しながらアップキー）を使って現場Ｎｏ.を編集します。編集できる現場Ｎｏ.の範囲は００００００～９９９９９です。

決定キーを押すと、編集された現場Ｎｏ.が登録されます。表示内容はそのままでカーソルだけが１桁目に移動します。

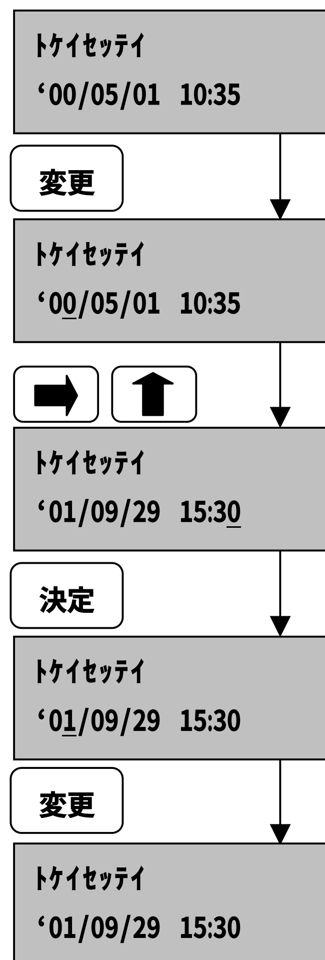
変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



正しくお使いください

●実際、音声通報、データ通報される現場Ｎｏ．は「５－４特殊設定モード」通報現場Ｎｏ．にて設定された「下３桁」か「５桁」となります。
初期値は「下３桁」です。ご注意ください。

■年月日･時刻の設定のしかた



基本設定モードレベル1に移行した後、シフトキーで設定項目を「ﾄｹｲｾｯﾃｲ」にしてください。

変更キーを押すと、年月日･時刻表示の1桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキー（あるいは、設定キーを押しながらアップキー）を使って、現在の年月日･時刻を編集します。

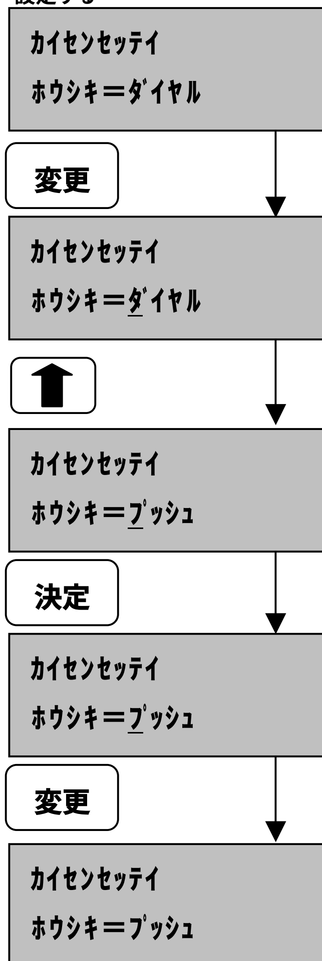
年月日･時刻の表示順序は、それぞれ、次のようになります。
（アップキーを押した場合）
年　：００→０１→…→９９→００→０１…
月　：０１→０２→…→１２→０１→０２…
日　：０１→０２→…→（２８、２９、３０または３１）→０１→０２…
時　：００→０１→…→２３→００→０１…
分　：００→０１→…→５９→００→０１…

決定キーを押すと、指定された年月日･時刻が現在の年月日･時刻として登録されます。ここで、秒は自動的に００秒と設定されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

※　便利な使い方（年月日･時刻の設定）
なお、設定キーを押しながらアップキーを押した場合、
年月日･時刻の表示順序は、それぞれ、次のようになります。
年　：９９→９８→…→００→９９→９８…
月　：１２→１１→…→０１→１２→１１…
日　：（２８、２９、３０または３１）→…→０２→０１
時　：２３→２２→…→００→２３→２２…
分　：５９→５８→…→００→５９→５８…
アップキーを１秒以上押したままにすると、以降一定速度で昇順に表示が変化します。
設定キーを押しながら、アップキーを１秒以上押したままにすると、以降一定速度で降順に表示が変化します。

■回線種別の設定のしかた



基本設定モードレベル１に移行した後、シフトキーで設定項目を「カイセンセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、回線種別の１桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで回線種別を選択します。プッシュ回線に接続する場合は「プッシュ」を、ダイヤル回線に接続する場合は「ダイヤル」を選択します。

決定キーを押すと、選択した回線種別が登録されます。

変更キーを押して、設定項目表示に戻します。

ＳＣ－８５Ｘを接続する回線の種別がわからないときは、最寄りのＮＴＴ営業所にお問い合わせください。また、通話料請求書でも確認できます。

5-3 基本設定モードレベル2の設定

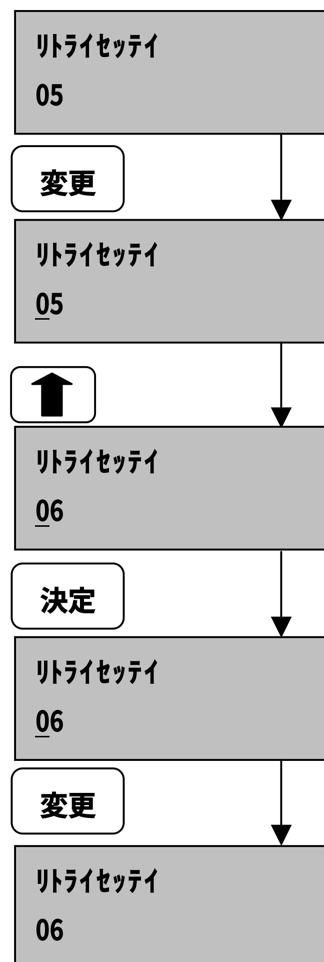
基本設定モードレベル1のとき、決定キーを押しながら、設定キーを押すと基本設定モードレベル2へ移行します。

設定項目	設定内容	ページ
リトライ回数 ﾘﾄﾗｲｾｯﾃｲ	話中などで通報できないときの通報繰り返し回数を設定します。 リトライ回数：００～９９回 初期値： ０５	5-14
現場名音声選択 ｹﾞﾝﾊﾞﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ	現場名の音声を選択します。 現場名音声選択：固定音声／任意音声／無	5-15
入力名音声選択 ﾆｭｳﾘｮｸﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ	入力名の音声を選択します。 入力名音声選択：固定音声／任意音声／無	5-15
状態名音声選択 ｼﾞｮｳﾀｲﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ	状態名の音声を選択します。 状態名音声選択：固定音声／任意音声／無	5-15
ハンズフリー設定 ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰｾｯﾃｲ	ハンズフリーの有効／無効を設定します。 ハンズフリー設定：スル／シナイ	5-16
ハンズフリー通話時間 ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰﾂｳﾜｼﾞｶﾝ	ハンズフリーの通話時間を設定します。 ハンズフリー通話時間：０１～３０分（初期値：０３）	5-17
定期通報 ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ	定期通報の条件を設定します。 定期通報：スル／シナイ 通報先： 1～5まで 通報時刻：００：００～２３：５９ 通報周期：1／7／14／28日毎 通報曜日：日曜日～土曜日	5-18
接点入力判定条件 ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ 1 ～ （ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ 8）	チャタリング等による誤動作防止のため、各接点ごとに入力条件を設定します。 接点状態： A／B接点 判定時間： ０．２／０．５／１．０／２．０／５／１０／２０／５０／１００秒 通報先： 1～5まで	5-20
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ	コピー元の接点の入力判定条件を他の接点にコピーすることができます。 コピー： スル／シナイ コピー元： 1／2／3／4／5／6／7／8	5-22
現状確認 ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ	現状確認機能の有効／無効、および、着信時の呼び出し音回数を設定します。 現状確認機能： スル／シナイ 呼出音回数： ００～９９（初期値：１０）	5-23

設定項目	設定内容	ページ
停電通報 ﾃｲﾃﾞﾝﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ	機器の停電を指定された通報先に通報します。 通報先：　５カ所まで 検出時間：　００１～１９９秒（初期値：０１０秒）	5-24
時計電池低下通報 ﾄｹｲﾃﾞﾝﾁﾃｲｶﾂｳﾎｳ	時計用電池の電圧低下を指定された通報先に通報します。 通報先：　５カ所まで	5-25
通報形態 ﾂｳﾎｳｹｲﾀｲｾｯﾃｲ	通報形態を設定します。 通報形態：　同時／順次	5-26
復旧通報 ﾌｯｷｭｳﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ	復旧通報を行うか、どうか設定します。 復旧通報：　スル／シナイ	5-27
停電復旧通報 ﾃｲﾃﾞﾝﾌｯｷｭｳﾂｳﾎｳ	停電後に通報を行うかどうかを設定します。 停電復旧通報：　スル／シナイ	5-28
監視時間帯 ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ	接点の監視時間帯を設定します。 監視開始時間：００：００～２３：５９ 監視終了時間：００：００～２３：５９ 初期値は監視開始時間、監視終了時間とも００：００です。	5-29
入力ＬＥＤクリア ﾆｭｳﾘｮｸＬＥＤｸﾘｱｾｯﾃｲ	入力ＬＥＤを自動的にクリアするか、 手動でクリアするかを設定します。 クリア：　自動／手動	5-30
警報出力選択 ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｾﾝﾀｸ	警報出力の選択をします。 出力：　ワンショット／ＬＥＤ同期	5-31
警報出力時間 ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ	警報出力でワンショットを選択した場合のﾜﾝｼｮｯﾄ時間を 設定します。 警報出力時間：1/3/5/10/30/60/90/120/180/240/300	5-32
遠隔出力時間 ｴﾝｶｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ	ＤＴＭＦコマンドモードで遠隔出力、ﾜﾝｼｮｯﾄ動作コマンド （＃３２）が入力された場合のﾜﾝｼｮｯﾄ時間を設定します。 遠隔出力時間：1/3/5/10/30/60/90/120/180/240/300	5-33

注：設定内容欄の　　　　　は初期値を示します。

■リトライ回数の設定のしかた



基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「リトライセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、リトライ回数の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキー(あるいは、設定キーを押しながらアップキー)で目的の数値を指定します。

決定キーを押すと、指定されたリトライ回数が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

※便利な使い方(リトライ回数の設定)
アップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で昇順に表示が変化します。
設定キーを押しながらアップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で降順に表示が変化します。

●リトライ間隔は3分です。
●リトライとなるのは通報先話中または通報先不応答の場合です。
●呼び出し時間は約50秒です。

■現場名音声選択の設定のしかた

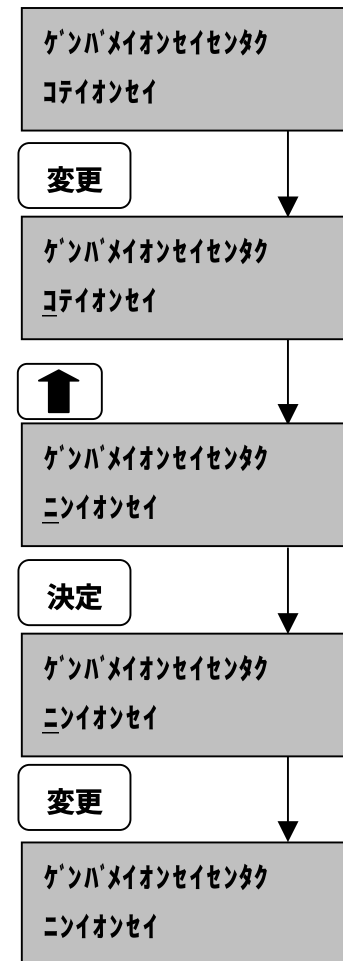
基本設定モードレベル 2 に移行した後、シフトキーで設定項目を「ゲンバメイオンセイセンタク」にしてください。

変更キーを押すと、現場名音声選択の 1 桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで「固定音声」／「任意音声」／「無し」の選択を行います。

決定キーを押すと、選択された内容が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



■入力名音声選択の設定のしかた

基本設定モードレベル 2 に移行した後、シフトキーで設定項目を「ニュウリョクメイオンセイセンタク」にしてください。

以降、現場名音声選択の設定と同様に行います。

■状態名音声選択の設定のしかた

基本設定モードレベル 2 に移行した後、シフトキーで設定項目を「ジョウタイメイオンセイセンタク」にしてください。

以降、現場名音声選択の設定と同様に行います。

●任意音声を設定された場合、任意音声の登録が必要です。
（詳細は、「5-5　任意音声メッセージの設定」を参照してください。）
●接点入力毎または状態毎に固定音声／任意音声／無しの選択はできません。

■ハンズフリーの設定のしかた

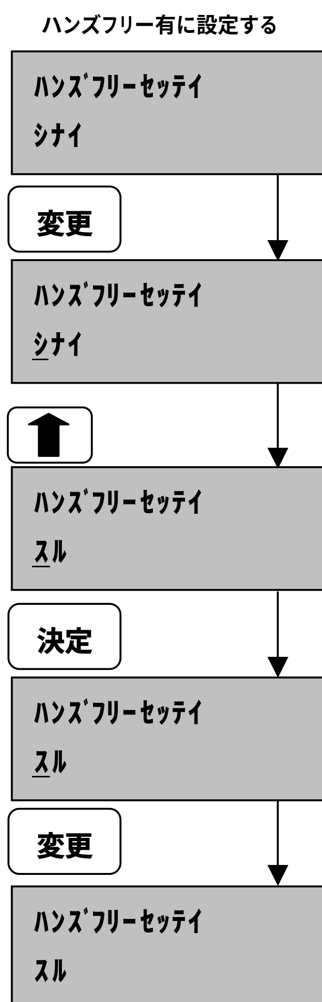
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ハンズフリーセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、ハンズフリー設定の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーでハンズフリー「スル」／「シナイ」の選択を行います。
ハンズフリーを行わない場合は「シナイ」を、行う場合は「スル」を選択します。

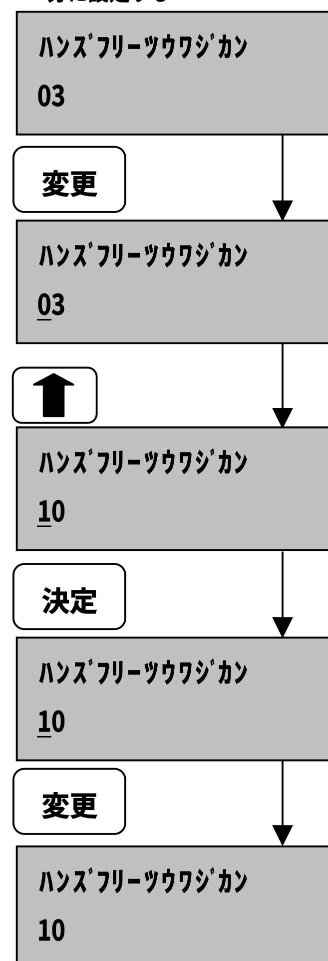
決定キーを押すと、選択された内容が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



●本設定でハンズフリーを「スル」に設定すると音声通報終了後、自動的にハンズフリーモードに移行します。その場合のハンズフリー通話最大時間はハンズフリー通話時間の設定によります。尚、ハンズフリー「シナイ」に設定しても、ハンズフリーＯＮのＤＴＭＦコマンドを受信することでハンズフリー通話が可能となります。
（詳細は、「6-2　ハンズフリー通話」、「6-7　ＤＴＭＦコマンド受信機能」を参照してください。）

■ハンズフリー通話時間の設定のしかた



基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ハンズフリーツウワジカン」にしてください。

変更キーを押すと、ハンズフリー通話時間設定の1桁目にカーソルが表示されます。

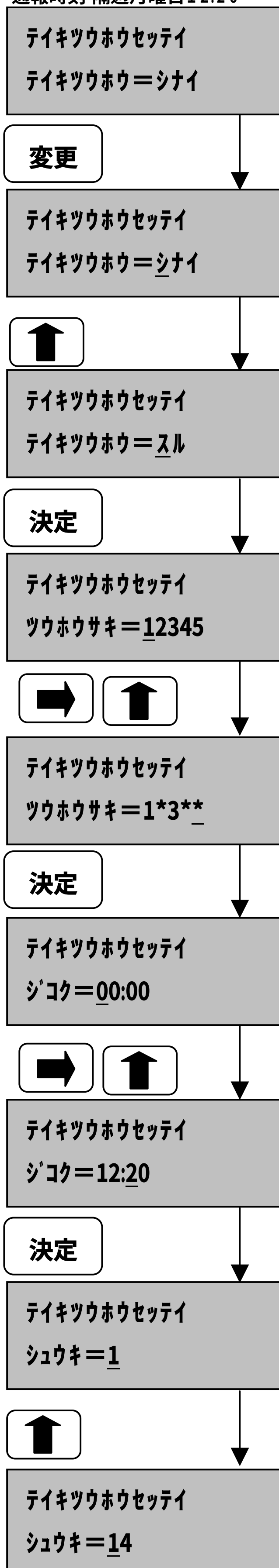
アップキー（あるいは、設定キーを押しながらアップキー）で目的の数値を指定します。

決定キーを押すと、指定されたハンズフリー通話時間が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

※便利な使い方（ハンズフリー通話時間の設定）
アップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で昇順に表示が変化します。
設定キーを押しながらアップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で降順に表示が変化します。

■定期通報の設定のしかた



基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「テイキツウホウセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、定期通報設定の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで定期通報「スル」／「シナイ」の選択を行います。定期通報を行わない場合は「シナイ」を、行う場合は「スル」を選択します。

決定キーを押すと、選択された内容が登録されます。
表示は定期通報の通報先設定に変わります。

シフトキーとアップキーで定期通報先を指定します。通報先を有効にする場合、その通報先の番号を表示させます。通報先を無効にする場合、アップキーを押して、通報先を「＊」に変えます。

決定キーを押すと、指定された定期通報の通報先が登録されます。
表示は通報時刻設定に変わります。

シフトキーとアップキーで「年月日･時刻の設定のしかた」の時刻の設定と同じ要領で、定期通報時刻を設定します。

決定キーを押すと、指定された定期通報の通報時刻が登録されます。
表示は定期通報の周期設定に変わります。

アップキーで通報周期を選びます。単位は「日」です。

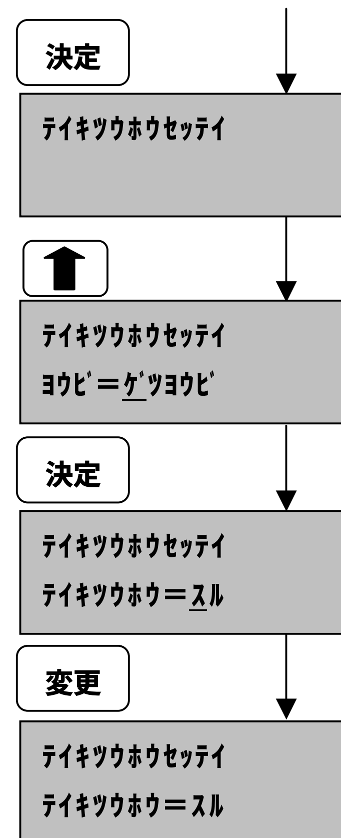
（次のページに続く）

決定キーを押すと、指定された定期通報の周期が登録されます。
表示は定期通報の曜日設定に変わります。

アップキーで通報曜日を指定します。なお、この内容は周期設定で１（＝毎日）を選んだときは、無効になります。

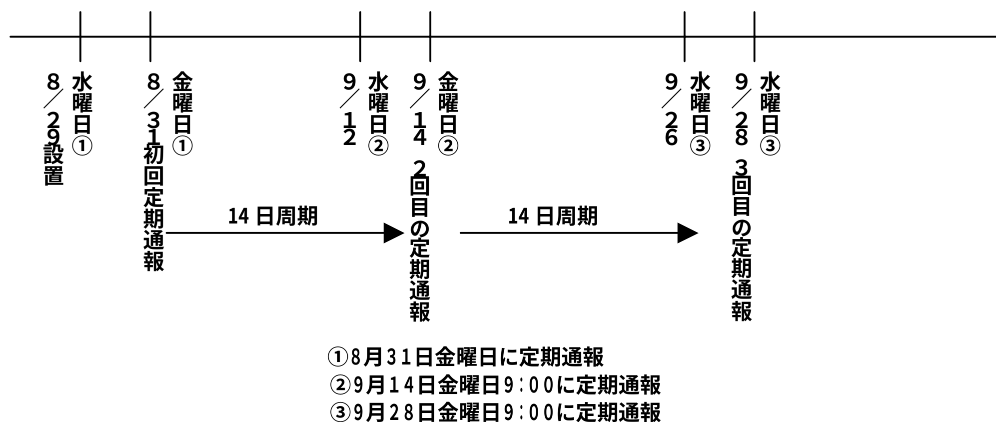
決定キーを押すと、指定された定期通報の曜日が登録されます。表示は再び、定期通報「スル」／「シナイ」の設定に戻ります。

各設定項目中に、変更キーを押すと、設定項目表示にもどります。



定期通報の考え方について

定期通報の目的は、ＳＣ－８５Ｘ２が正常であることを登録された通報先に定期的に通報し、正常であることを確認するものです。従って定期通報時に定期通報先に対して異常発生／復旧通報、監視開始通報、監視解除通報の要求がある場合、または通報中の場合、定期通報は行いません。定期通報リトライ中も同様です。
また、基本的に定期通報は、内蔵の時計時刻（日時）と比較し定期通報周期および定期通報時刻が一致したとき行います。従って内部時計データがずれていた場合には通報しない可能性があります。
定期通報の周期が７日、１４日、２８日の場合、最初に到来する定期通報曜日に起点となる定期通報を通報します。この起点曜日の定期通報後、設定周期毎に定期通報を通報します。
例えば８月２９日水曜日に通報装置を設置し、定期通報周期１４日、曜日を金曜日、時刻９：００に設定した場合は下記の様になります。



①８月３１日金曜日に定期通報
②９月１４日金曜日９：００に定期通報
③９月２８日金曜日９：００に定期通報
：

- 定期通報のリトライは設定されたリトライ回数に準じます。
- 定期通報周期のカウンタは設定モードから監視モードに移行した時点でリセットされます。従って、監視モード移行後は設定変更の有無にかかわらず、直近の日時に定期通報を行った後、設定されている周期で定期通報が行われます。
- メンテナンスボタン（決定キー）操作による通報内容は定期通報と同一となります。

■接点入力判定条件の設定のしかた

基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「セッテンセッテイ1」にしてください。(この「セッテンセッテイ1」の状態でアップキーを押すと「セッテンセッテイ1」～「セッテンセッテイ8」を選択できます。)

変更キーを押すと、接点入力1の接点選択の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで接点入力がA接点動作をするときには「A」、B接点入力動作をするときには「B」を選びます。

決定キーを押すと、選ばれた接点動作が登録されます。表示は判定時間選択に変わります。

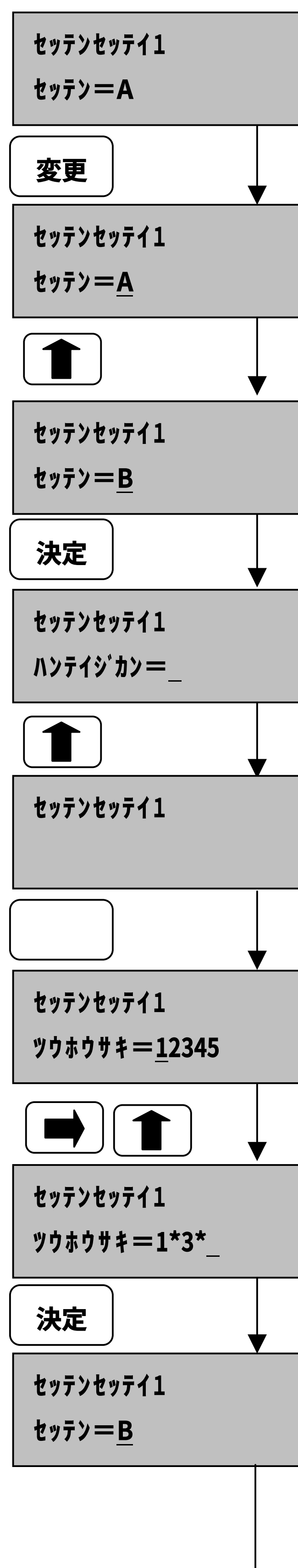
アップキーでチャタリング等の影響を受けない時間を次の時間から選びます。

0.2/0.5/1.0/2.0/5/10/20/50/100 (秒)

決定キーを押すと、選択された判定時間が登録されます。
表示は接点の通報先設定に変わります。

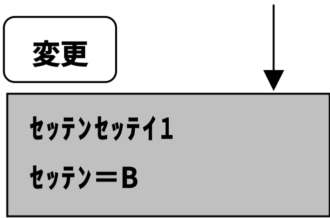
シフトキーとアップキーで通報先を指定します。通報先を有効にする場合、その通報先の番号を表示させます。通報先を無効にする場合、アップキーを押して、通報先を「*」に変えます。

決定キーを押すと、指定された通報先が登録されます。



接点入力2～8については接点入力1と同じ手順で設定していきます。
(次のページに続く)

各設定項目の設定中に、変更キーを押すと、設定項目表示に戻ることができます。



正しくお使いください

●接点入力の設定と動作は下表のようになります。

設定	正常	異常
A	○○ (OFF)	○○ (ON)
B	●● (ON)	●● (OFF)

接点選択表示「ｾｯﾃﾝ＝A (または B) のとき、アップキーを押すと、次の接点入力の設定表示になります。この機能は、特定の入力だけ変更するときに便利です。

■接点設定コピーの設定のしかた

接点2の条件を他の7点にコピーする

基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「セッテンセッテイコピー」にしてください。(接点設定コピーとは、コピー元の接点の1つを選択すると、他の7点にその設定をコピーすることができる機能です。)

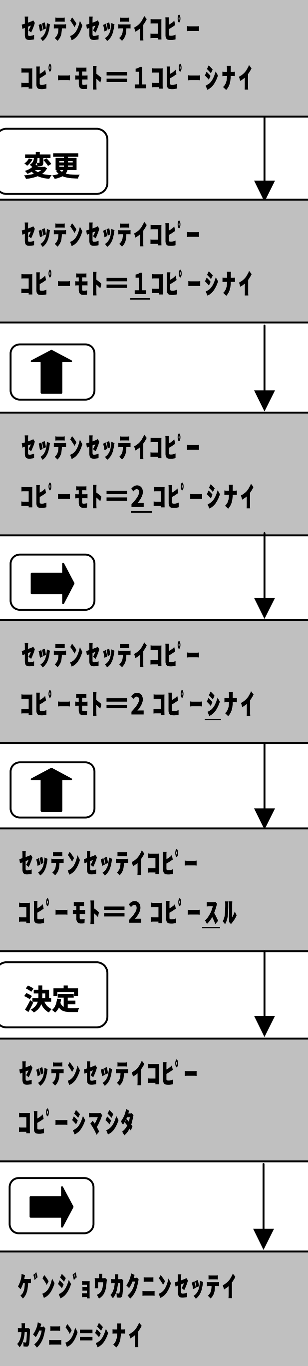
変更キーを押すと、コピー元選択の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーでコピー元の接点(1～8)を選びます。

シフトキーを押して、カーソルを移動しコピーする、しないをアップキーを押して選択します。

決定キーを押すと、他の7点の接点データにコピー・記憶し、変更状態をぬけます。

この状態で、シフトキーを押すと、設定項目表示(ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ)になります。



■現状確認の設定のしかた

現状確認する。呼出音回数を５回と設定する

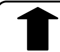
基本設定モードレベル２に移行した後、シフトキーで設定項目を「ゲンジョウカクニンセッテイ」にしてください。

ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ｶｸﾆﾝ＝ｼﾅｲ

変更

ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ｶｸﾆﾝ＝ｼﾅｲ

変更キーを押すと、現状確認設定の１桁目にカーソルが表示されます。



ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ｶｸﾆﾝ＝ｽﾙ

アップキーで、着信時の現状確認を行わない場合は「シナイ」を、現状確認を行う場合は「スル」を選択します。

決定

ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ﾖﾋﾞﾀﾞｼｶｲｽｳ＝10

決定キーを押すと、現状確認を行うかどうかの設定が登録されます。
表示は呼出音回数の設定に変わります。



ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ﾖﾋﾞﾀﾞｼｶｲｽｳ＝05

アップキー（または設定キーを押しながらアップキー）で呼出音回数を指定します。

決定

ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ｶｸﾆﾝ＝ｽﾙ

決定キーを押すと、指定された呼出音回数が登録されます。
表示は、再び、現状確認「スル」／「シナイ」の設定に変わります。

変更

ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ
ｶｸﾆﾝ＝ｽﾙ

変更キーを押すと、設定項目表示にもどります。

正しくお使いください

●自動着信時は発信元の種別確認のため電話機でTELした場合も
無条件に８秒間のキャリア（ピー音）を送出します。
電話機で現状確認をする場合はそのままお待ち下さい。
（８秒間のキャリア送出後、音声が送出されます。）

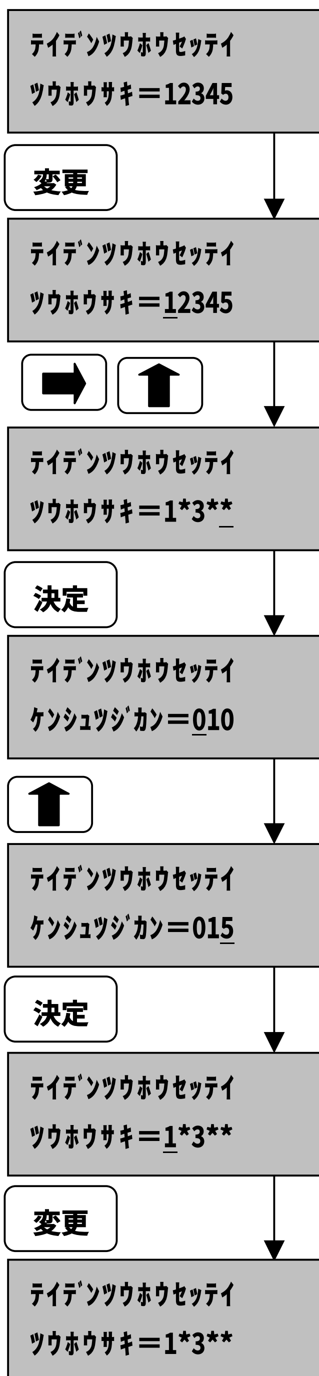
●「ヨビダシカイスウ＝００」に設定すると、呼出音回数は１回となります。

●呼出回数は、１回目の呼出信号の波形割れ、ＰＢＸ内接続における応答遅れ等により、ＳＣ－８５Ｘが認識できず、設定している呼出回数よりも１回多くなることがあります。

●発信者番号通知サービスにおいても設定している呼出回数よりも１回多くなることがあります。

■停電通報先の設定のしかた

基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「テイデンツウホウセッテイ」にしてください。



変更キーを押すと、通報先No.の1桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキーで通報先を指定します。通報先を有効にする場合、その通報先の番号を表示させます。通報先を無効にする場合、アップキーを押して、通報先を「＊」に変えます。

決定キーを押すと、指定された通報先が登録されます。
表示は検出時間の設定に変わります。

アップキー（または設定キーを押しながらアップキー）で検出時間を指定します。

決定キーを押すと、指定された検出時間が登録されます。
表示は、再び、通報先No.の設定に変わります。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

正しくお使いください

●ＳＣ－８５ＸをＤＣ電源専用で使用する場合、この設定の通報先はすべて「＊」としてください。

ﾂｳﾎｳｻｷ＝*****

● 実際の検出時間は、設定値より最大5秒ほど遅れる場合があります。

● ＳＣ－８５ＸをＤＣ電源専用で使用する場合、停電用内部電池に充電を行いませんので停電補償ができません。

■時計電池低下通報先の設定

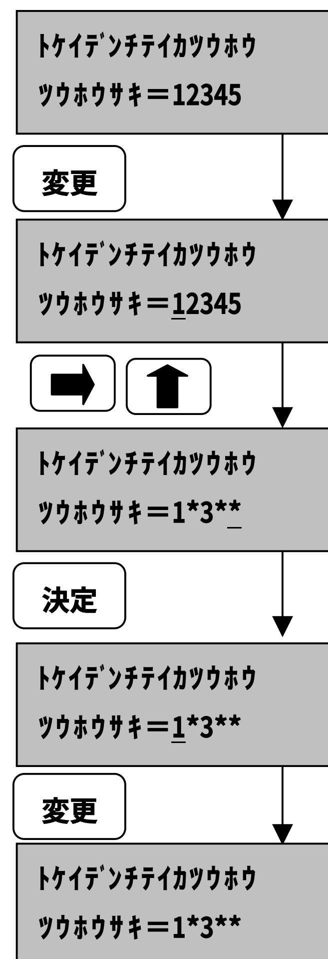
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「トケイデンチテイカツウホウ」にしてください。

変更キーを押すと、通報先 No. の1桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキーで通報先を指定します。通報先を有効にする場合、その通報先の番号を表示させます。通報先を無効にする場合、アップキーを押して、通報先を「＊」に変えます。

決定キーを押すと、指定された通報先が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



- 時計電池低下が通報された場合、電池の交換が必要です。最寄りの当社営業所までお問い合わせください。

■通報形態の設定のしかた

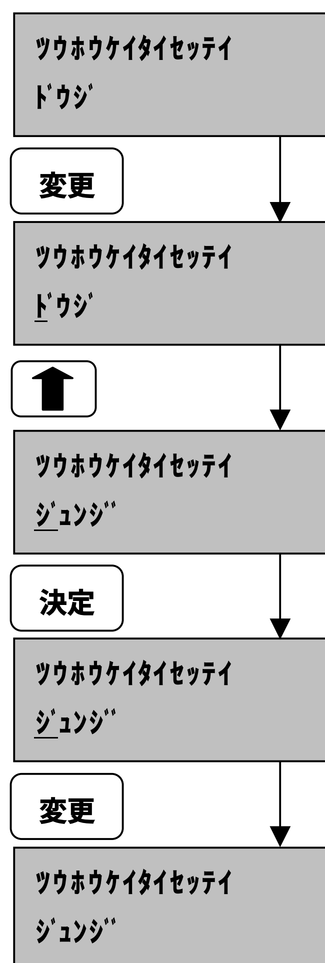
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ツウホウケイタイセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、通報形態の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで通報形態を「同時通報」とするか「順次通報」とするかを選択します。「同時通報」の場合は「ドウジ」を、「順次通報」の場合は「ジュンジ」を選択します。

決定キーを押すと、選択された通報形態が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



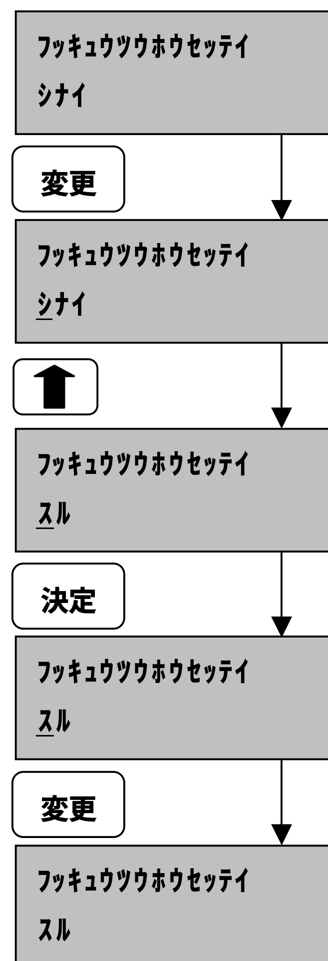
●通報形態の定義

通報形態の定義は次のとおりです。

同時通報：異常入力が発生したとき、各接点ごとに登録されたすべての通報先に通報する形態です。

順次通報：異常入力が発生したとき、各接点ごとに登録された通報先のどれかひとつに通報できれば、残りの通報先への通報をキャンセルする形態です。

■復旧通報の設定のしかた



基本設定モードレベル 2 に移行した後、シフトキーで設定項目を「フッキュウツウホウセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、復旧通報の 1 桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで復旧通報を行う場合は「スル」を、行わない場合は「シナイ」を選択します。

決定キーを押すと、復旧通報を行うか、行わないかの設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

正しくお使いください

● 停電の復旧通報については、「テイデンフッキュウツウホウ」にて設定となります。

■停電復旧通報の設定のしかた

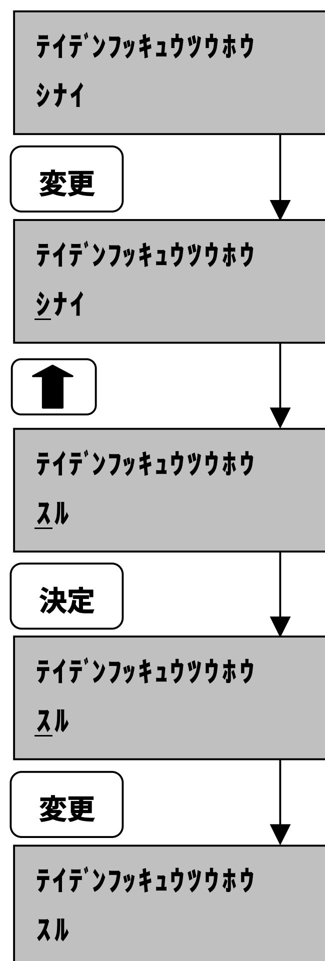
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「テイデンフッキュウツウホウ」にしてください。

変更キーを押すと、停電復旧通報の1桁目にカーソルが表示されます。

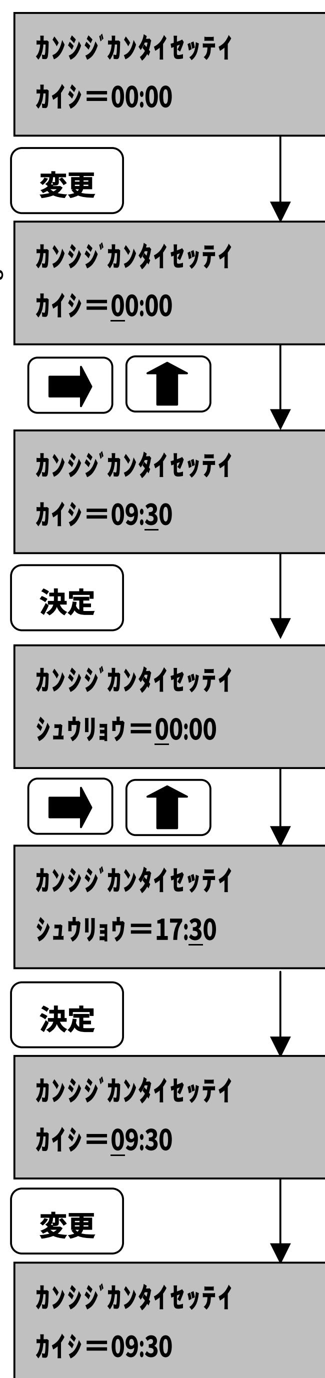
アップキーで停電復旧通報を行う場合は「スル」を、行わない場合は「シナイ」を選択します。

決定キーを押すと、停電復旧通報を行うか、行わないかの設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



■監視時間帯の設定のしかた



基本設定モードレベル２に移行した後、シフトキーで設定項目を「カンシジカンタイセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、監視開始時刻の１桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキー（または設定キーを押したままアップキー）で監視開始時刻を指定します。

決定キーを押すと、指定された監視開始時刻が登録されます。
表示は監視終了時刻の設定に変わります。

シフトキーとアップキー（または設定キーを押したままアップキー）で監視終了時刻を指定します。

決定キーを押すと、指定された監視終了時刻が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

※便利な使い方（時刻の設定）

アップキーを１秒以上押したままにすると、以降一定速度で昇順に表示が変化します。
設定キーを押しながらアップキーを１秒以上押したままにすると、以降一定速度で降順に表示が変化します。

正しくお使いください

- 監視時間帯以外の時間では、すべての接点入力、時計用電池の電圧および、停電の監視は行われません。よって、この間、これらの異常が発生（復旧）しても、通報は行いません。定期通報についても、この間は通報は行いません。また、外部からの電話に対する着信処理も行いません。（このとき監視中ＬＥＤは消灯しています。）
- 監視開始時刻と監視終了時刻が同時刻に設定された場合、監視は２４時間常に行われます。

■入力ＬＥＤクリアの設定のしかた

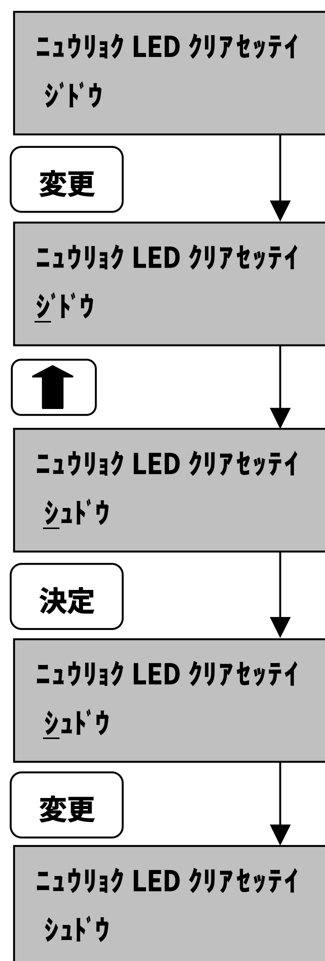
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ニュウリョクＬＥＤクリアセッテイ」にしてください。

変更キーを押した後、入力ＬＥＤクリア設定の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで、自動クリアを行う場合は「ジドウ」を、手動でクリアする場合は「シュドウ」を選択します。

決定キーを押すと、入力ＬＥＤクリアの設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

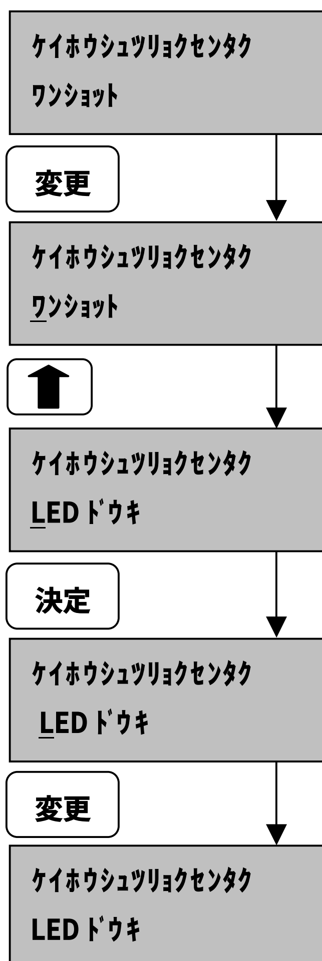


●入力ＬＥＤクリアの設定について

入力ＬＥＤクリアを手動で行うように設定した場合、点灯した入力ＬＥＤは、入力（接点入力1～8の異常入力、時計電池の電圧低下、停電）に継続中がなければ、監視モードで決定キーを押すことにより消灯（クリア）することができます。

入力ＬＥＤクリアを自動で行うように設定した場合、入力がなくなれば、自動的に消灯（クリア）します。

■警報出力選択の設定のしかた



基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ケイホウシュツリョクセンタク」にしてください。

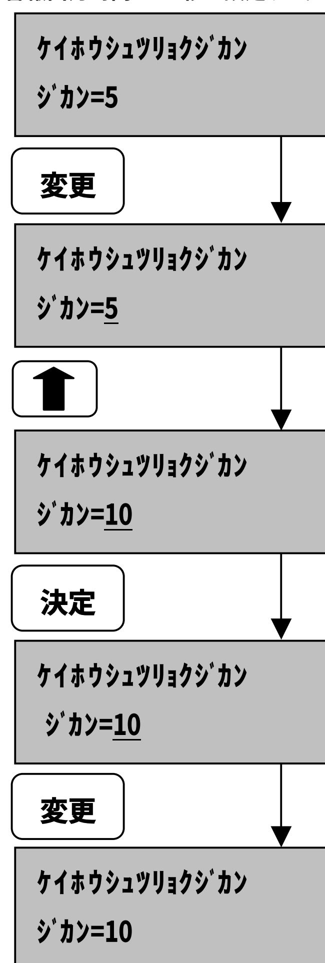
変更キーを押した後、警報出力選択の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーで入力ＬＥＤに同期させて出力する場合は「ＬＥＤドウキ」を、警報出力時間で設定された時間ワンショット出力させる場合は「ワンショット」を選択します。

決定キーを押すと、警報出力選択の設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

■警報出力時間の設定のしかた



基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「ケイホウシュツリョクジカン」にしてください。

変更キーを押した後、警報出力時間にカーソルが表示されます。

アップキーで警報出力させる時間を次から選びます。
１．０／３．０／５／１０／３０／６０／９０／１２０／１８０／２４０／３００（秒）

決定キーを押すと、警報出力時間の設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

正しくお使いください

- 警報出力時間の設定が有効になるには、「警報出力選択」の設定がワンショットになっている必要があります。警報出力選択の設定がＬＥＤドウキになっている場合、本警報出力時間の設定はできますが、ＬＥＤドウキの動作となります。
- 警報出力のワンショット動作中、再度ワンショットＯＮ時はタイマーをリスタートさせます。
- ワンショット動作中、設定モード移行で強制ＯＦＦします。
- 本警報出力を用いて、重要な制御を行わないでください。

■遠隔出力時間の設定のしかた

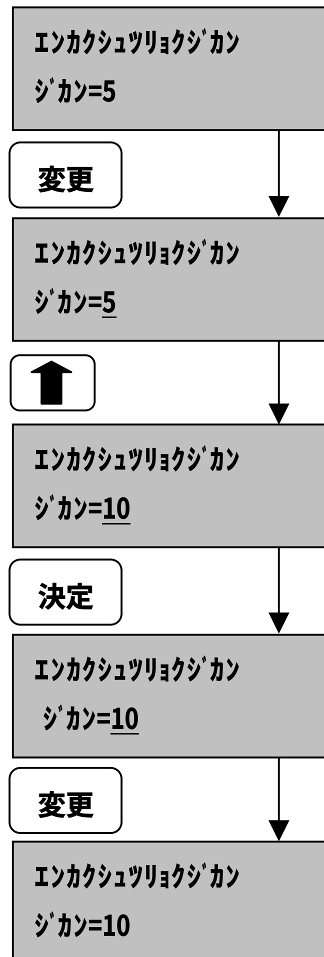
基本設定モードレベル2に移行した後、シフトキーで設定項目を「エンカクシュツリョクジカン」にしてください。

変更キーを押した後、遠隔出力時間にカーソルが表示されます。

アップキーで警報出力させる時間を次から選びます。
1．0／3．0／5／10／30／60／90／120／180／240／300（秒）

決定キーを押すと、遠隔出力時間の設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



●遠隔出力時間について

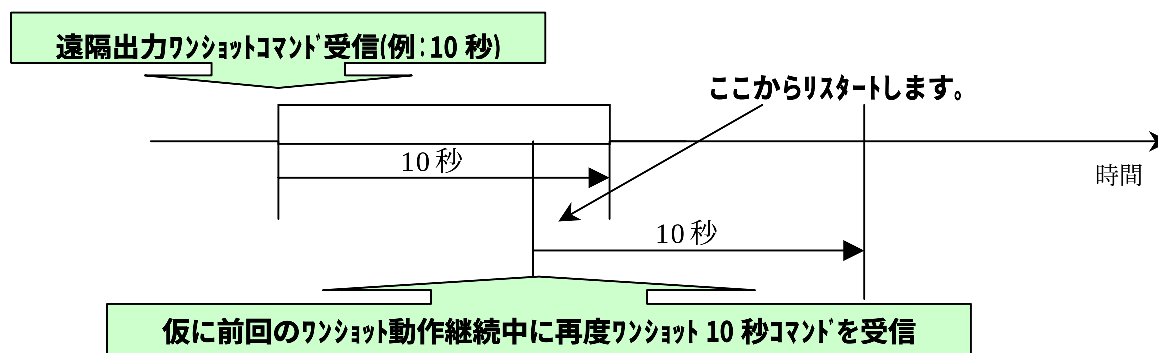
遠隔出力はDTMFコマンドモード下で有効な制御出力です。(「6－7DTMFコマンド受信機能」と併せてご参照ください)

DTMFコマンドで制御できる遠隔制御には下記の種類があります。(※DTMFコマンドモード下である必要があります。)

DTMFコマンド	遠隔出力の動作、状態
＃31	遠隔出力ON(保持) 新たな遠隔制御出力コマンドを受信した場合、停電などにより内部電源が無くなった場合、または設定モードに移行するまで遠隔出力ONを保持します。
＃32	本体の遠隔出力時間で設定されている時間分ワンショット動作を行います。
＃33nn	ワンショット時間を任意に遠隔からDTMFコマンドにて設定できます。 必ず2桁入力とし、5秒の場合は、"0""5"と入力してください。
＃30	遠隔出力動作強制OFF

※ 1．遠隔出力ワンショット動作中、並びに保持動作中に遠隔出力OFFコマンド(＃30)を受信した場合は、遠隔出力をOFFします。

※ 2．遠隔出力ワンショット動作中、並びに保持動作中に更に遠隔出力ワンショットコマンド、並びに保持出力コマンドを受信した場合は、その時点でタイマをリスタートさせます。(下図参照)



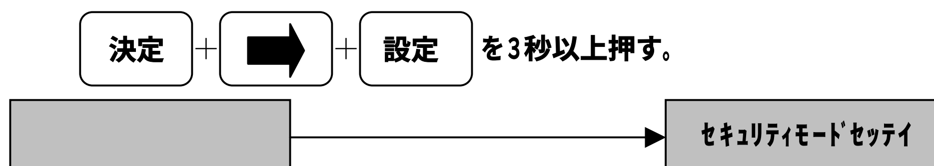
正しくお使いください

- ワンショット動作中、設定モード移行で強制OFFします。
- 本遠隔出力の設定はパソコンからの遠隔制御は有効となりません。
  DTMFコマンドのみ有効です。
- 本遠隔出力を用いて重要な制御は行わないでください。

5-4 特殊設定モードの設定

■特殊設定モードに入る

監視モードのとき、決定キーを押しながらシフトキー＋設定キーを3秒以上押し続けます。
設定項目「セキュリティモードセッテイ」が表示されます。



■設定項目を指定する

設定項目が表示されているとき、シフトキーを押すと、順次、項目が変わっていきます。
目的の項目になったときに、変更キーを押すと、その項目の設定内容とカーソルが表示されて、変更が可能になります。設定内容とカーソルが表示されているときに、再び、変更キーを押すと、設定項目の表示に戻ります。
設定項目が表示されている間に設定キーを押すと、監視モードに戻ります。

■設定内容を変更する

シフトキーとアップキーで設定内容を編集します。カーソルを移動させるためにはシフトキーを、カーソル位置の値を変えるためにはアップキーを押します。
設定内容変更の編集が終わったら、決定キーを押します。決定キーを押さないと、設定内容が変更されませんので、ご注意ください。

■設定作業を終了する

変更作業が終わったら、変更キーを押します。ここで、シフトキーを押すと、他の設定項目に移行するようになります。他に変更する項目がなければ、設定キーを押して、監視モードに戻ります。

設定項目	設定内容	ページ
セキュリティモード ｾｷｭﾘﾃｨﾓｰﾄﾞｾｯﾃｲ	ＳＣ－８５Ｘの動作モードを設定します。 動作モード：通常／セキュリティモード	5-37
遠隔監視解除操作 ｴﾝｶｸｶﾝｼｶｲｼﾞｮ	遠隔監視解除操作の有効･無効を設定します。 遠隔監視解除操作：無効／有効	5-39
暗証番号設定 ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳｾｯﾃｲ	暗証番号の有効／無効を設定します。 暗証番号：無効／有効	5-40
暗証番号 ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳ	暗証番号を設定します。 暗証番号：００００～９９９９	5-41
セキュリティ監視対象接点 ｾｷｭﾘﾃｨﾀｲｼｮｳｾｯﾃｲ	セキュリティ監視対象にするか、接点１～７それぞれについて設定します。 セキュリティ監視対象接点：常時／セキュリティ	5-42
ＦＳＫ送出レベル FSK ｿｳｼｭﾂﾚﾍﾞﾙ	ＦＳＫ送出レベルを設定します。 ＦＳＫ送出レベル：０～７	5-43
通報現場Ｎｏ． ﾂｳﾎｳｹﾞﾝﾊﾞ No.	通報するときの現場Ｎｏ．を５桁にするか、下３桁にするか、設定します。 通報現場Ｎｏ．：５桁／下３桁	5-44
設定初期化 ｾｯﾃｲｼｮｷｶ	設定モードにおいて設定した内容を全て初期値に戻します。 設定初期化：シナイ／スル	5-45

注：設定内容欄の　　　　　は初期値を示します。

■セキュリティモードの設定のしかた

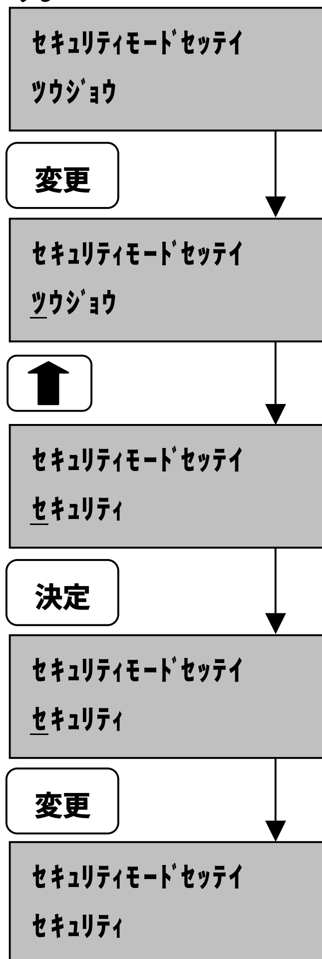
特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「セキュリティモードセッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、現在の動作モードの1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーを使って動作モードを指定します。通常モードを指定する場合は「ツウジョウ」を、セキュリティモードを指定する場合は「セキュリティ」を指定します。

決定キーを押すと、指定された動作モードが登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

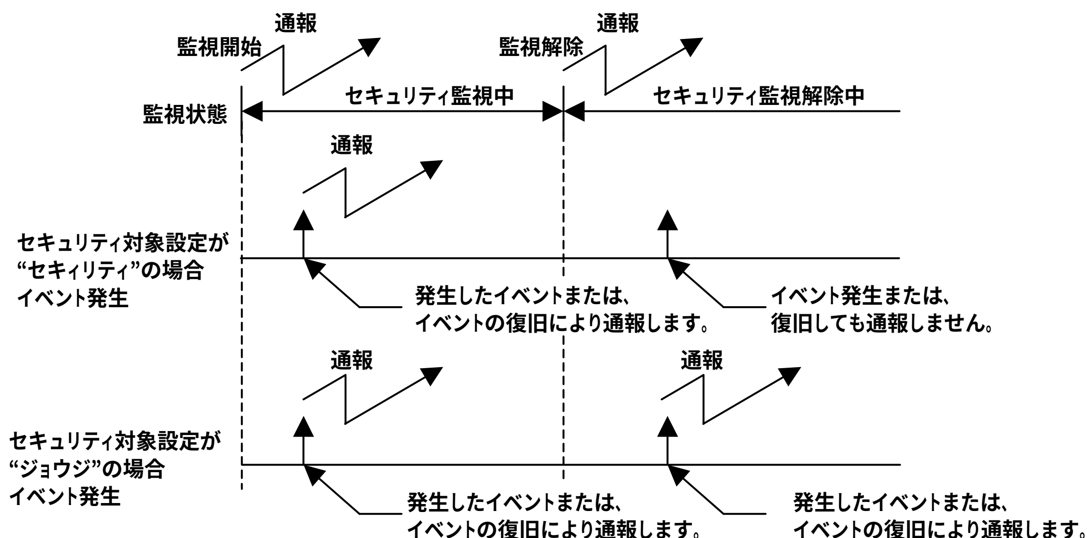


セキュリティモードの考え方について

セキュリティモードとは、現場および遠隔（ＤＴＭＦコマンドによる）からの『監視開始』『監視解除』ができるモードです。セキュリティ監視中は通常モードと同等の監視動作を行いますが、監視解除中は、セキュリティ対象のイベントは通報しません。このため、業務時間やメンテナンス中に誤った通報を防止することができます。この様に特定の期間通報しない様にするには、特殊設定モードの『セキュリティ対象設定』にてイベント入力を『セキュリティ』設定にしてください。

セキュリティモードの時、監視開始入力は接点入力８オープン、監視解除入力は接点入力８クローズとなり、監視中は監視中ＬＥＤが点灯し、解除中は監視中ＬＥＤが消灯します。

セキュリティモードで動作中に監視開始、監視解除入力があった場合には、設定されている通報先へ監視を開始、解除した通報を行います。



・ 監視開始、監視解除通報は接点８の通報先設定、及び入力判定時間に従います。
・ 解除中に監視対象となる接点は特殊設定モードにおけるセキュリティ監視対象接点の設定に従い、接点入力１～７の任意の接点を選択可能です。
・ セキュリティモードで電源が遮断（停電など）され、電源の供給が再開（復電）したときは、電源再投入した後の接点８の状態によります。
・ セキュリティモードでの定期通報は、セキュリティ監視状態のみ機能します。
・ セキュリティモードで監視が解除されている時、時計用電池切れの監視は行いません。
・ セキュリティモードの時、監視時間帯設定の内容は無効となります。但し、監視時間帯の設定メニューは表示します。
・ セキュリティモードで履歴を確認した場合、接点８の現在情報は０固定となります。
（接点８入力に変化があっても表示は変化しません。）
なお、接点８の現在の入力情報は監視中ＬＥＤにて確認することができます。
（ただし、ＤＴＭＦコマンドで監視開始／解除コマンドを受信した場合、監視中ＬＥＤは接点８の入力状態と異なることがあります）
・ ＤＴＭＦコマンドによる監視開始／解除コマンドと本体の接点入力８とは後入力優先となります。

■遠隔監視解除操作の設定のしかた

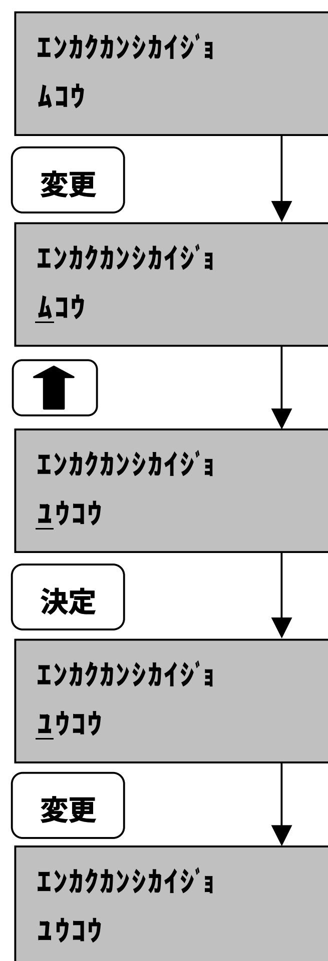
特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「エンカクカンシカイジョ」にしてください。

変更キーを押すと、現在の設定の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーを使って有効または無効を指定します。

決定キーを押すと、指定された設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



■暗証番号設定のしかた

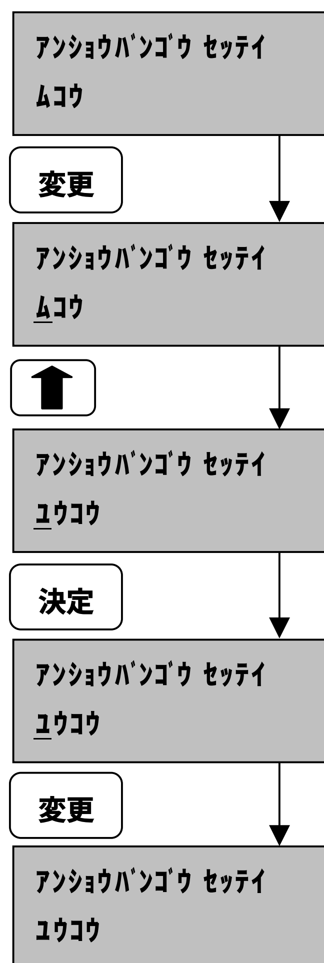
特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「アンショウバンゴウ　セッテイ」にしてください。

変更キーを押すと、現在の設定の1桁目にカーソルが表示されます。

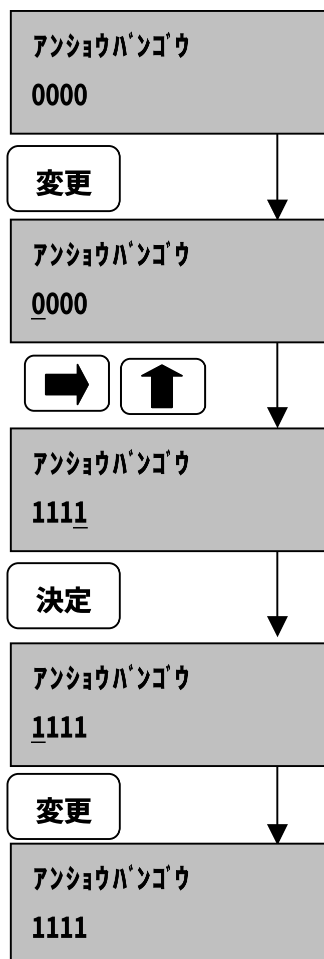
アップキーを使って有効または無効を指定します。

決定キーを押すと、指定された設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



■暗証番号の設定のしかた



特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「アンショウバンゴウ」にしてください。

変更キーを押すと、暗証番号の1桁目にカーソルが表示されます。

シフトキーとアップキー（あるいは、設定キーを押しながらアップキー）で、暗証番号を設定します。

決定キーを押すと、設定した暗証番号が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

※便利な使い方（暗証番号の設定）
アップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で昇順に表示が変化します。
設定キーを押しながらアップキーを1秒以上押したままにすると、以降一定速度で降順に表示が変化します。

正しくお使いください

●暗証番号をお忘れになられた場合は、本設定項目でご確認ください。
カーソルが消えている状態にて表示されている値が現在の暗証番号設定値となります。

■セキュリティ監視対象接点の設定のしかた

特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「セキュリティタイショウセッテイ」にしてください。

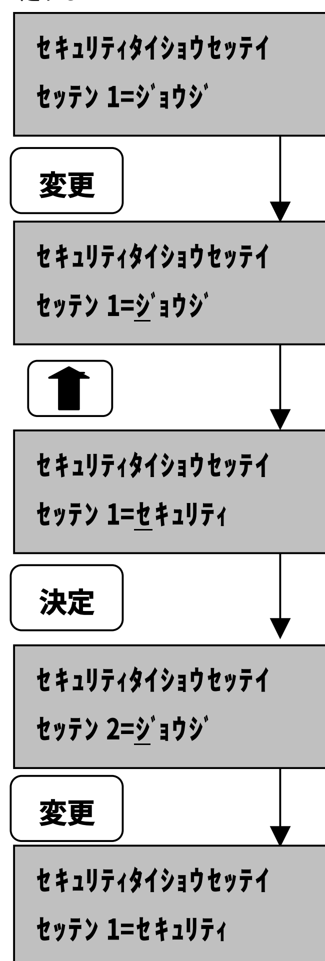
変更キーを押すと、接点1の設定の1桁目にカーソルが表示されます。

接点1をセキュリティ監視対象にする場合には、アップキーを押して、「セキュリティ」を選択します。通常の常時監視の場合は、「ジョウジ」を選択します。

決定キーを押すと、接点1の設定が登録されます。
表示は接点2の設定に変わります。

以下、同様に接点7まで、設定します。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。



正しくお使いください

●セキュリティモードの考え方については、5－4特殊設定モード、セキュリティモードの設定のしかたをご参照ください。

■ＦＳＫ送出レベルの設定のしかた

特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「ＦＳＫソウシュツレベル」にしてください。

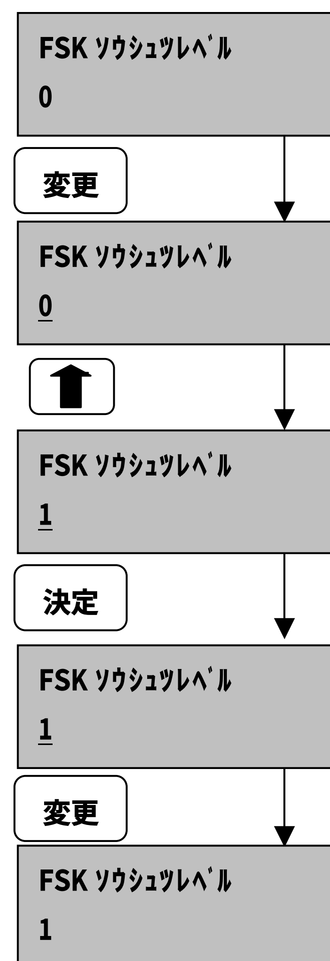
変更キーを押すと、現在の設定にカーソルが表示されます。

アップキーで、ＦＳＫ送出レベルを設定します。

決定キーを押すと、設定したＦＳＫ送出レベルが登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

ＦＳＫ送出レベルを１に設定する

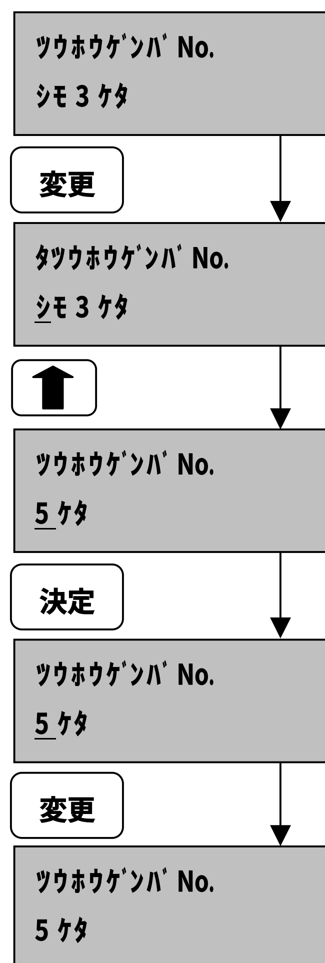


正しくお使いください　**要資格**

● この設定は回線への出力レベルを選択します。この設定を行うためには、アナログ3種以上の資格が必要です。（電話工事業者に依頼してください。）
線路損失：０ｄＢの場合→ＦＳＫ送出レベル：０に設定、
線路損失：１ｄＢの場合→ＦＳＫ送出レベル：１に設定、
線路損失：７ｄＢの場合→ＦＳＫ送出レベル：７に設定します。

■通報現場Ｎｏ．の設定のしかた

特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「ツウホウゲンバＮｏ．」にしてください。



変更キーを押すと、現在の設定の1桁目にカーソルが表示されます。

アップキーを使って、通報するときの現場Ｎｏ．を「下3桁」にするか、「5桁」にするか、設定します。

決定キーを押すと、指定された設定が登録されます。

変更キーを押すと、設定項目表示に戻ります。

正しくお使いください

- 本設定にて現場№を下3桁に設定しても基本設定モードレベル1で設定する現場№は5桁です。
- 本設定にて有効な通報は音声通報とデータ通報（パソコン通報）です。
- データ通報（パソコン通報）する場合は、5桁でないとセンタソフトが機種を認識できず、機能を全て使用できない可能性があります。
  センタソフト側の仕様と併せてご確認ください。

■設定初期化のしかた

特殊設定モードに移行した後、シフトキーで設定項目を「セッテイショキカ」にしてください。

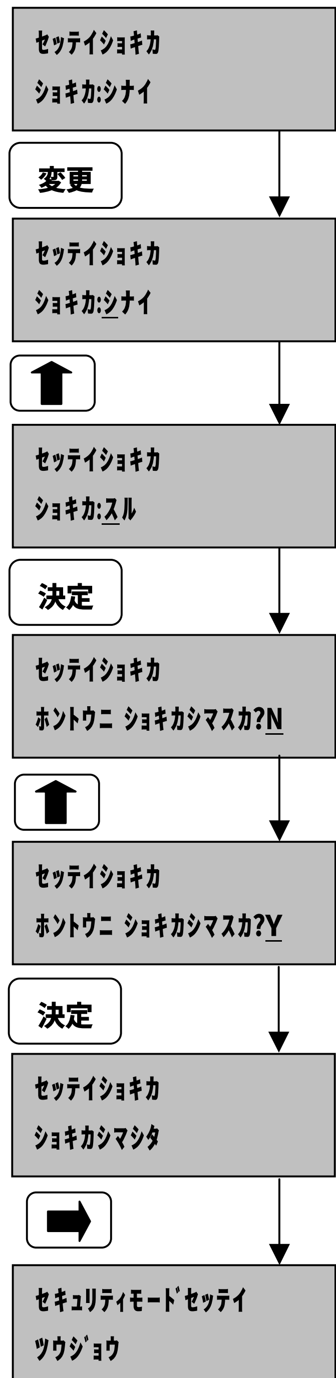
変更キーを押すと、「シナイ」の１桁目にカーソルが表示されます。

アップキーを押して、「ショキカ：スル」に設定します。

決定キーを押すと、「本当に初期化しますか？」と聞いてきますので、アップキーを押して、「Y」に設定します。

決定キーを押すと「初期化しました」と表示され、初期化が終了します。

この状態で、シフトキーを押すと、設定項目表示（セキュリティモード設定）に戻ります。



正しくお使いください

- 本設定初期化を実行しても登録されている任意音声、伝言メモは初期化（消去）されません。

5-5 任意音声メッセージの設定

ＳＣ－８５Ｘに任意音声録音･再生のＤＴＭＦコマンド（プッシュ信号）を送ることで、通報先電話機から、任意の音声を録音･再生することができます。（ＤＴＭＦコマンドについては「６－７　ＤＴＭＦコマンド受信機能」を参照してください。）
音声録音は、プッシュ（ＤＴＭＦ）信号が送出可能な電話機を用いて、アナログ２線式の一般回線を介して行います。なお、同様に録音した音声を再生して確認することもできます。
お使いの回線がダイヤルパルス回線であっても、プッシュ信号を出力できる電話機であればご使用可能ですが、プッシュ信号への切替操作が必要となる場合があります。
その操作方法は、お使いの電話機の取扱説明書をご参照ください。

■任意音声の録音方法には、ＳＣ－８５Ｘにダイヤルし、自動着信させて録音する方法と、音声通報時に録音する二通りの方法がありますが、どちらも基本的に録音･再生方法は同一です。
特殊設定モードの暗証番号設定が「有効」に設定されている場合、ＤＴＭＦコマンドモード移行後に、暗証番号が入力されていないと音声を録音･再生することができませんのでご注意ください。

■音声通報時または自動着信（現状確認）時の処理
ＳＣ－８５Ｘ音声通報時または自動着信（現状確認）時の概要は図１のようになります。
現場名／入力名／状態名の音声選択設定値がすべて「なし」設定の場合、音声が聞こえませんのでご注意ください。また、未録音状態で任意音声を選択しても同様です。

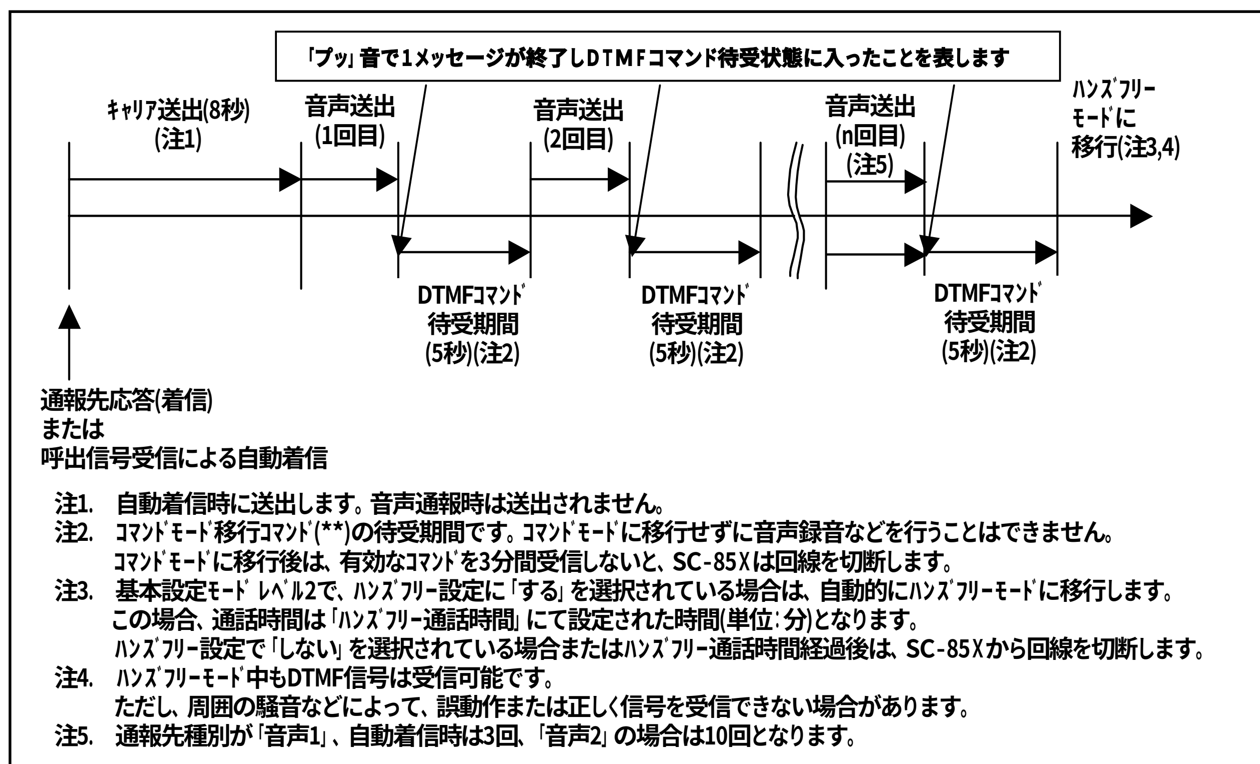
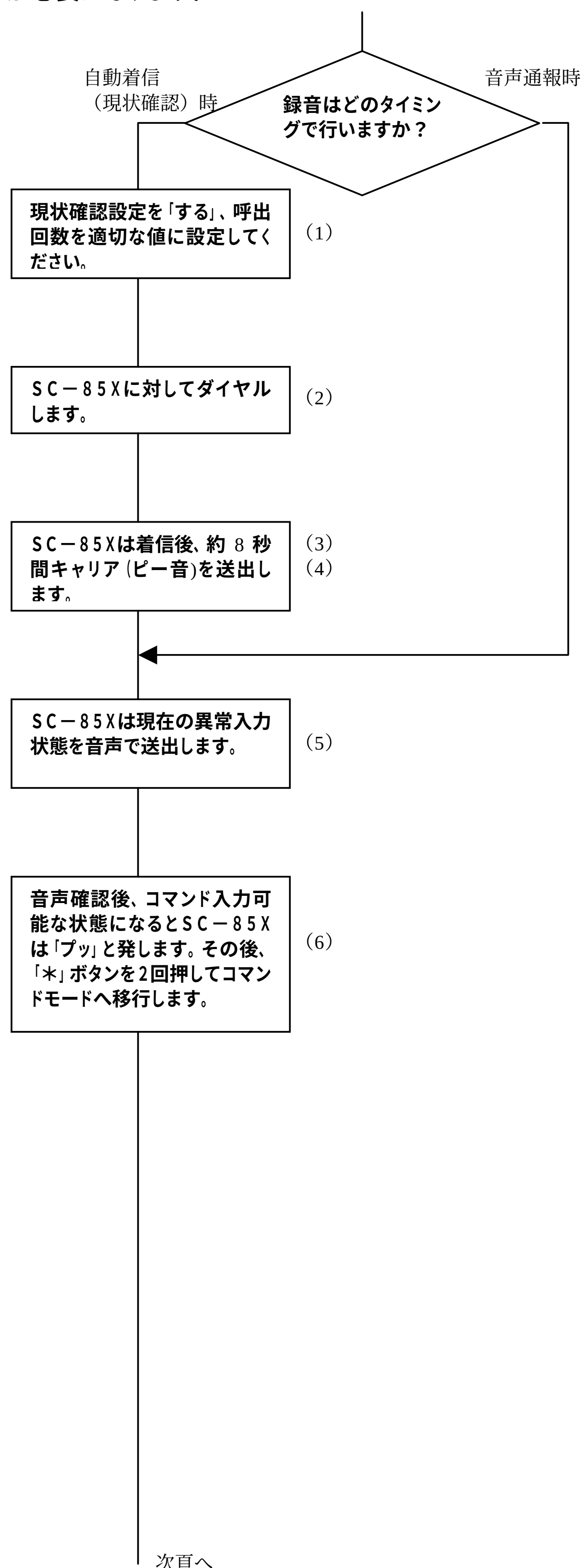


図１　音声通報または自動着信（現状確認）時の処理概要

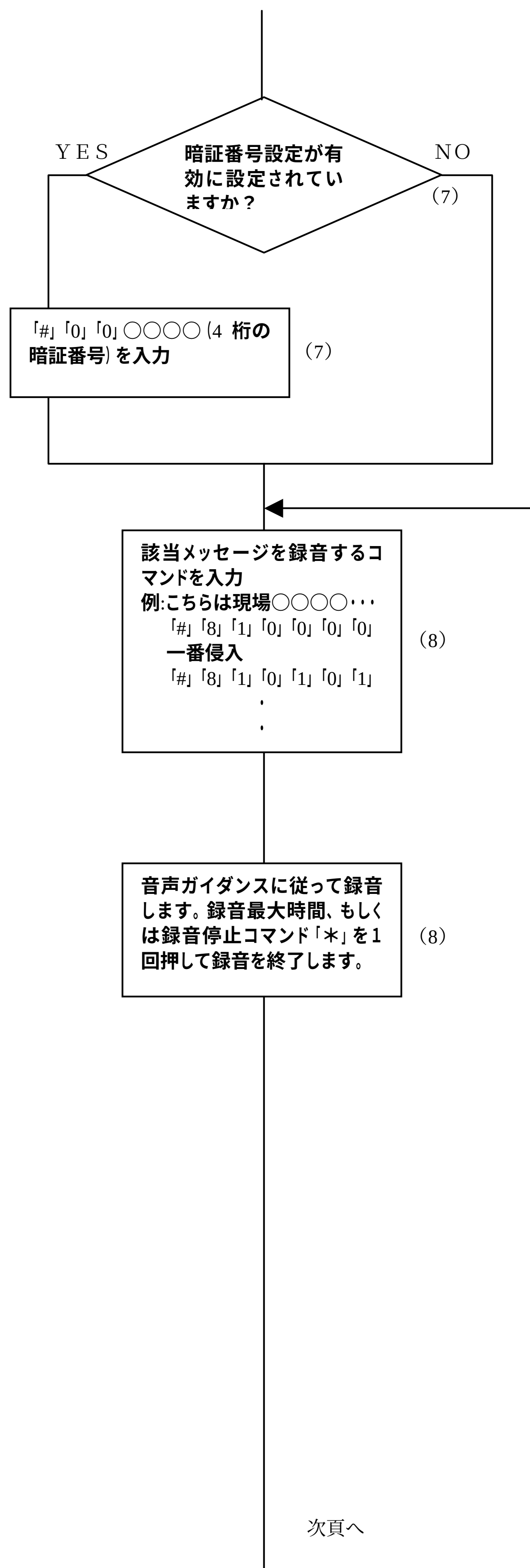
■基本的に自動着信させて録音する場合と音声通報時に録音する場合の録音方法は同一です。
自動着信させて録音する場合 (5) 項迄の動作が必要になります。

(1)　基本設定モードレベル２の現状確認設定を「する」、呼出回数を適切な値に設定してください。
(2)　電話機 (併設電話機を除く) からＳＣ－８５Ｘに対してダイヤルします。
(3)　ＳＣ－８５Ｘは、呼出信号を呼出回数設定値以上受信した場合、自動的に着信します。
(4)　着信後、ＳＣ－８５Ｘはかかってきた電話が電話機 (音声信号) によるものか、もしくはパソコン (モデム信号) によるものかを自動的に判別するため、約8秒間キャリア (ピー音) を送出します。
(5)　(4)項で相手からのキャリアを認識できなければ、ＳＣ－８５Ｘは現在の異常入力状態を音声で送出します。この期間は何もせずにお待ちください。
(6)　(5)項で音声が再生された後、「プッ」音で１メッセージが終了したことを表し、無音となる期間が5秒間あります。(図1 注 2 の部分)この期間に電話機の「＊」ボタンを2回押して、コマンドモードへ移行します。このとき、プッシュ信号送出切替が必要な電話機の場合、「＊」ボタンを押す前に切替操作を行ってください。送られた信号をＳＣ－８５Ｘが正常に認識した場合は、「コマンドモード」と音声ガイダンスが流れます。信号を正しく受信できない場合、「プップップッ」音となります。この場合、再度入力を行ってください。



(7) 特殊設定モードの暗証番号設定が「有効」に設定されている場合、任意音声を録音･再生するには暗証番号が必要です。「#」、「0」、「0」、○○○○（4桁の暗証番号）を入力してください。「プッ」音で入力された暗証番号と本体設定の暗証番号が一致したことを表します。「暗証番号を入力してください」と音声ガイダンス音または「プップップッ」音が鳴った場合、再度入力し直してください。暗証番号設定が「無効」に設定されている場合、暗証番号の入力は不要です。

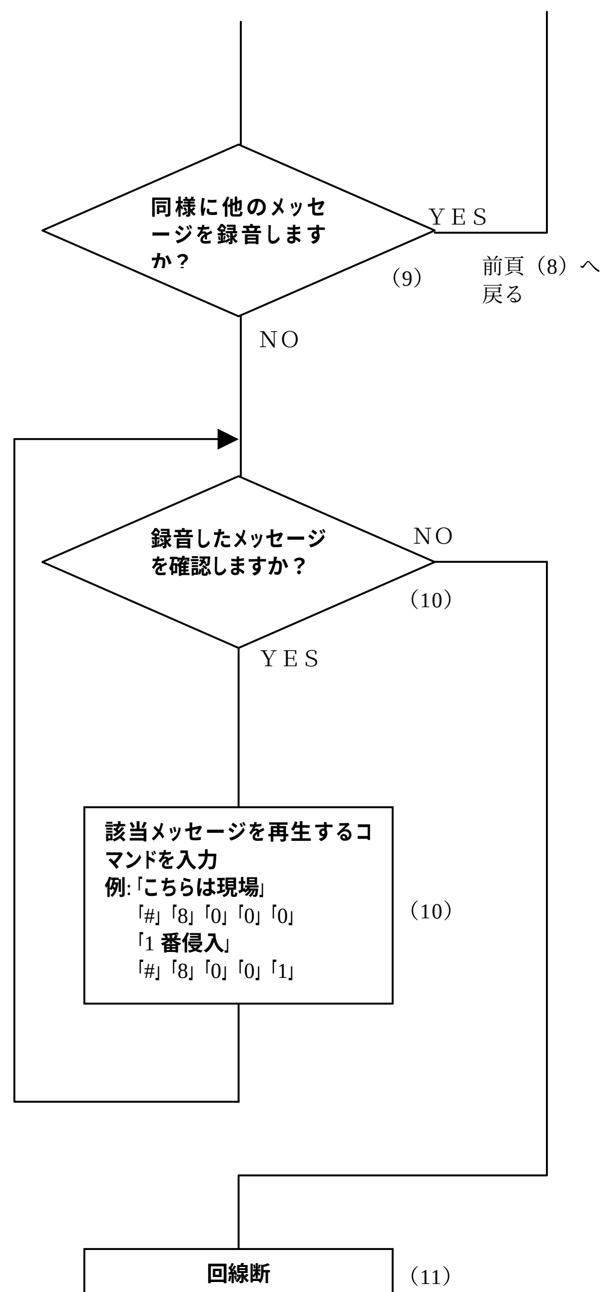
(8) 固定音声の「こちらは現場○○○○」を任意音声にしたい場合は、「#」、「8」、「1」、「0」、「0」、「0」、「0」の順に押してください。SC－85Xはこのコマンドを正しく受信したら、「録音します。プーッ」の音声ガイダンスを流し、録音を開始します。受話器に向かって現場名をお話ください。現場名の録音時間は最大20秒です。20秒を超える音声については、20秒で自動的に「プー」という長音を送出し、録音を終了しますが、20秒未満で録音を終了したい場合は、録音停止コマンド「＊」を1回押してください。SC－85Xは長音を送出し、録音を終了します。



(9)　同様に入力名／状態名を必要により録音します。(8)項の下線部の番号が表1の任意音声番号となります。なお、このときも、任意音声録音コマンド（＃81）は必要です。

(10)　録音した音声を再生して確認したい場合は、「#」「8」「0」に続き、表1の任意音声番号（2桁）を入力してください。該当番号の任意音声が再生されます。なお、録音・再生は何度でも繰り返し行うことができます。

(11)　必要な音声の録音・再生が終了した場合は、受話器を置くか、回線断コマンド（＃90）を発行してください。



■ 通報メッセージに任意音声を使用する場合には、分類毎に任意音声を選択する必要があります。
固定音声と任意音声の関連及び設定項目は下記の通りです。

表1 固定音声と任意音声の関連と設定項目

分類	固定音声	任意音声		関連設定項目
		番号	最大録音時間	
現場名	「こちらは現場○○○○○」 ※○○○○○は、5桁又は下3桁の現場番号設定値となります。	00	20秒	現場名音声選択
入力名	1番侵入	01	各10秒	入力名音声選択
	2番侵入	02		
	火災	03		
	ガス漏れ	04		
	非常事態	05		
	6番異常	06		
	7番異常	07		
	8番異常	08		
状態名	「発生」	11	各10秒	状態名音声選択
	「復旧」	12		
	「継続中」	13		

音声録音の場合、既に録音している音声の誤消去を防止するため、下記のように同一番号を2回入力します。

・現場名任意音声　「#」「8」「1」 「0」「0」 「0」「0」
・入力1任意音声　「#」「8」「1」 「0」「1」 「0」「1」
・発生任意音声　「#」「8」「1」 「1」「1」 「1」「1」

(例1) 接点1がONした場合に、「こちらは駅前ビルです。1階ホール空調設備、故障が発生しました」と音声通報するように任意音声を録音する。

(1)任意音声番号「00」に「こちらは駅前ビルです」を録音する。　(＃810000で録音)
(2)任意音声番号「01」に「1階ホール空調設備」を録音する。　(＃810101で録音)
(3)任意音声番号「11」に「故障が発生しました」を録音する。　(＃811111で録音)
(4)任意音声番号「13」に「故障が継続中です」を録音する。　(＃811313で録音)
復旧通報を行う場合は、任意音声番号「12」に復旧メッセージを録音してください。

(例2) 復旧通報を行わない場合は、下記のような方法もあります。

(1)任意音声番号「00」に「こちらは駅前ビルです」を録音する。　(＃810000で録音)
(2)任意音声番号「01」に「1階ホール空調設備故障が発生しました」を録音する。
(＃810101で録音)
この場合、状態名の音声選択は「なし」に設定してください。

正しくお使いください

- 「定期通報です」、「停電」、「電池の電圧が低下しています」、「すべて正常です」、セキュリティモードでご使用時の「監視を開始しました」「監視を解除しました」の固定音声は任意音声に変更することはできません。

- 下記例のように入力毎または状態毎に音声選択はできません。
  - ・接点１を任意音声、接点２を固定音声としたい
  - ・発生／復旧を任意音声、継続中を固定音声としたい

- 任意音声を録音しても、基本設定モードレベル２の現場名／入力名／状態名が固定音声に設定されていると任意音声では通報しませんので、音声選択を必要により「任意」に設定してください。

- 音声選択が「任意」に設定されている場合、通報時の音声は録音された通りに通報しますので、必ず録音された内容を再生コマンドにてご確認いただくようにお願いします。

- 公衆回線の環境によっては回線損失が大きく、録音した任意音声が聞こえにくくなる場合がありますので、音声を録音される場合は、できる限り周囲の騒音が少ないところにて明瞭な大きめの声で録音していただくことをお奨めします。

第6章　機能

各種機能について説明します。

6-1 電話への音声通報

音声通報に設定されている通報先について、通報すべき異常の発生または復旧した場合などに、その状態を音声メッセージにて通報します。
音声メッセージは、固定音声または、任意音声の組み合わせで異常内容（状態）を通報します。
本章で説明する固定音声による通報の現場Ｎｏは「下３桁」の例です。通報現場の設定が「５桁」の場合は５桁での通報となります。

■異常発生・復旧通報

接点入力１～８、停電の異常入力毎に発生、復旧（注１）、継続の状態を付加します。
以下に音声通報の代表例を示します。

例１：固定音声による通報
「こちらは現場○○○、１番侵入発生、２番侵入復旧、火災継続中。」
例２：任意音声による通報
「こちらは竹中エンジニアリング株式会社です。実験室漏電発生、空調設備異常発生。」

注１．接点入力の復旧通報を行うには、復旧通報設定を「スル」にする必要があります。設定方法については「復旧通報設定のしかた」をご参照ください。
注２．停電復旧通報を行うには、停電復旧通報設定を「スル」にする必要があります。設定方法については「停電復旧通報設定のしかた」をご参照ください。
注３．固定音声と任意音声の組み合わせも可能です。（詳細は「5-7　任意音声メッセージの設定」を参照してください。）
注４．停電の発生／復旧については、固定音声にて通報します。

■定期通報

あらかじめ設定された時刻に、その時点の異常入力状態を通報します。
（定期通報の考え方については５－３基本設定モードレベル２　定期通報の設定のしかたを参照してください）

例１：固定音声による通報
「定期通報です。こちらは現場○○○、すべて正常です。」
例２：任意音声による通報
「定期通報です。こちらは竹中エンジニアリング株式会社です。空調設備異常継続中。」

※メンテナンスボタン（決定キー）操作による通報内容は定期通報と同一となります。

■バッテリ異常通報

バッテリ（時計用電池）の電圧が低下すると、あらかじめ設定された通報先へその旨を通報します。
通報内容は次のとおりです。

「こちらは現場○○○、電池の電圧が低下しています。」

時計電池低下通報の場合、「電池の電圧が低下しています。」は固定音声にて通報します。
「こちらは現場○○○」は任意音声にすることもできます。

■監視開始通報（セキュリティモードでご使用中のみ）

セキュリティモードで、監視開始入力が入ったとき、あらかじめ設定された通報先へその旨を通報します。通報内容は次のとおりです。

「こちらは現場○○○、監視を開始しました。」

※監視開始通報のあと、再び、監視開始入力が入っても、監視開始通報は行いません。
※セキュリティモードの考え方については５－４　特殊設定モード、　セキュリティモードの設定のしかたを参照してください。

■監視解除通報（セキュリティモードでご使用中のみ）

セキュリティモードで、監視解除入力が入ったとき、あらかじめ設定された通報先へその旨を通報します。通報内容は次のとおりです。

「こちらは現場○○○、監視を解除しました。」

※監視解除通報のあと、再び、監視解除入力が入っても、監視解除通報は行いません。
監視開始通報及び監視解除通報の場合、「監視を開始しました」「監視を解除しました」は固定音声にて通報します。「こちらは現場○○○」は任意音声にすることもできます。

正しくお使いください

●通報音声にお客様が録音した任意音声を使用することも可能です。設定方法については第5章の「現場名音声選択の設定のしかた」、「入力名音声選択の設定のしかた」、「状態名音声選択の設定のしかた」、「任意音声メッセージの設定」を参照してください。
●例文中の○○○○○は次のとおりです。(固定音声と任意音声の選択が可能)
　固定音声：現場ID (5桁又は3桁の数値)
　　　　　例) 通報現場No「下3桁」現場ID=00123の場合「123」
　　　　　　通報現場No「5桁」現場ID=00123の場合「00123」
　任意音声：録音した任意の音声 (任意音声の場合には「こちらは現場」という音声は付加されません。)
●異常発生・復旧通報の例1,例2下線部は次のとおりとなります。
　固定音声：

接点入力	通常モード	セキュリティモード
1	1番侵入	1番侵入
2	2番侵入	2番侵入
3	火災	火災
4	ガス漏れ	ガス漏れ
5	非常事態	非常事態
6	6番異常	6番異常
7	7番異常	7番異常
8	8番異常	ー

　任意音声：入力番号に対応して録音した任意の音声
　　　　　「実験室漏電」、「空調設備異常」
●電話への通報で、受話器をとっても音声が聞こえない場合は、「もしもし」と言ってください。SC－85Xは通報先からの音声を認識して、相手が着信したと判断し、音声を送出します。

6-2 ハンズフリー通話

集音マイクと外部スピーカを併用することにより、音声通報先との簡易的な通話が可能です。
ハンズフリー通話状態では集音マイクと外部スピーカを電話回線に接続します。
目的に応じて集音マイクのみ、または外部スピーカのみでのご使用も可能です。

ハンズフリー通話機能は音声通報先への通報時、または電話機による現状確認時に有効な機能です。ハンズフリー設定を「スル」にした場合は所定の回数の音声メッセージ送出後、自動的にハンズフリー通話に切り替わります。DTMFコマンドで切り換えることも可能です。
また、ハンズフリー通話に切り換わると、ハンズフリー通話時間で設定した時間の経過後、自動的に電話を切断します。

正しくお使いください

●集音マイクと外部スピーカは付属していません。推奨品を別途お求めください。
●通話距離は集音マイクと外部スピーカの設置場所などの設置環境に依存します。
●設置時には外付けマイクとスピーカに内蔵するボリューム調整が必要です。ハウリングが発生しないように最適な設置場所を選び、ボリューム調整を行ってください。

6-3 パソコンへのデータ通報

パソコンへの通報はＦＳＫ（３００bps）信号によって行われます。
本章で説明するパソコンデータ通報の現場Ｎｏ．は「5桁」の例です。
通報現場Ｎｏ．の設定が「下３桁」の場合は「下３桁」での通報となります。

■インターフェース仕様

ＳＣ－８５Ｘと通信するためには、パソコン側のモデムに、通信用アプリケーションに以下の機能がサポートされていることが必要です。

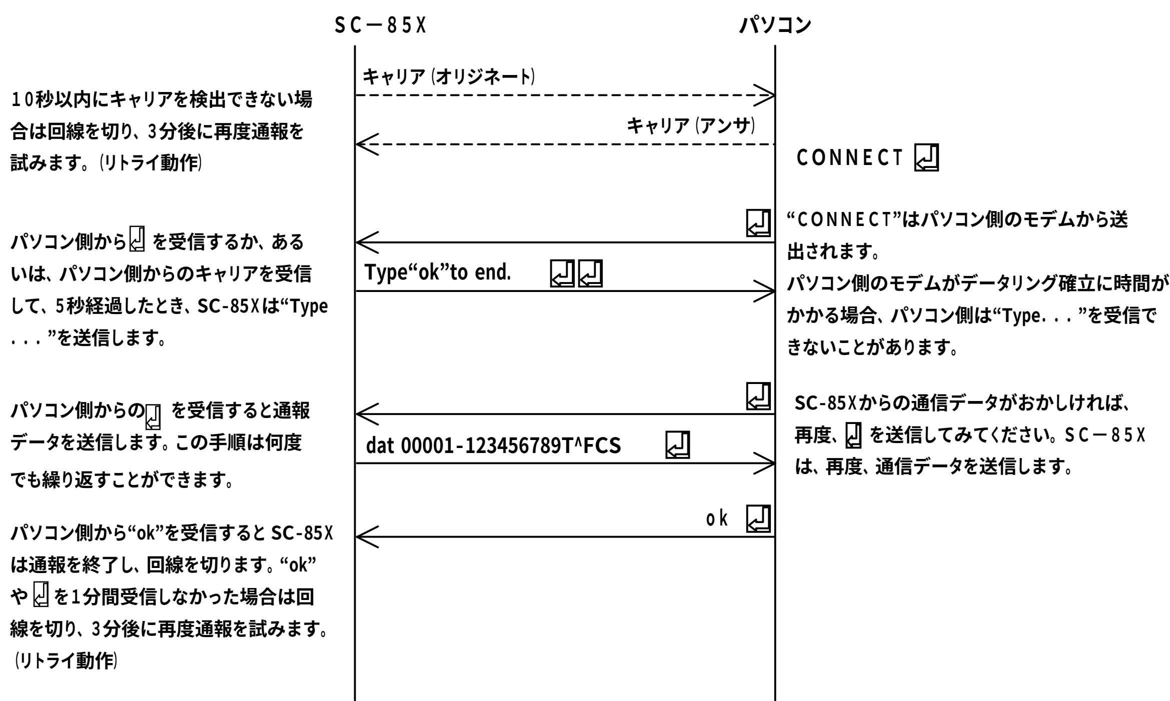
通信規格	ITU－T　Ｖ．２１
通信速度	３００bps
データ長	８bit
ストップビット	１bit
パリティ	なし

正しくお使いください

●ＳＣ－８５Ｘでは受信した文字（パソコン側から送信した文字）のエコーバックは行いません。
パソコンのコンソール上でパソコン側から送信する文字を表示するためには、パソコン側のモデムまたは通信アプリケーションでローカルエコーバックを行うように設定する必要があります。
●ＳＣ－８５ＸではＸｏｎ／Ｘoff制御は行いません。
●パソコン側のモデム、通信アプリケーションの設定の仕方については、それぞれのマニュアルをご覧ください。
●データ通報（パソコン通報）する場合、通報現場Ｎｏの設定は5桁でないとセンタソフトが機種を認識できずＳＣ－８５Ｘの機能を全て使用できない可能性があります。
センタソフト側の仕様と併せてご確認ください。

■通報における信号の流れ

通報におけるＳＣ－８５Ｘとパソコン側との通信は以下の手順で行います。



※ はキャリッジリターンコード（１０進表記で１３，１６進表記で０Ｄ）です。

※ＦＣＳは Frame Check Sequence の略で、ＳＣ－８５Ｘからの信号の各文字の排他的論理和をとった8ビットデータを2文字のＡＳＣⅡコードに変換したものです。また、^はＦＣＳの前につく識別コードです。

dat 00001-123456789T^FCS

FCS の計算範囲

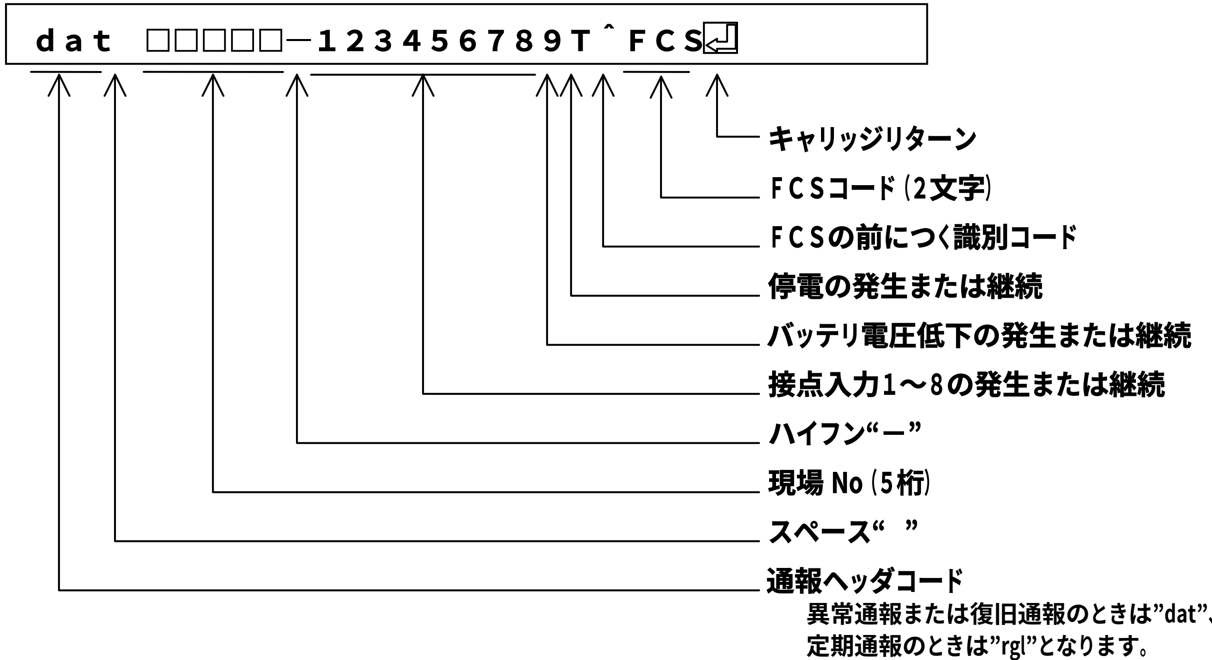
正しくお使いください

●パソコン側のモデムがデータリンク確立に時間がかかる場合、パソコン側は“Type．．．”を受信できないことがあります。
パソコン側のモデムで通信速度を自動認識させている場合、パソコン側のモデムの通信規格はITU－T　V．21に設定し直してください。
通信速度の自動認識はあまりお薦めできません。

●ＳＣ－８５Ｘではログイン手順（通信のはじめにログイン名やパスワードを要求するタイプ）はサポートしていません。

■異常発生／復旧通報

接点入力1～8、バッテリ電圧低下、停電のいずれかの異常が発生または復旧すると、あらかじめ設定された通報先に異常内容を通報します。



※復旧した接点入力または異常がない接点入力は「0」となります。
バッテリ電圧低下、停電についても同様です。

なお、復旧通報は、復旧通報設定で復旧通報を「スル」に設定する必要があります。復旧通報についてはは「復旧通報の設定のしかた」をご覧ください。

■定期通報

あらかじめ設定された時刻に、その時点の異常入力状態を通報します。
（定期通報の考え方については5－3 基本設定モードレベル2の設定、定期通報の設定のしかたを参照してください）

rgl □□□□□－0000000000＾FCS ↵	すべて異常無しのとき
rgl □□□□□－1000000800＾FCS ↵	接点入力1と8の異常が継続中のとき

※メンテナンスボタン（決定キー）操作による通報内容は定期通報と同一となります。

■監視開始通報

セキュリティモードで、監視開始入力が入ったとき（接点入力8オープン）、あるいは監視開始のDTMFコマンドを受信したときに、予め設定された通報先にその旨を通報します。通報内容は次の通りです。

```
sta □□□□□－0000000000^FCS ↵
```

※監視開始状態で、DTMFにて監視開始コマンドを受信しても再度監視開始通報は行いません。
（監視解除から監視開始の変化時に通報を行います。）

■監視解除通報

セキュリティモードで、監視解除入力が入ったとき（接点入力8クローズ）、あらかじめ設定された通報先へその旨を通報します。通報内容は次のとおりです。

```
end □□□□□－0000000000^FCS ↵
```

※監視解除状態で、DTMFにて監視解除コマンドを受信しても、再度監視解除通報は行いません。
（監視開始から監視解除の変化時に通報を行います。）

セキュリティモードの考え方については、5－4特殊設定モード、セキュリティモードの設定のしかたをご参照ください。

正しくお使いください

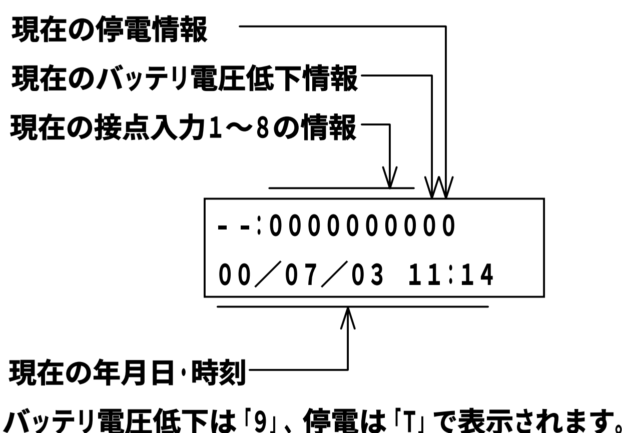
監視開始／解除通報時、継続中の異常がある場合、その情報も含めて通報します。

6-4 異常通報の確認

■異常通報データの構成

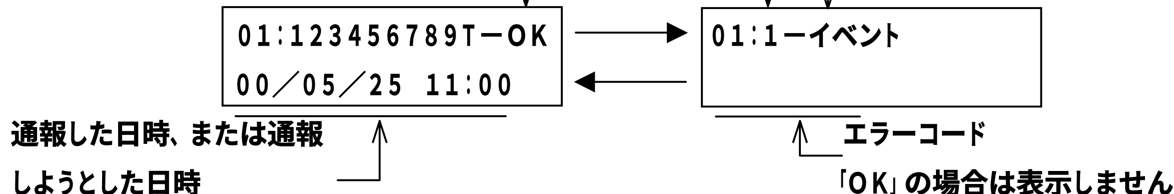
ＳＣ－８５Ｘでは２９回分の異常通報の内容を記録できます。異常通報のデータが２９回を越えると古いものから消去して、常に新しいものから２９回分のデータが記録されます。データの構成はつぎのようになります。

・現在の内容

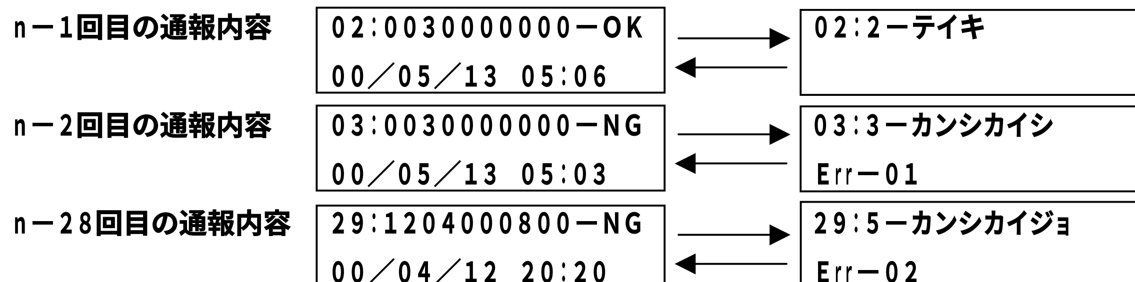


※バッテリ電圧低下は「9」、停電は「T」で表示されます。

・n回目の通報内容

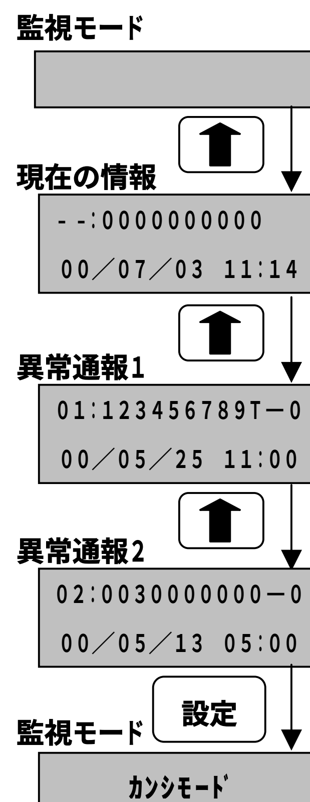


※エラーコードの内容については、「第７章　ﾄﾗﾌﾞﾙｼｭｰﾃｨﾝｸﾞ」を参照してください。



■情報を確認する

監視モードのとき、アップキーを押すと、履歴モードに入ります。



最初は現在の情報が表示されます。ここで、アップキーを押すと、異常通報があれば、その内容が表示されます。

アップキーを押すごとに、先頭の番号が進みます。29回以上異常通報があれば、29回目まで表示すると、また、現在の情報を表示します。

29回以下であれば、異常通報した数だけ表示して、現在の表示に戻ります。

確認が済んだら、設定キーを押して、監視モードに戻ります。10分間キー操作をしなかった場合は、自動的に、監視モードに戻ります。

正しくお使いください

●本体動作がセキュリティモードの場合、接点8の現在情報は、0固定となります。
（接点8入力に変化があっても表示は変化しません。）
なお、接点8の現在の入力情報は監視中LEDにて確認することができます。
（ただし、DTMFコマンドで監視開始／解除コマンドを受信した場合、監視中LEDは接点8の入力状態と異なる事があります。）
セキュリティモードの考え方については、5－4特殊設定モード、セキュリティモードの設定のしかたをご参照ください。

6-5 電話による現状確認

現状確認「スル」に設定されているとき、ＳＣ－８５Ｘに対して電話をかけると、現在の情報を音声で確認できます。着信までの呼出音の回数は、「**呼び出し回数**」の設定値に従います。「**呼び出し回数**」については「**現状確認の設定のしかた**」をご覧ください。

ＳＣ－８５Ｘからの内容はつぎのとおりです。

正常のとき：

「こちらは現場○○○○○、すべて正常です。」

異常があるときは：

「こちらは現場○○○○○、□□□□継続中、□□□□継続中。」

正しくお使いください

●ＳＣ－８５Ｘは着信後かかってきた電話が電話機（着信信号）によるものかもしくはパソコン（モデム信号）によるものかを自動的に判断するため、約8秒間（ピー音）を送出します。この時、パソコン（モデム信号）のキャリアを検出できなければ現在の状態を音声で送出します。

●例文中の○○○○○は次のとおりです。（固定音声と任意音声の選択が可能）

固定音声：現場ＩＤ

例）現場ＩＤ＝１２３４５の場合

通報現場Ｎｏ．５桁　→「１２３４５」

下３桁→「３４５」

任意音声：録音した任意の音声（なお、任意音声の場合、固定音声の場合とは異なり、「こちらは現場」という音声は付加されません。）

●例文中の□□□□は次のとおりです。

固定音声：

接点入力	通常モード	セキュリティモード
1	1番侵入	1番侵入
2	2番侵入	2番侵入
3	火災	火災
4	ガス漏れ	ガス漏れ
5	非常事態	非常事態
6	6番異常	6番異常
7	7番異常	7番異常
8	8番異常	－

任意音声：入力番号に対応して録音した任意の音声

例）「実験室漏電」、「空調設備異常」

●内線に接続した場合、「**呼び出し回数**」の設定値以下の呼出音回数で着信することもあります。

●外部から電話をかけて異常入力内容を確認しているときに異常が発生した場合は、新たな異常についても「・・・継続中」というメッセージを送出します。この異常の発生通報は、確認終了後にあらためて、行います。

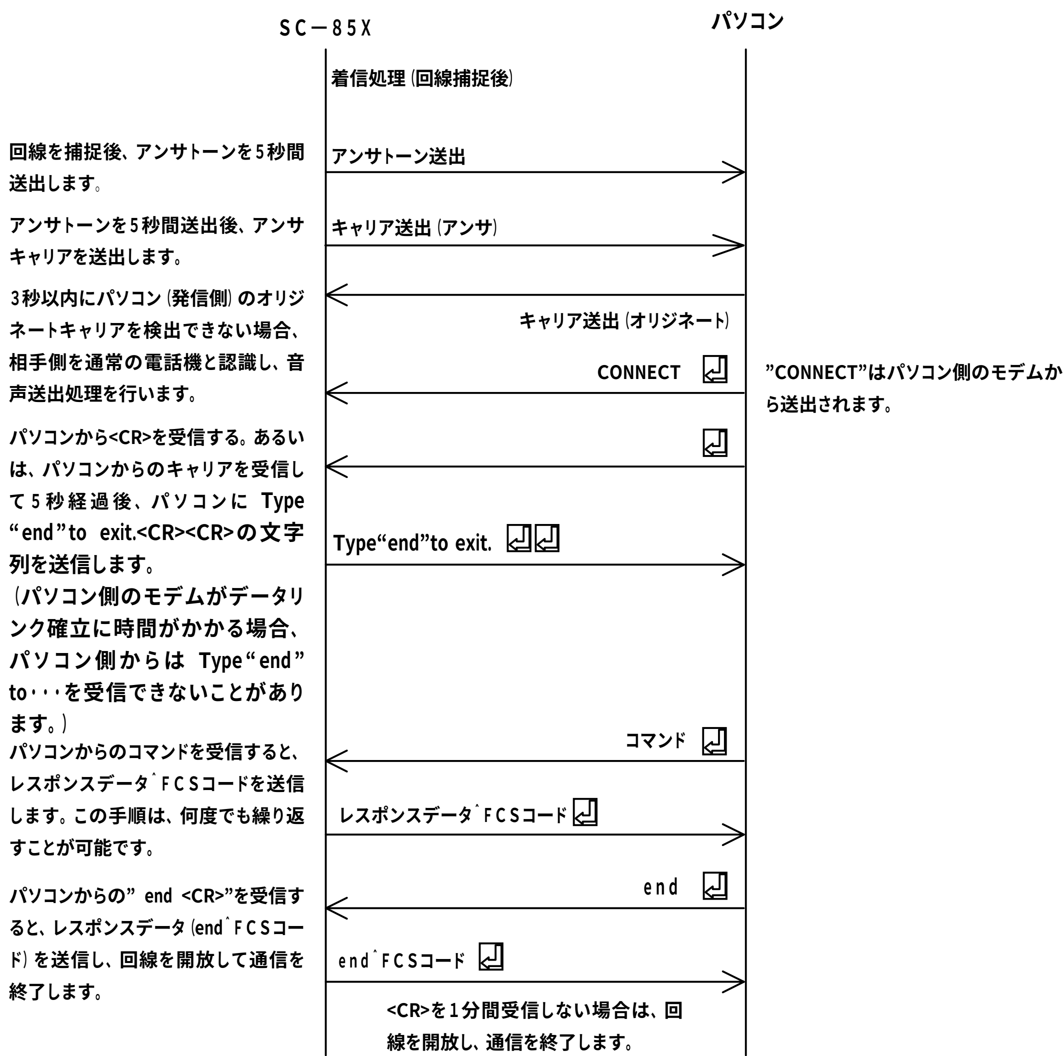
6-6 パソコンによる現状確認

現状確認「スル」に設定されているとき、ＳＣ－８５Ｘに対してパソコン側から通信を行うと、現在の情報をパソコン側で得ることができます。着信までの呼出音の回数は、「呼び出し回数」の設定値に従います。（「現状確認の設定のしかた」参照）

パソコンによる確認のためのインターフェース仕様は「6-3 パソコンへのデータ通報」を参照してください。

■確認における信号の流れ

確認におけるＳＣ－８５Ｘとパソコン側との通信は以下の手順で行います。
パソコン側からＳＣ－８５Ｘにコマンドを送信し、ＳＣ－８５Ｘのレスポンスデータを得ることにより、現在の設備の状況を確認することができます。



※ ⏎はキャリッジリターンコード（10進表記で13，16進表記で0D）です。

※ＦＣＳは Frame Check Sequence の略で、ＳＣ－８５Ｘからの信号の各文字の排他的論理和をとった8ビットデータを2文字のＡＳＣII コードに変換したものです。

また、＾はＦＣＳの前につく識別コードです。

レスポンスデータ＾ＦＣＳ ⏎

ＦＣＳの計算範囲

■コマンドとレスポンスデータ

ｒｄｖ 機器および各入力の状態を得る	
機能	機器のバージョン、時計ICの日付と時刻、各接点入力等の現在の状態を得ます。
文法	rdv ⏎
レスポンス	VERSION　: X.XXX^FCS⏎ ← 機器のバージョン DATE　　　: 2000/08/09 WED 15:03:00^FCS⏎ ← 時計ICの日時 TERMINAL:123456789T^FCS⏎ ← 接点入力等の状態
解説	このコマンドによって現在の機器や設備の状態を確認することができます。 各レスポンスデータの内容はつぎのとおりです。 機器のバージョン： *X.XXX* ←機器のソフトウェアのバージョンをあらわします。 時計ICの日時： 西暦年／月／日／曜日　時：分：秒（00 固定） 曜日：日曜日：SUN　月曜日：MON　火曜日：TUE　水曜日：WED　木曜日：THU　金曜日：FRI　土曜日：SAT 接点入力等の状態： 123456789T 12345678 ← 接点入力1～8の異常の継続 9 ← バッテリ電圧低下の継続 T ← 停電の継続 ※異常がない接点入力は「0」となります。バッテリ電圧低下、停電についても同様です。

ｅｎｄ 通信を終了する。	
機能	通信を終了し、回線を切ります。
文法	end ⏎
レスポンス	end^FCS ⏎
解説	通信を終了するとき、このコマンドを使用します。
備考	

■エラー出力

ＳＣ－８５Ｘが受信したコマンドにエラーがある場合、次のレスポンスを返します。

what？ 受信したコマンドライン＾ＦＣＳ ↵

ＳＣ－８５Ｘがこのレスポンスを返すのは、次のようなコマンドを受信したときです。

①未知のコマンドを受信したとき。
②コマンドに不正なパラメータが付加されていたとき。

このレスポンスをパソコン側が受信した場合、もう一度コマンド内容を確認の上、再送信してください。

正しくお使いください

●パソコン側のモデムがデータリンク確立に時間がかかる場合、パソコン側は“Type...”を受信できないことがあります。
パソコン側のモデムで通信速度を自動認識させている場合、パソコン側のモデムの通信規格はITU－T V.21に設定し直してください。
通信速度の自動認識はあまりお薦めできません。

●ＳＣ－８５Ｘではログイン手順（通信のはじめにログイン名やパスワードを要するタイプ）はサポートしていません。

6-7 DTMFコマンド受信機能

DTMF (Dual Tone Multi Frequencies) とは、プッシュホン電話機や携帯電話機から出力される「ピポパ」音のことです。

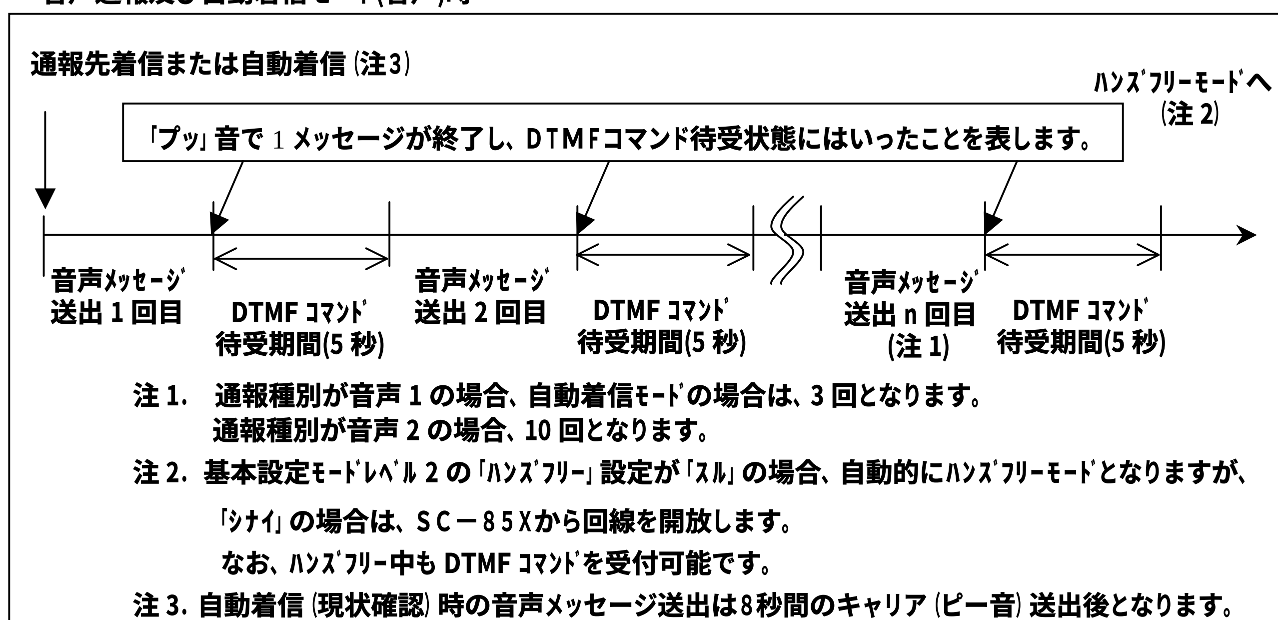
SC−85Xは、音声通報または、音声による自動着信モード (現状確認) のときに、DTMFコマンドモードに入り、DTMFコマンドを受信することで、任意音声の録音／再生、遠隔出力、ハンズフリー等を制御することができます。

電話機への音声通報中または、音声による自動着信 (現状確認) 時に、音声メッセージ1回分を送出した後、「プッ」音でメッセージが終了し、DTMFコマンド待受状態に入ったことを表します。この5秒間のDTMFコマンド待受期間中にコマンドモード移行コマンドを入力します。

この間コマンドモード移行コマンドをSC−85Xが受信しない場合、2回目の通報メッセージを送出し、再び5秒間のDTMFコマンド待受期間となります。

詳細は下記の様になります。

音声通報及び自動着信モード(音声)時



注 1.　通報種別が音声 1 の場合、自動着信ﾓｰﾄﾞの場合は、3 回となります。
通報種別が音声 2 の場合、10 回となります。

注 2.　基本設定ﾓｰﾄﾞﾚﾍﾞﾙ 2 の「ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ」設定が「ｽﾙ」の場合、自動的にﾊﾝｽﾞﾌﾘｰﾓｰﾄﾞとなりますが、「ｼﾅｲ」の場合は、SC−85Xから回線を開放します。
なお、ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ中も DTMF ｺﾏﾝﾄﾞを受付可能です。

注 3.　自動着信 (現状確認) 時の音声メッセージ送出は8秒間のキャリア (ピー音) 送出後となります。

また、次ページに示すDTMFコマンドのうち、一部には、暗証番号の入力が必要な機能もあり、第3者による誤操作を防止できます。

次ページにDTMFコマンドの一覧を記載します。

正しくお使いください

- ●DTMFコマンドは自動着信 (現状確認) 時も有効です。(ただし、同時通報終了コマンド (次ページ記載) は、自動着信時は無効 (プップップッ音) となります。
- ●DTMFコマンドを送る際は、1つのコマンド入力中に間を5秒以上空けないでください。5秒以上間を空けるとそのDTMFコマンドはキャンセルされます。
- ●コマンドモードに移行した後は、、有効なコマンドが3分間入力されなければ、SC−85Xは電話回線を切断します。

－ＤＴＭＦコマンド一覧－

ＤＴＭＦコマンド受信時は、正しいコマンドが入力された場合、下記『正常受付時の音声ガイダンス』を、不正なコマンド、キャンセルしたコマンドについては、「プップップッ」と返答します。
また、暗証番号が必要な設定で暗証番号が入力されていない状態で入力された場合、「暗証番号を入力してください」と音声ガイダンスが流れます。

- コマンドモードに移行していない状態では、コマンドモード移行コマンドしか受け付けません。
- ＤＴＭＦコマンドは1回の回線捕捉で何度でも入力可能です。
  （例：回線捕捉→コマンドモード移行→現状確認→遠隔ＯＮ→現状確認→遠隔ＯＦＦ→回線断）

暗証番号の入力が不要なコマンド

コマンド名	動作内容	電話機からの操作	正常受付時の音声ガイダンス
コマンドモード	コマンドモードに移行し、音声の送出を停止します。	[*]を2回押します。	「コマンドモード」
暗証番号	[暗][証][番][号]（＝[0][0][0][0]～[9][9][9][9]）を入力します。（初期値は[0][0][0][0]です。）	コマンドモードに移行している状態で[#][0][0][暗][証][番][号]の順に押します。（例：[#][0][0][0][0][0][0]）	「プッ」
現状確認	ＳＣ－８５Ｘに入力されている全ての接点入力状態を、音声で確認することができます。	コマンドモードに移行している状態で[#][4][0]の順に押します。	「現在状態を音声で出力」※1
伝言メモ録音	ＳＣ－８５Ｘ内部の[番][号]（＝[0][0]～[0][6]）に伝言メモを録音します。（録音時間は各１０秒間です。）※2	コマンドモードに移行している状態で[#][5][1][番][号][番][号]の順に押します。（[番][号]誤消去防止のため2回入力します。）（例：[#][5][1][0][0][0][0]）	「録音します。プーッ」
伝言メモ再生	ＳＣ－８５Ｘ内部の[番][号]（＝[0][0]～[0][6]）に録音されている伝言メモを再生します。※2	コマンドモードに移行している状態で[#][5][0][番][号]の順に押します。（例：[#][5][0][0][0]）	「録音されている伝言メッセージを出力」
同時通報終了	同時通報を終了します。今回通報できた通報内容は他の同報通報先には通報しないようにします。（データ通報先には通報します。）	コマンドモードに移行している状態で[#][6][0]の順に押します。	「通報終了」
録音・再生終了	伝言メモ・任意音声の録音・再生を終了します。	コマンドモードに移行している状態で[*]を押します。	「プーッ」
回線切断	回線を切断します。	コマンドモードに移行している状態で[#][9][0]の順に押します。	－

暗証番号の入力が必要なコマンド（暗証番号設定が有効の場合）

コマンド名	動作内容	電話機からの操作	正常受付時の音声ガイダンス
暗証番号変更	[暗][証][番][号]を変更します。	コマンドモードに移行している状態で[#][0][1][暗][証][番][号][暗][証][番][号]（＝[0][0][0][0]～[9][9][9][9]）の順に押します。（暗証番号＝（[暗][証][番][号]は誤設定防止のため2回入力します。）（例：暗証番号が０００１の場合[#][0][1][0][0][0][1][0][0][0][1]）	「プッ」
監視開始	監視を開始します。※３	コマンドモードに移行している状態で[#][1][1]の順に押します。	「監視を開始しました」
監視解除	監視を解除します。※３	コマンドモードに移行している状態で[#][1][0]の順に押します。	「監視を解除しました」
ハンズフリーＯＮ	ハンズフリー通話をＯＮし、ハンズフリー通話時間を0からスタートします。既にハンズフリー通話中の場合は、ハンズフリー通話時間を0から再スタートします。	コマンドモードに移行している状態で[#][2][1]の順に押します。	ハンズフリー機能がＯＮとなり、通話可能となります。
ハンズフリーＯＦＦ	ハンズフリー通話をＯＦＦします。	コマンドモードに移行している状態で[#][2][0]の順に押します。	ハンズフリー機能がＯＦＦとなり、通話できなくなります。
遠隔出力ＯＮ（保持）	遠隔出力を継続ＯＮ（保持）します。※４	コマンドモードに移行している状態で[#][3][1]の順に押します。	「遠隔オン」
遠隔出力ＯＦＦ	遠隔出力を強制的にＯＦＦします。※４	コマンドモードに移行している状態で[#][3][0]の順に押します。	「遠隔オフ」
遠隔出力ＯＮ（本体で設定された時間ワンショット）	遠隔出力を本体に設定された時間だけＯＮします。※４	コマンドモードに移行している状態で[#][3][2]の順に押します。	「遠隔オン」
遠隔出力ＯＮ（ＤＴＭＦで設定された時間ワンショット）	遠隔出力をＤＴＭＦで設定された時間だけＯＮします。※４	コマンドモードに移行している状態で[#][3][3][番][号]（＝[0][1]～[９][９]）の順に押します。（単位：秒）	「遠隔オン」
任意音声録音	ＳＣ－８５Ｘ内部の[番][号]（＝[0][0]～[0][8]，[1][1]～[1][3]）に任意音声を録音します。※２※５	コマンドモードに移行している状態で[#][8][1][番][号][番][号]の順に押します。（[番][号]は誤消去防止のため2回入力します。）（例：[#][8][1][0][1][0][1]）	「録音します。プーッ」
任意音声再生	ＳＣ－８５Ｘ内部の[番][号]（＝[0][0]～[0][8]，[1][1]～[1][3]）に録音している任意音声を再生します。	コマンドモードに移行している状態[#][8][0][番][号]の順に押します。（例：[#][8][0][0][0]）	「録音されているメッセージを出力」

※1．基本設定モードレベル2の「現場名音声選択」「入力名音声選択」「状態名音声選択」にて選択された音声となります。また、任意音声に設定されていた場合、任意音声の登録が必要です。

※2．伝言メモ・任意音声の録音・再生を終了した時には、「プーッ」という信号音を出します。
また、録音した音声に信号音は含まれません。

※3．セキュリティモードでのみ有効なコマンドです。SC－85Xの接点入力とは後入力信号となります。
特殊設定モードでの遠隔監視解除操作が無効に設定されている場合は、監視解除コマンド[#][1][0]は受け付けません。
セキュリティモードの考え方については、5－4特殊設定モード、セキュリティモードの設定のしかたをご参照ください。

※4．特殊設定モードの「遠隔出力時間の設定」も併せてご参照ください。

※5．詳細については「任意音声メッセージの設定」をご参照ください。

伝言メモについて

伝言メモは、音声通報先や外部から電話機を使用して音声を録音／再生する機能です。通報先間の連絡や、異常対処内容などのメモにお使いいただくと便利です。

第7章　トラブルシューティング

トラブルシューティングについて説明します。

7-1 エラー表示とエラーモードについて

TEL ｾｯﾃｲｶﾞｱﾘﾏｾﾝ	通報先電話番号が未設定です。 ➡ 通報先の電話番号を設定してください。（「通話先電話番号の設定のしかた」）
ｾｯﾃｲｼﾃｸﾀﾞｻｲ	設定データの一部または全てが設定されていません。 ➡ 各設定項目の設定内容を確認して、設定し直してください。

7-2 トラブル対応

現象	チェック·原因	対策
接点入力に異常が入ったにも関わらず、通報しない。	電源LEDは点灯していますか？もし、点灯していなければ、電源がONされていないことが考えられます。	電源をONしてください。
	監視中LEDは点灯していますか？ もし、点灯していなければ、次の原因が考えられます。 ① 設定モードまたは特殊設定モードになっている。 ② 監視時間外である。 ③ 監視解除状態になっている。	①監視モードにしてください。 ②監視時間帯を確認してください。(「監視時間帯の設定のしかた」参照) また、時計が正しく設定されているかどうかも確認してください。(「年月日·時刻の設定のしかた」参照) ③セキュリティモードになっているか確認してください。(「セキュリティモードの設定のしかた」参照) もし、動作モードがセキュリティモードになっていれば、監視開始を入力してください。 また、セキュリティ監視対象接点の設定内容も確認してください。(「セキュリティ監視対象接点の設定のしかた」参照)
	入力LEDは点灯していますか？ もし、点灯しなければ、接点入力の判定時間が長すぎることが考えられます。	接点入力の判定時間を適切な長さに設定してください。(「接点入力判定条件の設定のしかた」参照)
	入力LEDが点灯しているのに、通報しない？	入力した接点の通報先設定が適切か確認してください。 通報先の電話番号が正しく設定されているか確認してください。
	通信中LEDが点灯しているのに、通報しない？ ① 回線設定が間違っている。 ② 回線に異常がある。 ③ ISDN 回線に直接接続している。	① 回線種別(ダイヤル/プッシュ)を正しく設定してください。 ② 回線自体に問題がないか確認してください。(NTT規格準拠外のPBX使用、話中、断線など) ③ 本機をデジタル回線に直接接続することはできません。故障の原因となりますのでご注意ください。尚、デジタル回線にはターミナルアダプタ(TA)を使用し、そのアナログポートへ接続してください。 動作確認済TA (2000 年 10 月現在) INSﾒｲﾄ V－30DSU(NTT) Aterm IT40/D(NEC) MT128II-D(ｵﾑﾛﾝ) MT128-D/R(V) (ｵﾑﾛﾝ)

現象	チェック･原因	対策
接点入力に異常が入ったにも関わらず、通報しない。 電話での通報で音声合成メッセージがおかしい。 もしくは、音声合成メッセージが聞こえない。	通信中LEDは点灯していますか？ もし、点灯しなければ、つぎの原因が考えられます。 ① 接点入力に通報先が設定されていない。（「接点入力判定条件の設定のしかた」参照） ② 通報先の電話番号が設定されていない。（「通報先電話番号の設定のしかた」参照） ③ 併設電話が使用中である。	①接点入力の通報先を設定してください。 ②通報先の電話番号が設定されているか確認してください。 ③併設電話機の受話器を置いてください。
	通報先種別は音声1または2になっていますか？（「通報先種別の設定のしかた」参照）	通報先種別を音声1または2にしてください。
	ＰＢＸ（内線）を介して通報していますか？	「もしもし」と言ってください。ＳＣ－８５Ｘは通報先からの音声を認識して、相手が着信したと判断し、音声合成メッセージを送出します。
	基本設定モードレベル2で現場名／入力名／状態名の音声選択設定が正しく設定されていますか？ 任意音声設定の場合、正しく録音されていますか？	ご用途に合うように設定してください。 任意音声の場合、メッセージを録音してください。
	ＰＢＸ（内線）の場合、回線の電気的条件は、ＮＴＴ回線の仕様に準拠していますか？	回線の電気的条件をＮＴＴ回線の仕様に準拠したものにしてください。詳しくはＰＢＸの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。
データ通報でパソコン側が着信しない。	パソコン側のモデムは自動着信を行うよう設定されていますか？ パソコン側のモデムの着信呼出回数の値は適切ですか？	自動着信を行うよう設定し直してください。 着信呼出回数を適切な値に設定し直してください。
データ通報時、パソコンへの通報データがおかしい。もしくは、データが来ない。	通報先種別は「データ」になっていますか？	通報先種別を「データ」にしてください。
	パソコン側のモデムや通信アプリケーションの設定はITU－T V．21の規格に準拠していますか？通信仕様はＳＣ－８５Ｘのインターフェース仕様と合っていますか？	パソコン側のモデムおよび通信アプリケーションを設定し直してください。
	ＰＢＸ（内線）の場合、回線の電気的条件は、ＮＴＴ回線の仕様に準拠していますか？	回線の電気的条件をＮＴＴ回線の仕様に準拠したものにしてください。詳しくは、ＰＢＸの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。

現象	チェック・原因	対策
電話またはパソコンによる呼出に対して着信応答しない。	電源ＬＥＤは点灯していますか？ もし点灯していなければ、電源がＯＮされていないことが考えられます。	電源をＯＮしてください。
	監視中ＬＥＤは点灯していますか？ もし点灯していなければつぎの原因が考えられます。 ①動作上のエラーが発生している。 ②基本設定モードまたは特殊設定モードになっている。 ③監視時間外である。	① ＬＣＤにエラーメッセージが表示されますので、「7-1 エラー表示とエラーモードについて」でそれぞれのエラーにしたがって、対策を講じてください。 ② 監視モードにしてください。 ③ 監視時間帯を確認してください。（「監視時間帯の設定のしかた」参照）また、時計が正しく設定されているかどうかも確認してください。（「年月日・時刻の設定のしかた」参照）
	現状確認は「あり」になっていますか？ 呼出音回数は適切な値になっていますか？（「現状確認の設定のしかた」参照）	現状確認を「あり」に設定してください。呼出音回数を適切な値に設定してください。
	ＰＢＸ（内線）の場合、回線の電気的条件は、ＮＴＴ回線の仕様に準拠していますか？	回線の電気的条件をＮＴＴ回線の仕様に準拠したものにしてください。詳しくは、ＰＢＸの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。
ＤＴＭＦコマンドを受けつけない。	電話機の回線設定がダイヤルパルスになっていませんか？ コマンドモードになっていますか？ 暗証番号が設定されていませんか？	トーン（ＤＴＭＦ）送出切換方法を電話機の取扱説明書でご確認ください。 コマンドモード移行操作を行ってください。 暗証番号が設定されている場合は先に暗証番号を入力してください。
ハンズフリー通話ができない。	集音マイク、外部スピーカは ・正しく接続されていますか？ ・電源はＯＮしていますか？ ・ボリュームが絞られていませんか？	正しく接続してください。 尚、使用する集音マイクと外部スピーカには電源が必要です。 また、適正なボリューム調整を行ってください。
	集音マイク、外部スピーカがハウリングを起こしている。 ※ハウリングとは： スピーカから出た音をマイクが拾い循環してしまう現象のことです。	集音マイク或いは、外部スピーカがハウリングを起こさなくなるようボリューム調整を行うか、設置距離を遠ざける、向きを変えるなどを行ってください。
履歴確認でＥｒｒ－０１となる。（通報先不応答によるものです）	通報先は応答していますか？	通報先の電話番号を確認してください。 データ通報の場合、通報先のパソコンの状態を確認してください。
履歴確認でＥｒｒ－０２となる。（通報先話中音検出によるものです）	通報が話中か受話機が上がっていませんか？	頻繁に続くようであれば通報先の状態を確認してください。

現象	チェック・原因	対策
履歴確認で Err-03となる。 (回線設定エラー)	回線種別の設定は正しいですか？ PBXで使用されていませんか？ 回線は正しく接続されていますか？	お客様の回線種別をご確認のうえ、正しく設定してください。(「回線種別の設定のしかた」参照) 回線の電気的条件をNTT回線の仕様に準拠したものにしてください。詳しくは、PBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。 LINEに正しく回線が接続されているか確認してください。
履歴確認で Err-10、11となる。 (データ通報通信手順エラー)	データ通報先のパソコンとの通信手順に問題ありませんか？	パソコン側のソフトを確認してください。
履歴確認で Err-99となる。 (その他のエラーが起こる。 (本体制御エラー))	ー	電源を入れ直してください。 それでも回復しないときは、最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。
通報時電話のベルは鳴るが、受話器を取ると切れてしまう。	ピンク電話回線に接続されている。 ※ピンク電話回線とは: コインやカード式の公衆電話用の回線です。	アナログ2線式電話回線で使用してください。ピンク電話回線では課金システムが異なる為、使用出来ません。
意図しない時、定期通報される。	監視モードの時、メンテナンスボタン(決定キー)を3秒以上、長押ししていませんか？	メンテナンスボタン(決定キー)操作を確認してください。
メンテナンスボタン(決定キー)を長押ししても定期通報されない。	定期通報設定されていますか？	定期通報を「スル」の設定にし、通報先も正しく設定してください。
	何かのキーが押されていませんか？	メンテナンスボタン(決定キー)を含め全てのキー入力をOFFして、再度メンテナンスボタン(決定キー)を3秒以上長押ししてください。
	通報形態の設定が「ジュンジ」となっていませんか？	複数の定期通報先を設定している場合には、通報形態を「ドウジ」に設定すると、より確実に通報されます。

第8章　保守

保守について説明します。

8-1 停電用内部電池の交換

ＳＣ－８５Ｘでは停電用内部電池が保守対象品になっています。ご購入後、3年を経過しましたら、交換してください。

交換時に液もれ等の異常がある場合は直接触らないでください。

また、電池の取扱説明書の注意事項などもあわせてご確認ください。

■停電用内部電池

●品名　電池セット

●形式　Ｋ５Ｓ－ＢＡＴ１

■交換方法

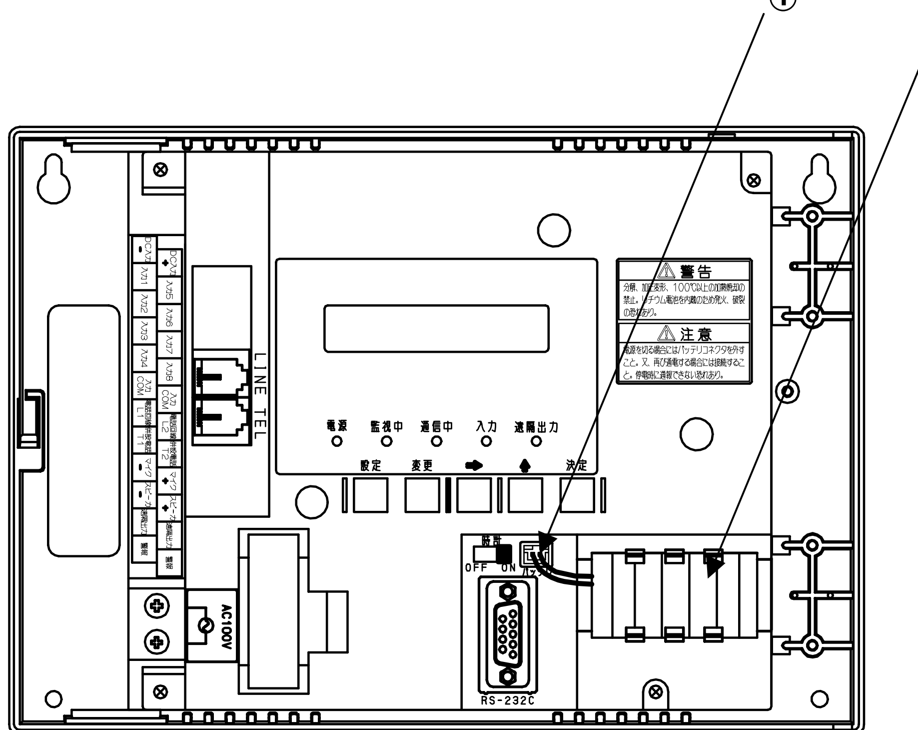
つぎの順序で交換してください。

(1)　停電用内部電池のコネクタ①をはずします。

(2)　電池ホルダ②から停電用内部電池を取り出します。

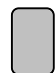
(3)　新しい停電用内部電池を電池ホルダ②に取り付けます。

(4)　停電用内部電池のコネクタ①を接続します。
　　カチッと音がするまで差し込んでください。



第９章　付録

■仕様
■停電用外部電池について
■集音マイク
■外部スピーカ
■設定手順一覧表
■設定内容チェックシート
■保証書



仕様

■性能仕様

項目	仕様
異常入力	無電圧接点またはトランジスタ入力：8点 判定時間： 0.2/0.5/1/2/5/10/20/50/100 秒 極性： A接点／B接点
使用回線	種類： 一般電話回線、構内回線（内線側： アナログ2線式） 使用回線数： 1 回線種別： ダイヤルパルス方式／プッシュボタン方式
併設電話	1台
通報先登録数	データ・音声・通報先電話番号： 最大5件
通報先種別	音声1，音声2（電話機） データ（パソコン＋モデム）
異常通報	接点入力1～8、時計用バッテリ電圧低下、停電
復旧通報	接点入力1～8、停電
定期通報	時刻： 00：00～23：59 周期： 1／7／14／28日 曜日： 日曜日～土曜日
接点監視開始通報	セキュリティモード時で接点入力8をオープン
接点監視解除通報	セキュリティモード時で接点入力8をクローズ
監視時間帯	通常モード時で有効 監視開始時刻 00：00～23：59 監視終了時刻 00：00～23：59
時計	停電補償機能あり 00／01／01 00：00 ～ 99／12／31 23：59
停電用内部電池	停電時動作補償時間（at 23℃） 全入力A接点使用時、30分監視、2回通報処理（停電通報を含む） 全入力B接点使用時、15分監視、2回通報処理（停電通報を含む） 充電時間（at 23℃）：60時間 停電用外部電池接続可 （外部電池への充電、及び外部電池から内部電池への充電は不可）
メモリ	設定内容および異常通報内容は無通電時も保持（フラッシュメモリ使用）

■一般仕様

項目	仕様
電源電圧	ＡＣ１００Ｖ（－１５％～＋１０％，５０／６０Ｈｚ） ＤＣ１２Ｖ～２４Ｖ（１０．５～２６．４Ｖ）
使用温度範囲	－１０～＋５５℃ ※停電時の動作規定は性能仕様による。
使用周囲湿度	３５％～８５％ＲＨ（結露しないこと）
使用周囲雰囲気	屋内 腐食性ガス、爆発性ガス、塵埃のないこと
保存温度	－２０～＋６５℃
消費電力	５ＶＡ以下
絶縁抵抗	２０ＭΩ以上　ＤＣ５００Ｖメガ 外部端子一括－ケース間
耐電圧	ＡＣ１５００Ｖ　１分間　外部端子一括－ケース間 入力端子一括－電源端子間
質量	約０．９ｋｇ

停電用外部電池について

■推奨電池

停電用外部電池にはつぎの製品をおすすめします。

メーカ	形式	容量	補償時間
湯浅電池㈱	NPH16-12	16Ah	約 80 時間
ｼﾞｰ･ｴｽ･ｴｽ･ﾊﾞｯﾃﾘｰ㈱	PE12V10	10Ah	約 50 時間

■停電補償時間の計算方法

停電補償時間はつぎの計算式で得られたものを目安にしてください。

電池容量 [Ah] ÷ 0.2 [A] ＝ 停電補償時間 [h]

例：電池容量が２０Ah のものを使用するとき

20 [Ah] ÷ 0.2 [A] ＝ 100 [h]

集音マイク

集音マイクを接続すると、音声通報先の電話機から現場の状況を音により察知することができます。
また、外部スピーカと併用することにより、現場との簡易的な通話も可能です。 （簡易的な通話機能ですので、ハウリングを防ぐために適切な設置場所の選定と集音マイク、および外部スピーカのボリューム調整が必要です。）
※別途電源供給が必要です。仕様や配線については集音マイクの取扱説明書をご参照ください。

推奨品

●集音マイク　ＳＭ－１，ＳＭ－２	竹中エンジニアリング（株）製
・電源電圧	ＤＣ８～１５Ｖ
・消費電流	5mA以下
・最大配線長	２０m（シールド線）
・負荷インピーダンス	６００Ω
・出力	①ライン設定（L側） 　－３３ｄＢ±６ｄＢ（ボリュームにて可変） ②マイク設定（M側） 　－６２ｄＢ±６ｄＢ（ボリュームにて可変）
・使用温度範囲	－１０～＋５０℃

外部スピーカ

外部スピーカを接続すると、音声通報先から現場への指示や、侵入者への肉声による威嚇が可能となります。
※別途電源供給が必要です。仕様や配線については外部スピーカの取扱説明書をご参照ください。

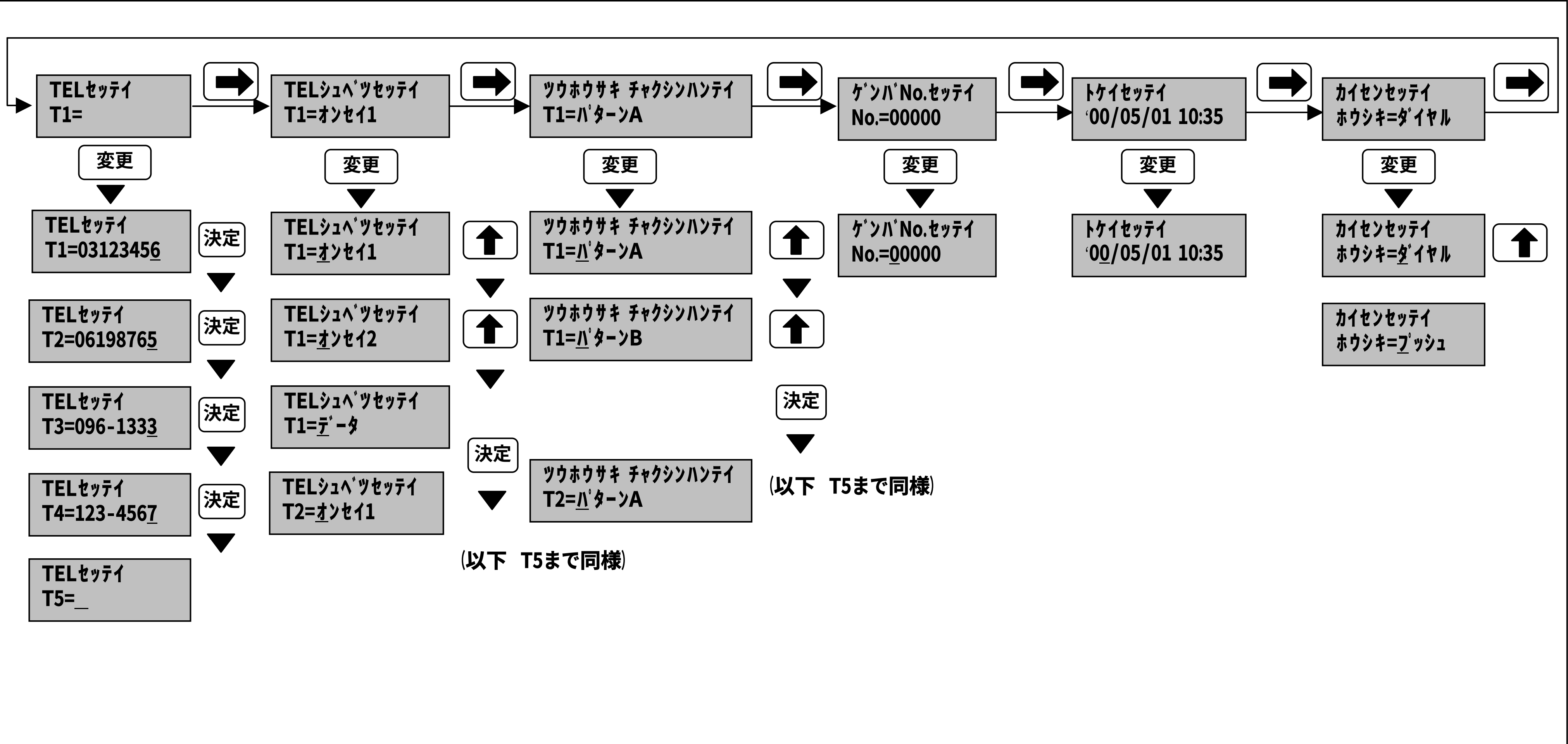
推奨品

●アンプ内蔵スピーカ　ＳＰ－６００Ａ	竹中エンジニアリング（株）製
・電源電圧	ＤＣ１０．５～１８Ｖ
・消費電流	待機時：　5mA以下 鳴動時：　１２０mA以下
・定格出力	約1W
・インピーダンス	６００Ω
・使用温度範囲	0～＋５０℃

設定手順一覧表

セッテイシテクダサイ 、 TELセッテイガアリマセン または [ ] から

設定 ▼ 基本設定モードレベル1



基本設定モードレベル1の状態から

決定 ＋ 設定

基本設定モードレベル2

リトライセッテイ
05

変更

リトライセッテイ
05

ゲンバメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

変更

ゲンバメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

ゲンバメイオンセイセンタク
ニンイオンセイ

ゲンバメイオンセイセンタク
ナシ

ニュウリョクメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

変更

ニュウリョクメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

ニュウリョクメイオンセイセンタク
ニンイオンセイ

ニュウリョクメイオンセイセンタク
ナシ

ジョウタイメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

変更

ジョウタイメイオンセイセンタク
コテイオンセイ

ジョウタイメイオンセイセンタク
ニンイオンセイ

ジョウタイメイオンセイセンタク
ナシ

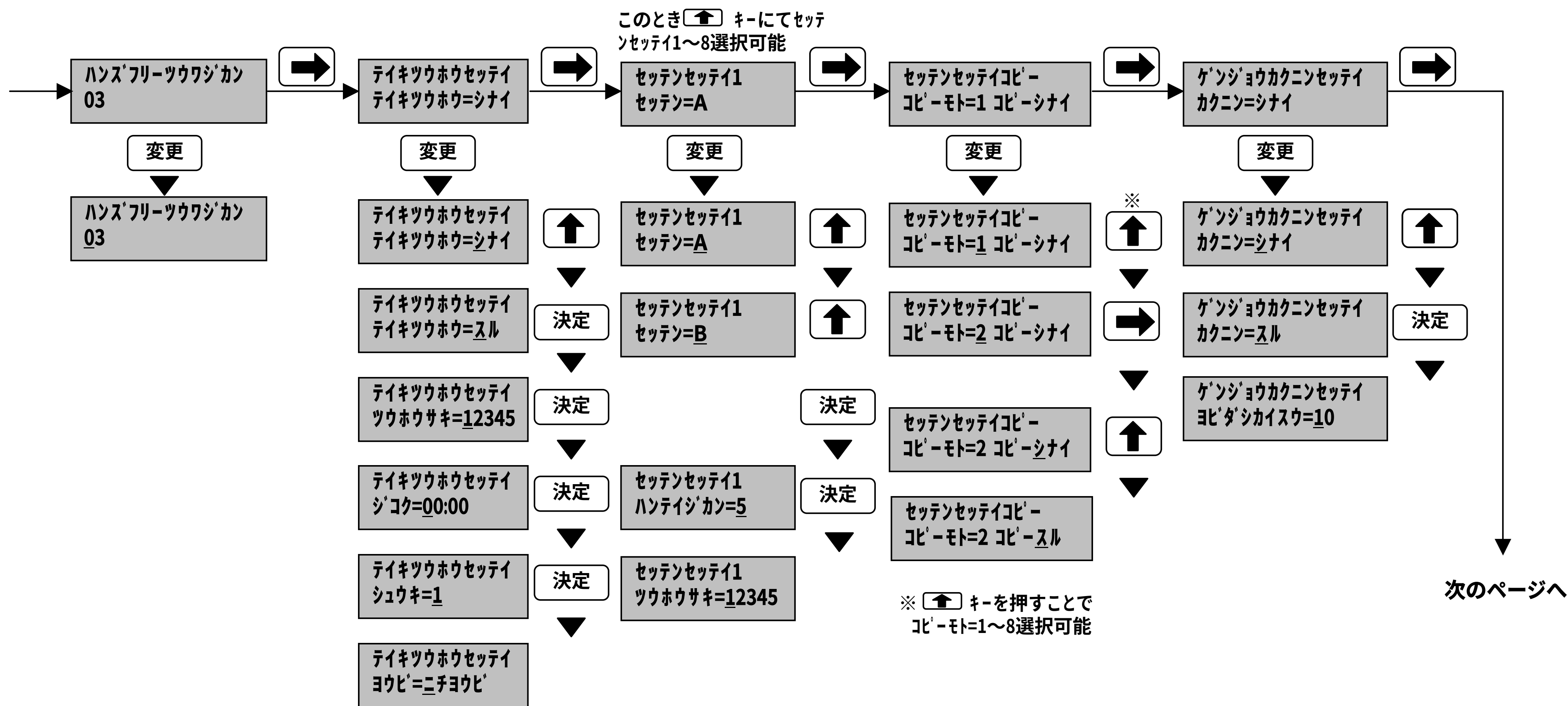
ハンズフリーセッテイ
シナイ

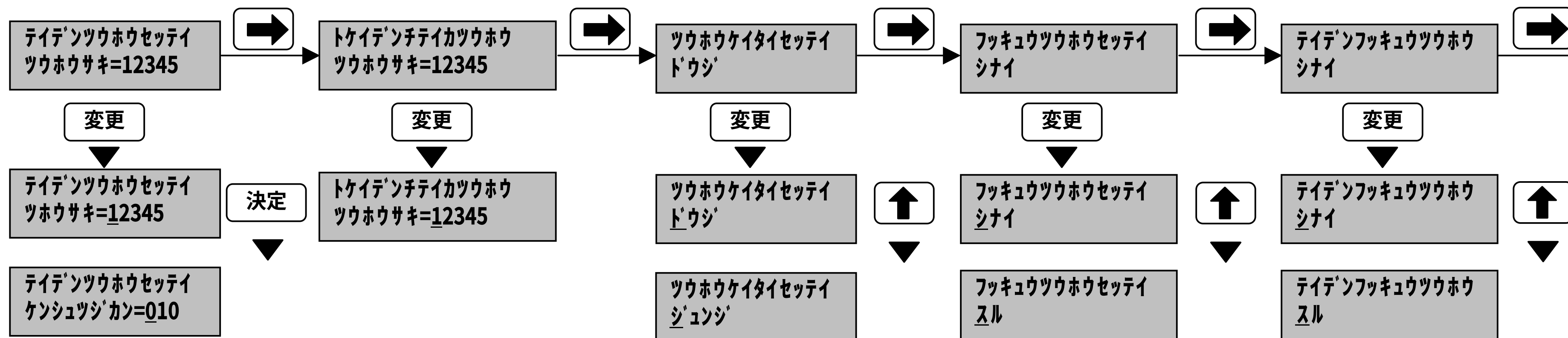
変更

ハンズフリーセッテイ
シナイ

ハンズフリーセッテイ
スル

次のページへ


このとき キーにてｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1～8選択可能
ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰﾂｳﾜｼﾞｶﾝ 03
変更
ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰﾂｳﾜｼﾞｶﾝ 03
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ﾃｲｷﾂｳﾎｳ=ｼﾅｲ
変更
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ﾃｲｷﾂｳﾎｳ=ｼﾅｲ
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ﾃｲｷﾂｳﾎｳ=ｽﾙ
決定
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ﾂｳﾎｳｻｷ=12345
決定
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ｼﾞｺｸ=00:00
決定
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ｼｭｳｷ=1
決定
ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ ﾖｳﾋﾞ=ﾆﾁﾖｳﾋﾞ
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1 ｾｯﾃﾝ=A
変更
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1 ｾｯﾃﾝ=A
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1 ｾｯﾃﾝ=B
決定
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1 ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=5
決定
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ1 ﾂｳﾎｳｻｷ=12345
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ ｺﾋﾟｰﾓﾄ=1 ｺﾋﾟｰｼﾅｲ
変更
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ ｺﾋﾟｰﾓﾄ=1 ｺﾋﾟｰｼﾅｲ
※
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ ｺﾋﾟｰﾓﾄ=2 ｺﾋﾟｰｼﾅｲ
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ ｺﾋﾟｰﾓﾄ=2 ｺﾋﾟｰｼﾅｲ
ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲｺﾋﾟｰ ｺﾋﾟｰﾓﾄ=2 ｺﾋﾟｰｽﾙ
※ キーを押すことでｺﾋﾟｰﾓﾄ=1～8選択可能
ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ ｶｸﾆﾝ=ｼﾅｲ
変更
ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ ｶｸﾆﾝ=ｼﾅｲ
ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ ｶｸﾆﾝ=ｽﾙ
決定
ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ ﾖﾋﾞﾀﾞｼｶｲｽｳ=10
次のページへ



ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ
ｶｲｼ=00:00
変更
ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ
ｶｲｼ=00:00
決定
ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ
ｶｲｼ=00:00
ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ
ｼｭｳﾘｮｳ=00:00

ﾆｭｳﾘｮｸLEDｸﾘｱｾｯﾃｲ
ｼﾞﾄﾞｳ
変更
ﾆｭｳﾘｮｸLEDｸﾘｱｾｯﾃｲ
ｼﾞﾄﾞｳ
ﾆｭｳﾘｮｸLEDｸﾘｱｾｯﾃｲ
ｼｭﾄﾞｳ

ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｾﾝﾀｸ
ﾜﾝｼｮｯﾄ
変更
ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｾﾝﾀｸ
ﾜﾝｼｮｯﾄ
ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｾﾝﾀｸ
LEDﾄﾞｳｷ

ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ
ｼﾞｶﾝ=5
変更
ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ
ｼﾞｶﾝ=5

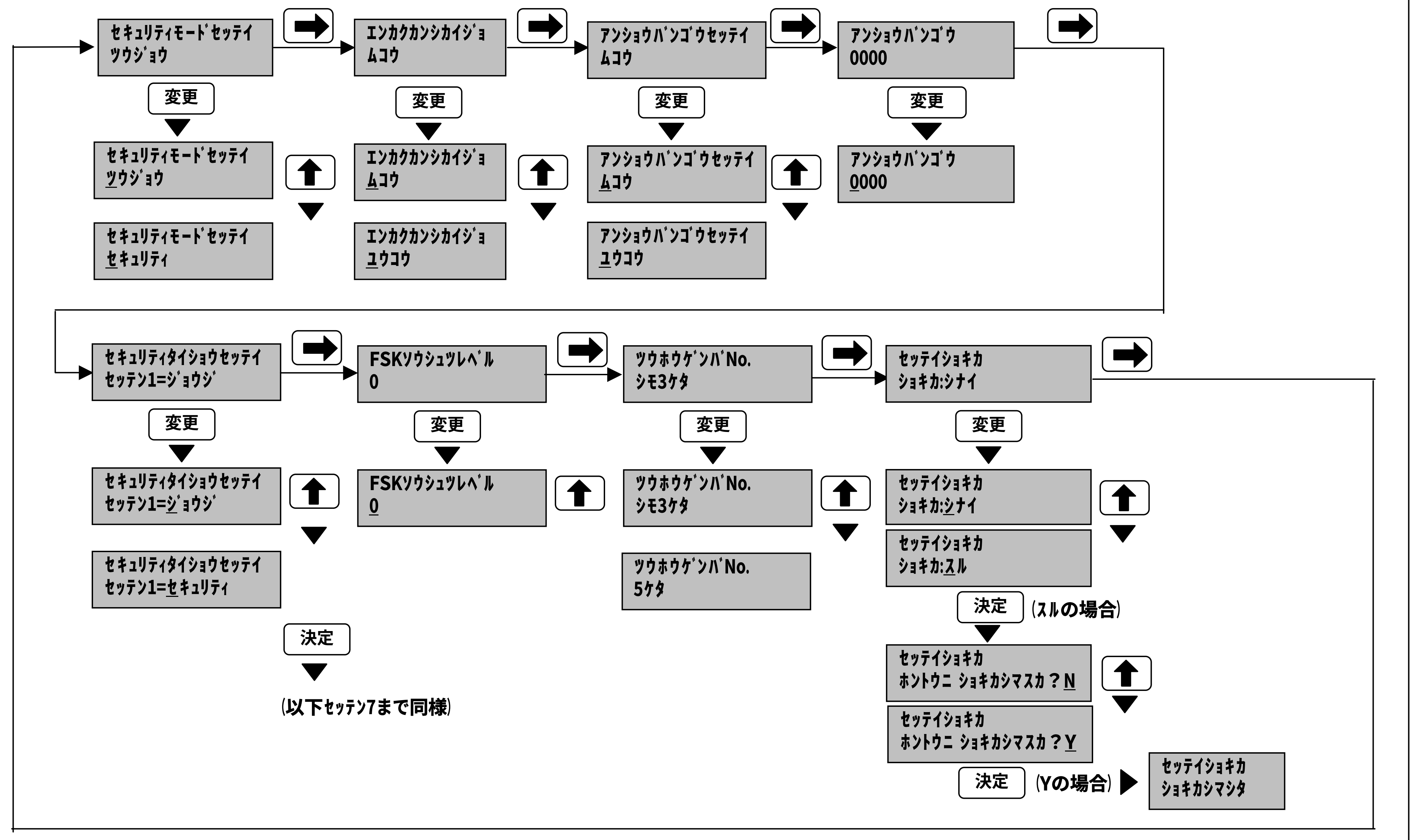
ｴﾝｶｸｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ
ｼﾞｶﾝ=5
変更
ｴﾝｶｸｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ
ｼﾞｶﾝ=5

ﾘﾄﾗｲｾｯﾃｲ に戻る

ｾｯﾃｲｼﾃｸﾀﾞｻｲ 、 TELｾｯﾃｲｶﾞｱﾘﾏｾﾝ または から

決定 ＋ ➡ ＋ 設定 ※約3秒間押し続ける

特殊設定モード



ー設定内容チェックシートー

ご使用の際に設定された内容をご記入ください。お問い合わせなどの際にも役立ちます。

・基本設定モードレベル1

設定項目		初期値	設定内容
通報先電話番号 (TEL ｾｯﾃｲ)	第1通報先 (T1=)		
	第2通報先 (T2=)		
	第3通報先 (T3=)		
	第4通報先 (T4=)		
	第5通報先 (T5=)		
通報先種別	(TEL ｼｭﾍﾞﾂｾｯﾃｲ)	ｵﾝｾｲ 1	□ｵﾝｾｲ 1 □ｵﾝｾｲ 2 □ﾃﾞｰﾀ
通報先着信判定	(ﾂｳﾎｳｻｷ ﾁｬｸｼﾝﾊﾝﾃｲ)	ﾊﾟﾀｰﾝ A	□ﾊﾟﾀｰﾝ A □ﾊﾟﾀｰﾝ B
現場 No.	(ｹﾞﾝﾊﾞ No.ｾｯﾃｲ)	00000	
回線種別	(ｶｲｾﾝｾｯﾃｲ)	ﾀﾞｲﾔﾙ	□ﾌﾟｯｼｭ □ﾀﾞｲﾔﾙ

・基本設定モードレベル2

設定項目			初期値	設定内容
リトライ回数		(ﾘﾄﾗｲｾｯﾃｲ)	05	
現場名音声選択		(ｹﾞﾝﾊﾞﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ)	ｺﾃｲｵﾝｾｲ	□ｺﾃｲｵﾝｾｲ □ﾆﾝｲｵﾝｾｲ □ﾅｼ
入力名音声選択		(ﾆｭｳﾘｮｸﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ)	ｺﾃｲｵﾝｾｲ	□ｺﾃｲｵﾝｾｲ □ﾆﾝｲｵﾝｾｲ □ﾅｼ
状態名音声選択		(ｼﾞｮｳﾀｲﾒｲｵﾝｾｲｾﾝﾀｸ)	ｺﾃｲｵﾝｾｲ	□ｺﾃｲｵﾝｾｲ □ﾆﾝｲｵﾝｾｲ □ﾅｼ
ハンズフリー設定		(ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰｾｯﾃｲ)	ｼﾅｲ	□ｽﾙ □ｼﾅｲ
ハンズフリー通話時間		(ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰﾂｳﾜｼﾞｶﾝ)	03	
定期通報 (ﾃｲｷﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ)		定期通報 (ﾃｲｷﾂｳﾎｳ=)	ｼﾅｲ	□ｽﾙ □ｼﾅｲ
		通報先 (ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1 □2 □3 □4 □5
		時刻 (ｼﾞｺｸ=)	00:00	:
		周期 (ｼｭｳｷ)	1	□1 □7 □14 □28
		曜日 (ﾖｳﾋﾞ)	ﾆﾁﾖｳﾋﾞ	
接点入力判定条件 (ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ)	1	発生論理 (ｾｯﾃﾝ=)	A	□A □B
		判定時間 (ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2 □0.5 □1 □2 □5 □10 □20 □50 □100
		通報先 (ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1 □2 □3 □4 □5
	2	発生論理 (ｾｯﾃﾝ=)	A	□A □B
		判定時間 (ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2 □0.5 □1 □2 □5 □10 □20 □50 □100
		通報先 (ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1 □2 □3 □4 □5
	3	発生論理 (ｾｯﾃﾝ=)	A	□A □B
		判定時間 (ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2 □0.5 □1 □2 □5 □10 □20 □50 □100
		通報先 (ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1 □2 □3 □4 □5
	4	発生論理 (ｾｯﾃﾝ=)	A	□A □B
		判定時間 (ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2 □0.5 □1 □2 □5 □10 □20 □50 □100
		通報先 (ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1 □2 □3 □4 □5

設定項目			初期値	設定内容
接点入力判定条件 (ｾｯﾃﾝｾｯﾃｲ)	5	発生論理　(ｾｯﾃﾝ=)	A	□A　□B
		判定時間　(ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2　□0.5　□1　□2　□5　□10　□20 □50　□100
		通報先　(ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
	6	発生論理　(ｾｯﾃﾝ=)	A	□A　□B
		判定時間　(ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2　□0.5　□1　□2　□5　□10　□20 □50　□100
		通報先　(ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
	7	発生論理　(ｾｯﾃﾝ=)	A	□A　□B
		判定時間　(ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2　□0.5　□1　□2　□5　□10　□20 □50　□100
		通報先　(ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
	8	発生論理　(ｾｯﾃﾝ=)	A	□A　□B
		判定時間　(ﾊﾝﾃｲｼﾞｶﾝ=)	5	□0.2　□0.5　□1　□2　□5　□10　□20 □50　□100
		通報先　(ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
現状確認 (ｹﾞﾝｼﾞｮｳｶｸﾆﾝｾｯﾃｲ)		確認　(ｶｸﾆﾝ=)	ｼﾅｲ	□ｽﾙ　□ｼﾅｲ
		呼出回数　(ﾖﾋﾞﾀﾞｼｶｲｽｳ=)	10	
停電通報 (ﾃｲﾃﾞﾝﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ)		通報先　(ﾂｳﾎｳｻｷ=)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
		検出時間　(ｹﾝｼｭﾂｼﾞｶﾝ=)	010	
時計電池低下通報		(ﾄｹｲﾃﾞﾝﾁﾃｲｶﾂｳﾎｳ)	12345	□1　□2　□3　□4　□5
通報形態		(ﾂｳﾎｳｹｲﾀｲｾｯﾃｲ)	ﾄﾞｳｼﾞ	□ﾄﾞｳｼﾞ　□ｼﾞｭﾝｼﾞ
復旧通報		(ﾌｯｷｭｳﾂｳﾎｳｾｯﾃｲ)	ｼﾅｲ	□ｽﾙ　□ｼﾅｲ
停電復旧通報		(ﾃｲﾃﾞﾝﾌｯｷｭｳﾂｳﾎｳ)	ｼﾅｲ	□ｽﾙ　□ｼﾅｲ
監視時間帯 (ｶﾝｼｼﾞｶﾝﾀｲｾｯﾃｲ)		監視開始　(ｶｲｼ=)	00:00	:
		監視終了　(ｼｭｳﾘｮｳ=)	00:00	:
入力ＬＥＤクリア		(ﾆｭｳﾘｮｸ LED ｸﾘｱｾｯﾃｲ)	ｼﾞﾄﾞｳ	□ｼﾞﾄﾞｳ　□ｼｭﾄﾞｳ
警報出力選択		(ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｾﾝﾀｸ)	ﾜﾝｼｮｯﾄ	□ﾜﾝｼｮｯﾄ　□LED ﾄﾞｳｷ
警報出力時間		(ｹｲﾎｳｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ)	5	□1.0 □3.0 □5 □10 □30 □60 □90 □120 □180 □240□300
遠隔出力時間		(ｴﾝｶｸｼｭﾂﾘｮｸｼﾞｶﾝ)	5	□1.0 □3.0 □5 □10 □30 □60 □90 □120 □180 □240□300

・特殊設定モード

設定項目		初期値	設定内容
セキュリティモード	(ｾｷｭﾘﾃｨﾓｰﾄﾞｾｯﾃｲ)	ﾂｳｼﾞｮｳ	□ﾂｳｼﾞｮｳ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
遠隔監視解除操作	(ｴﾝｶｸｶﾝｼｶｲｼﾞｮ)	ﾑｺｳ	□ﾕｳｺｳ　□ﾑｺｳ
暗証番号設定	(ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳｾｯﾃｲ)	ﾑｺｳ	□ﾕｳｺｳ　□ﾑｺｳ
暗証番号	(ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳ)	0000	
ｾｷｭﾘﾃｨ監視対象接点 (ｾｷｭﾘﾃｨﾀｲｼｮｳｾｯﾃｲ)	接点1　(ｾｯﾃﾝ 1=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点2　(ｾｯﾃﾝ 2=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点3　(ｾｯﾃﾝ 3=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点4　(ｾｯﾃﾝ 4=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点5　(ｾｯﾃﾝ 5=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点6　(ｾｯﾃﾝ 6=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
	接点7　(ｾｯﾃﾝ 7=)	ｼﾞｮｳｼﾞ	□ｼﾞｮｳｼﾞ　□ｾｷｭﾘﾃｨ
ＦＳＫ送出レベル	(FSK ｿｳｼｭﾂﾚﾍﾞﾙ)	0	□0　□1　□2　□3　□4　□5 □6　□7
通報現場Ｎｏ.	(ﾂｳﾎｳｹﾞﾝﾊﾞ No.)	ｼﾓ 3 ｹﾀ	□ｼﾓ 3 ｹﾀ　□5 ｹﾀ

保 証 書

商品名・形式☆	製造番号☆
補償期間 1年	お買い上げ年月日☆ 年　月　日

お客様☆	ご住所	〒　TEL
	ご芳名	ふりがな 様

☆印の欄に記入のない場合は有効になりませんから、必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合は直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

販売店★	住所・氏名　TEL

★ご販売店様へ
商品名（形式）・製造番号・お買い上げ年月日・貴店名・ご住所・電話番号を記入またはご捺印の上、保証書をお客様にお渡しください。

1. お客様の取扱説明書、本体ラベル等の注意書きによる正常なご使用状態で保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参の上、お買い上げ販売店にご依頼ください。
2. 保証範囲
上記保証期間中に当社側の責任により故障を生じた場合は、その製品の代替品の提供または故障部分の交換あるいは修理を、その製品のご購入あるいは納入場所において無償で行わせていただきます。
但し、つぎに該当する場合は、この保証の対象範囲から除外させていただきます。
①故障の原因が本製品以外の事由による場合
②当社以外の者による改造または修理による場合
③製品本来の使い方以外の使用による場合
④本製品の「ご使用に際してのお願い」事項に反した場合
⑤その他天災、災害など当社側の責任ではない原因による場合
なお、ここでいう保証は、納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。
3. サービスの範囲
本製品の価格には、技術者派遣などのサービス費用は含んでいません。ご要望により、別途ご相談させていただきます。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

●この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
保証期間経過後の修理についてご不明の場合、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

竹中エンジニアリング株式会社
〒607－8156　京都市山科区東野五条通外環西入83－1



竹中センサーグループ

竹中エンジニアリング株式会社

事業本部	〒607-8156	京都市山科区東野五条通外環西入 83-1	TEL(075)594-7211(代)	FAX(075)501-2085
札幌営業所	〒060-0052	札幌市中央区南二条東 2-9 (大都ビル)	TEL(011)281-4641(代)	FAX(011)281-4642
仙台営業所	〒980-0802	仙台市青葉区二日町 16-1 (二日町東急ビル)	TEL(022)268-2411(代)	FAX(022)268-2413
郡山営業所	〒963-8041	郡山市富田町字坦ノ腰 58-1(第 2 ヨコヤマビル)	TEL(024)962-4310(代)	FAX(024)962-4311
高崎営業所	〒370-0848	高崎市鶴見町 1-1 (三井生命高崎ビル)	TEL(027)327-3981(代)	FAX(027)310-8577
さいたま営業所	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町 2-12-3 (土手ビル)	TEL(048)641-8830(代)	FAX(048)641-8825
所沢営業所	〒359-0044	所沢市松葉町 24-3 (新所沢 O･T･A ビル)	TEL(042)991-7255(代)	FAX(042)991-7256
千葉営業所	〒260-0016	千葉市中央区栄町 35-14 (三井生命千葉ビル)	TEL(043)202-2551(代)	FAX(043)202-2552
東京営業所	〒113-0033	東京都文京区本郷 1-11-14 (小倉ビル)	TEL(03)5805-8081(代)	FAX(03)5805-8082
立川営業所	〒190-0023	立川市柴崎町 3-18-30 (東財パステルメゾン立川)	TEL(042)540-1665(代)	FAX(042)540-1666
横浜営業所	〒220-0072	横浜市西区浅間町 1-7-6 (小金井第一ビル)	TEL(045)411-0270(代)	FAX(045)411-0290
長野営業所	〒380-0906	長野市鶴賀七瀬 548-1(ヤマギシビル)	TEL(026)229-8130(代)	FAX(026)229-8133
静岡営業所	〒422-8062	静岡市稲川 3-1-25 (ラ･リベルテ K 2F･B号)	TEL(054)203-5220(代)	FAX(054)203-5219
名古屋営業所	〒464-0075	名古屋市千種区内山 3-12-14 (豊島不動産ビル)	TEL(052)731-7227(代)	FAX(052)731-7225
金沢営業所	〒920-0853	金沢市本町 2-7-1 (越田ビル)	TEL(076)234-7201(代)	FAX(076)234-2401
京都営業所	〒607-8156	京都市山科区東野五条通外環西入 83-1	TEL(075)593-3171(代)	FAX(075)591-5422
大阪営業所	〒530-0044	大阪市北区東天満 1-9-10 (山松興産東天満ビル)	TEL(06)6881-2045(代)	FAX(06)6881-2088
神戸営業所	〒651-0085	神戸市中央区八幡通 3-2-11 (芙蓉ビル東館)	TEL(078)230-6112(代)	FAX(078)230-6113
広島営業所	〒730-0017	広島市中央区鉄砲町 5-21 (ジブラルタ生命ビル)	TEL(082)223-1138(代)	FAX(082)211-1180
高松営業所	〒760-0007	高松市中央町 1-26 (藤沢ビル)	TEL(087)861-6633(代)	FAX(087)861-6608
福岡営業所	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東 1-1-33 (はかた近代ビル)	TEL(092)471-6245(代)	FAX(092)481-1362
熊本営業所	〒862-0954	熊本市神水 1-8-8 (フォレストビル)	TEL(096)387-3911(代)	FAX(096)387-3884
U.S.	(California)	TAKEX AMERICA INC.	TEL 408-747-0100	FAX408-734-1100
U.K.	(London)	TAKEX EUROPE LTD.	TEL 01256-475555	FAX01256-466268
AUS.	(Melbourne)	TAKEX AUSTRALIA.	TEL 03-9546-0533	FAX03-9547-9450

http://www.takex-eng.co.jp/